【教師用指導書】

アイヌ民族：歴史と現在

── 未来を共に生きるために ──



公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

はじめに

アイヌ民族は、日本列島北部周辺、とりわけ北海道に先住し独自の言語や文化を育んできた日本の先住民族です。しかしながら、その歴史や文化についての国民的な理解が十分とは言い難い状況にあることから、当財団では、平成12年度以来、アイヌ民族の歴史や文化について指導する際の副教材として『アイヌ民族：歴史と現在』（以下「副読本」という）を作成し、全国の小中学校などに配布しており、平成19年度にはアイヌ民族の歴史や文化をより身近に感じてほしいとの思いから内容を一新（全面改訂）いたしました。そしてこの度、副読本をより効果的にご活用いただくための教師用指導書を作成いたしました。

アイヌ民族の歴史や文化の国民的な理解を促進するためには、義務教育終了時までに基礎的な知識を習得することが重要であり、児童・生徒の発達段階に応じた指導が可能となるような環境整備がきわめて重要であると考えます。

しかし、現在の学習指導要領や教科書におけるアイヌ民族に関する記述は部分的なものであり十分とは言えません。また、教職員から「アイヌ民族の歴史等に関する指導方法がわからない」などの意見が出されるなど、教育現場の環境は未だに整備されているとは言えない状況です。

一方、平成19年９月には、国際連合総会において「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が採択され、平成20年６月には衆参両院において「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が全会一致で採択されました。この国会決議を受け、政府はアイヌ民族が先住民族であることを認識し、アイヌ政策をこれまで以上に推進するとともに総合的な施策の確立に取り組む考えを示しました。

アイヌ民族の民族としての誇りが尊重される社会を実現するためには、アイヌ民族の歴史や文化への国民的な理解を全力で促進する必要があり、こうした取り組みが我が国の文化の多様な発展につながると考えております。

学校教育の現場は、子どもたちがその歴史や文化を学ぶ、最初の大切な役割を担っており、日々の指導において副読本をご活用いただき、今後、学校現場における新たな取り組みが活発になり、アイヌ民族の歴史や文化についての学習がより深く、実践的に広がることを何よりも強く望みます。

2015年７月

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

1.“アイヌ民族”“アイヌの人たち”という表記について

本文中にアイヌ民族を指す呼称として“アイヌ民族”“アイヌの人たち”と2通りありますが、基本的に、明治時代以降の記述の中では“アイヌ民族”と表現しています。“アイヌの人たち”という表現はその時代区分以前、または、集団としてではなく、個人に関わる事柄を記述する際に使用しています。

アイヌ民族の個人に属することについて記述する中で“アイヌの人たち”と表すのは抽象的な表現ですが、本来“人”を意味する“アイヌ”という言葉が、長い間、アイヌ民族を差別する蔑称として使われていたことから、“アイヌ”とだけ表現されることに抵抗を感じる人がアイヌ民族の中に数多くいるため、そのことに配慮しているものです。

2.アイヌ語の書き方について

アイヌ語には“ㇷﾟ”“ㇷ゚”“ㇰ”“ㇱ”“ㇺ”“ㇻ”“ㇼ”“ㇽ”“ㇾ”“ㇿ”のように、日本語にはない発音があります。例えば“ユカㇻ”の“ㇻ”のように小さく書きます。読むときには軽く発音します(p. 7参照)。

もくじ

【小学生用】
本書の活用にあたって（小学生用） 5

1　アイヌ民族の文化

オリエンテーション 6
1．アイヌ語の地名 8
2．衣服 10
3．食べもの 12
4．住まい 14
5．信こう 16
6．歌とおどり 18
7．楽器 20
8．文芸 22

2　アイヌ民族の歴史

オリエンテーション 24
1．縄文文化からアイヌ文化へ 26
2．コシャマインの戦い 28
3．シャクシャインの戦い 30
4．クナシリ・メナシの戦い 32
5．漁場ではたらくかげで 34
6．北海道の「開拓」とアイヌ民族 36
7．北海道旧土人保護法 38
8．アイヌ協会を作る 40
9．先住民族として 42

3　アイヌ民族の文化と現代社会

1．いろいろな文化が共に生きる社会に ① 44
2．いろいろな文化が共に生きる社会に ② 46
3．アイヌ文化の精神を今に生かす 48

【中学生用】
本書の活用にあたって（中学生用） 51
1．中世の日本とアイヌ民族 52
2．近世の日本とアイヌ民族 54
3．近代の日本とアイヌ民族 56

【巻末資料】
うたってみよう 58



本書の活用にあたって（小学生用）

1．小学生用副読本は、〔①アイヌ民族の文化（19世紀頃に見られた文化を中心としている）②アイヌ民族の歴史　③アイヌ民族の文化と現代社会〕の３部構成をとっています。現在の学習指導要領の中には、直接、アイヌ史・アイヌ文化を扱うように示した文はありませんが、以下のところで扱うことが可能と考えられます。

〔**本書全般にわたって**〕

３～６年生の「総合的な学習の時間」(学習指導要領解説書）の具体例としてあげられている「社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題」としてならば全国どこでも、「地域の人々の暮らし、伝統や文化」としてならば北海道で扱うことができます。

〔**アイヌ民族の文化･アイヌ民族の歴史**〕

北海道の場合、３･４年生の社会科の「地域の歴史」の学習で扱うことができます。

〔**アイヌ民族の文化**〕

５・６年生の「外国語活動」(学習指導要領解説書）には、「日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができる」とあります。もとより、アイヌ文化やアイヌ語は外国の文化、外国の言語ではありませんが、日本の文化、日本の言語の一つとして取り上げることができます。本書巻末に載っているアイヌ語の歌もこの中に入れることができます。

〔**アイヌ民族の歴史**〕

６年生の社会科の歴史学習全体の中で、和人の歴史と比較しながら扱うことができます。

〔**アイヌ民族の文化と現代社会**〕

６年生の社会科で､憲法学習の「基本的人権の尊重」の一つとして取り上げることができます。

2．本書の使い方は次のとおりです。

⑴　授業展開例

〔**本時のねらい**〕

本時で理解させたい要点

〔**指導のポイント**〕

本時のねらいに達するため「この視点、この事実はおさえてほしい」こと

〔**活動の流れ**〕

指導の展開例

〔**板書例**〕

〔**その裏には**〕

本時の内容の裏話やその背景にある事実

⑵　さらに深めるために

〔**本文中の赤文字**〕

用語や補足説明

〔**資料･用語･補足説明**〕

その節の発展内容や史実を示す重要資料。なお、古文献からの引用にあたっては、利用しやすいように現代語訳で掲載しています。

オリエンテーション

本時のねらい

イラストを通して、動物や自然に関するアイヌ語に興味を持たせながら、アイヌ民族の文化や歴史に関心を持つようにする。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

イラストを見て、アイヌ語や動植物、自然などについて気づいたことを自由に話し合う。

☆発問１

イラストを見て気づいたことはありますか。

＊予想される反応

○どこの言葉かな？

○小さいカタカナの読み方は？

○知っている言葉があるよ。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

赤い文字の言葉が何を表すものか、イラストをもとに考える。

☆発問１

赤い文字の意味をイラストを見ながら当ててみよう。

＊授業で使えるアイヌ語

こんにちは／　イランカラプテ

ありがとう／　イヤイライケレ

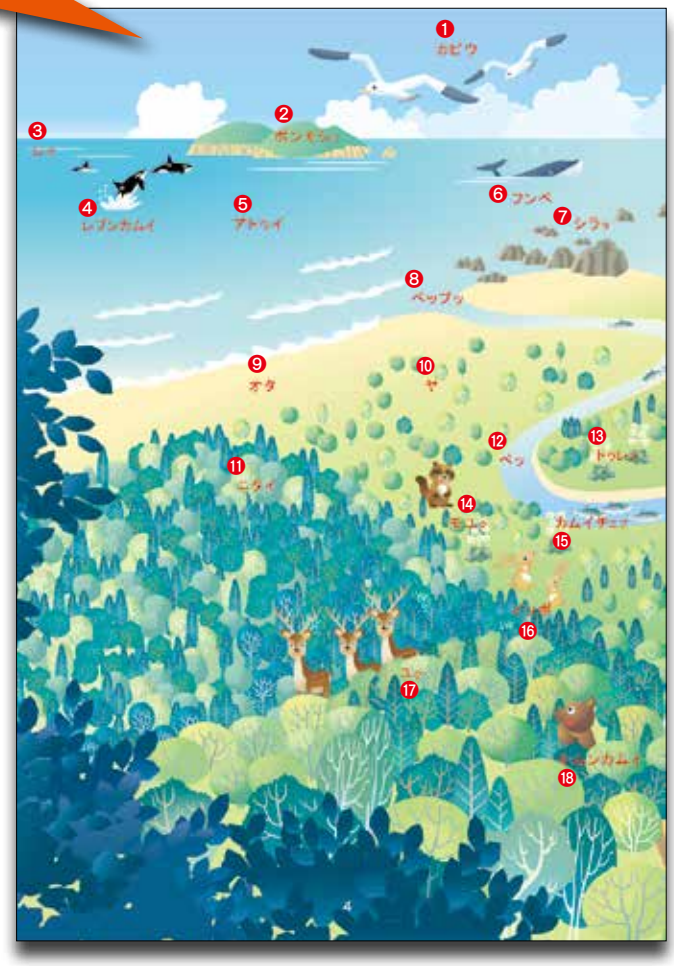
正解です／　ピリカ

さようなら／　スイ　ウヌカラ　アン　ロ

（また会いましょう）

【アイヌ語の日本語訳】

❶カモメ　❷島、小島　❸沖　❹シャチ　❺海　❻クジラ
❼岩、大きな石、海辺の岩　❽川口、河口　❾砂、砂浜
❿陸地、おか　⓫林　⓬川　⓭ウバユリ　⓮タヌキ
⓯サケ　⓰ウサギ　⓱シカ　⓲クマ　⓳空　⓴雲　㉑山
㉒崖　㉓港、入り江　㉔板つづり船　㉕イヌ
㉖シマフクロウ　㉗家　㉘祭壇　㉙舟、丸木舟
㉚倉庫、食糧庫　㉛子熊飼育檻
㉜つきかぎ（p. 13“指導のポイント”参照）　㉝カラス
㉞湖、池、沼　㉟キツネ（「チロンヌプ」ともいう）　㊱滝



オリエンテーション

イラストを見て話し合おう

板書例

どこの言葉？　どんな意味？

動物　モユク、イソポ、ユク、キムンカムイ…
植物　トゥレプ、
自然　ポンモシリ、オタ、ピラ、ト、ペ…
生活　チセ、プ、マレク、イタオマチプ、チプ…

→アイヌ語→アイヌ民族の言葉

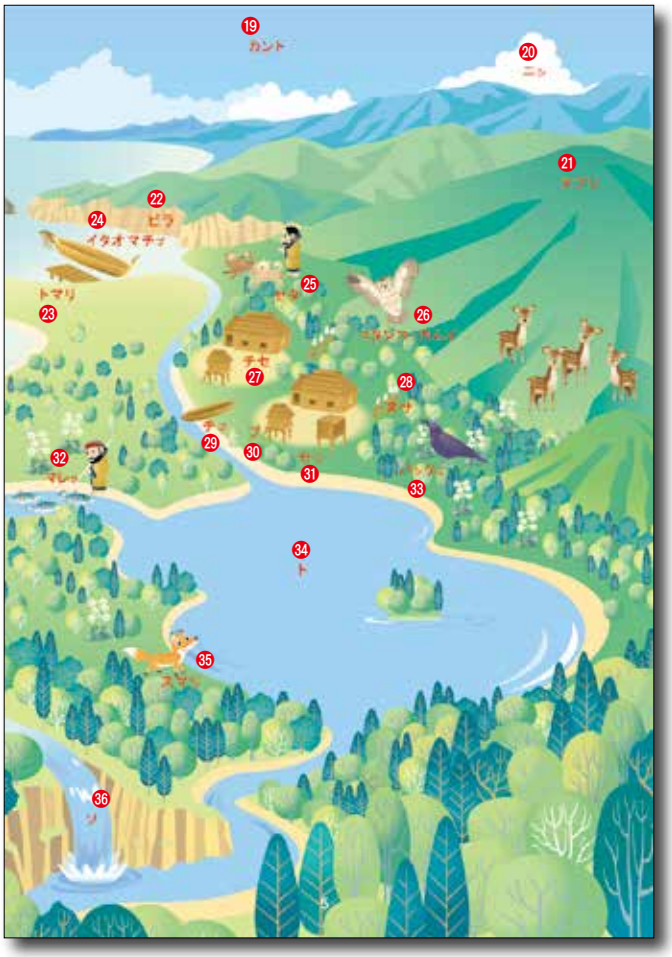
日本語になったアイヌ語…ラッコ、トナカイ、シシャモ、ルイベ、ノンノ

アイヌ民族はどんなくらしをし、どんな歴史を歩んできたのかな？

指導のポイント



個々のアイヌ語を覚えるのではなく、イラストを通して自由に考えを巡らせ、これから始まるアイヌ民族の文化や歴史の学習に興味を持たせるようにしたい。ゲーム的な授業展開もおもしろい。オリエンテーションとなる本時では、日本語とは異なったアイヌ語という言語が存在していることに気づくようにさせたい。そして、現在日本語になっているアイヌ語もあることを知ることで、アイヌ民族と日本の関わりに興味・関心が高まることだろう。



◆活動の流れ３

★指導のねらい

アイヌ語独特の発音を知るとともに、日本語として使われているアイヌ語の存在からアイヌ民族への関心を持つようにする。

☆発問１

小さいカタカナはどのように発音するのだろう。

☆発問２

「ラッコ」や「トナカイ」などはアイヌ語ですが、どうして日本語として使われていると思いますか。

＊予想される反応

アイヌの人が最初に名前をつけたから。
アイヌ語を話す人たちが日本に住んでいたから。

◆まとめ

今の東北地方から北海道、千島、サハリンはアイヌ民族が暮らす土地でした。現在、日本に住むアイヌ民族は、ほとんどが日本人と同じような暮らしをしていますが、もともとは、日本語とは違う言葉を話し、今とは違う暮らしをしていました。アイヌ民族の暮らし（文化）や歴史をこれからみんなで学んでいくことにしましょう。

◆アイヌ語の発音について

母音が後に続かない音は次のように発声してみるとよい。

- サㇷ゚sap「サッポロ」の「ポロ」を言わない発声
- サッsat「サッと」の「と」を言わない発声
- サㇰsak「サッカー」の「カー」を言わない発声

サㇷ゚（前に出る）、サッ（乾く）、サㇰ（夏）

【補足説明】

〔アイヌ語について〕

アイヌ語の成り立ちについては、日本語がそうであるように現在のところ未解明である。アイヌ民族は文字を必要としない生活の中で口承による文化や歴史の継承をはかってきたが、明治以降、カタカナやローマ字でアイヌ語を書き表すようになり、現在では文字表記のできる言葉になっている。日本語と異なるアイヌ語の発音を表記するために「簡易音素表記」が用いられることが多い。アイヌ語独特の発音としては母音が後ろに続かない音があることである。これはカタカナの小文字で表記する。イラストに取り上げられている言葉では、トゥレㇷ゚、マレㇰ、モユㇰなどである。現在の日本語になっているアイヌ語として、アイヌ語地名のほかにラッコ、トナカイ、シシャモ、ルイベ、ノンノ（花の意味・雑誌の名前）などがある。

〔導入時の配慮事項〕

ある30代のアイヌ民族の青年が「子どもの頃、授業でアイヌのことが扱われると早く終わってほしいと目を伏せていた。」と語っている。歴史的に形成されてきたアイヌ民族への偏見、差別によって、アイヌ民族の子どもたちが自らの民族的アイデンティティーを肯定的に育めない現実があることを示していよう。こうした現状を認識しながら、「アイヌ民族の文化と歴史」の学習は人権教育としての側面を持つことを自覚したい。

1．アイヌ語の地名

本時のねらい

北海道や東北北部、千島列島、サハリンではアイヌ語の地名が今も使われていることからアイヌ民族が先住していたことを理解するとともに、アイヌ語ではない地名もあることに気づく。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

北海道の地図から「別」「内」「幌」のつくアイヌ語地名を探す。

☆発問１

北海道地図から「別（べつ）」「内（ない）」「幌（ほろ、ぽろ）」のついた地名を探してみましょう。

☆発問２

「別」や「内」のついた地名のところには川や沢が本当にあるか地図で確かめてみましょう。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

東北地方やサハリン、千島列島にあるアイヌ語地名を探す。

☆発問１

アイヌ語地名は、東北地方やサハリン、千島列島にはないか探してみましょう。

◎　小学校用の地図帳で探せる「ペッ」「ナイ」「シリ」のつくアイヌ語地名

- 今別、平内、三内、尻屋（青森県）
- 釈迦内、河辺、山内、比内（秋田県）
- 庄内、山辺（山形県）
- 瀬月内川（岩手県）
- 田尻（宮城県）

☆発問２

地名の「別」「内」「幌」などの漢字には意味があるのだろうか。



写真１－１：利尻島―北海道の北、日本海にうかぶ島
アイヌ語で「リシッ」と言い、リは「高い」、シッは「島」という意味です。
よび名のとおり、島は高さ1,721mの高い山（利尻山）からできています。

１．アイヌ民族の文化

アイヌ語がもとになっていない北海道の地名の例

旧鳥取町（釧路市）
鳥取県出身の士族（もとの武士）が集団で住みついたため。

北広島市
広島県出身の人たちが集団で住みついたため。

伊達市
仙台藩の亘理（今の宮城県亘理町）の領主だった、伊達邦成という人が、家来といっしょに移り住んだため。

仁木町
徳島県から移り住んだ人たちを仁木竹吉という人が先導して、土地を切り開いたため。



１　アイヌ語の地名

人が住んでいるところには、必ず土地の名前である「地名」があります。この地名のほとんどは、その土地や地方に古くから住んでいた人たちが付けて、長い間よび続けてきたものです。

北海道には、本州などから移ってきた人たちが住んでいた県の名前、その土地を切り開いて、田畑や住むところをつくった人の名前などから付けられた地名もあります。

しかし、北海道にある市町村などの地名を調べてみると、漢字の「別」や「内」や「幌」が付く地名が非常に多くあります。それらはアイヌ語の「ペッ」や「ナイ」や「ポロ」がもとになったもので、それぞれ「川」「沢」「大きい」という意味があります。

北海道にある地名の多くが、アイヌ語がもとになっているということは、そこに最初に住み着いて長い間くらしてきたのはアイヌ民族だということがわかります。

6



１　アイヌ語の地名

北海道には、どうしてアイヌ語地名がたくさんあるのだろう

別…本別、幕別、士別、津別　（ペッ＝大きい川）
内…中札内、神恵内、幌加内　（ナイ＝小さい川、沢）
幌…士幌、南幌、札幌（ポロ＝大きい）

地名の漢字は当て字なので意味がない

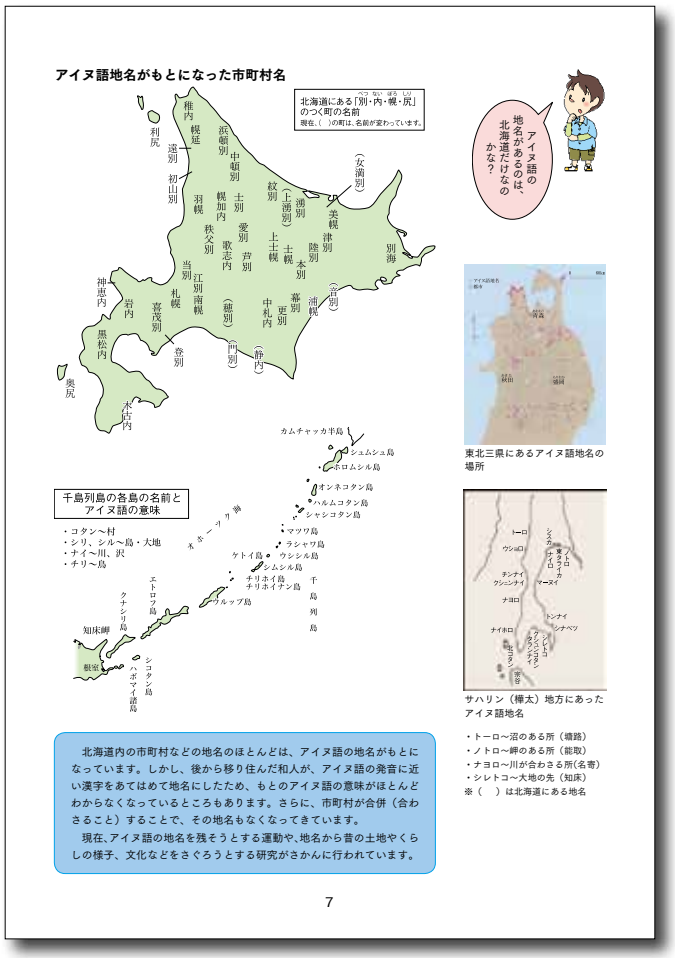
千島列島、サハリン
北海道
東北
広がっているアイヌ語地名

アイヌ語地名＝アイヌ民族が住んでいた

日本語地名＝和人が入ってきた



アイヌ語地名から、そこにアイヌ民族が先住し、日本とは異なる文化圏を持っていたことに気づかせたい。この取り組みは、アイヌ学習の入門として最適である。地名の由来については、複数考えられている場合もあるので、その地域の市町村史に基づくとよい。北海道のアイヌ語地名では、「ナイ」がつく地名が約23%、「ペッ」が約11%あり見つけやすい。このことは、アイヌ民族の伝統的な暮らしでは、川は交通路としても食料確保の場所としても大切な存在だったことを示している。



◆活動の流れ３

★指導のねらい

北海道にある、アイヌ語ではない地名を探し、その理由を考える。

☆発問１

誰がつけた名前だろうか。

☆発問２

土地の名前を変えられたアイヌ民族はどんな気持ちだっただろう。

◆アイヌ語地名探しのヒント

（湖や沼を表す「ト」についた地名）

ポロ(大きい)
ポン(小さい)
オンネ(老いる)
タンネ(長い)
パラ(広い)
→ ト（湖･沼） →
プッ(口)
キサㇻ(耳)
ヤ　(岸)
エトㇰ(奥)
オㇿ(所)

現在使われている例として

バラト　～　広い・湖　（茨戸）
トーヤ　～　湖の岸　（洞爺）
トーフツ　～　湖の口　（十弗）

【補足説明】

アイヌ語で呼ばれてきた地名は、カタカナ、ひらがな、漢字で表わされ、記録されてきた。それらの中には、今日までの間に音や形が変わってしまったものが多く見られる。アイヌ語に漢字を当てはめることで発音や呼び名が変わり（「室蘭」モルランが「むろらん」に）、同じ意味のアイヌ語でも異なった漢字を当てはめている例もある（「木直」と「杵臼」はどちらも「キナ・ウシ　がまなどの草が生えているところ」など）。

アイヌ語地名が多く残っているのは北海道から千島、サハリンにかけた北東部と、東北三県であり、広い範囲にわたってアイヌ民族が先住していたことを知ることができる。

アイヌ民族は自分たちの居住空間を「アイヌモシㇼ」と呼ぶ。これは、「人間の住む静かな大地」という意味であり、「カムイモシㇼ」（神の住む静かな大地）に対置された概念である。「土地」という概念とは異なるが、現在では固有名詞としても使用されている。

和人はアイヌ民族の住む土地を「蝦夷地」と呼んだ。

2．衣　服

本時のねらい

昔のアイヌ民族は、身近にある材料を使って地域に合った衣服を作っていたことや、中国や和人との交易によって衣服も変化していったことを理解する。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

昔のアイヌ民族は、どんなものを利用して衣服を作っていたか調べる。

☆発問１

今、自分が着ている衣服はどんなものから作られていますか。

☆発問２

アイヌ民族は昔、どんなものを使って衣服を作っていましたか。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

交易によって、どのような衣服が入ってきたかを調べる。

☆発問１

「蝦夷錦」「陣羽織」という着物はどこで作られたものでしょうか。

☆発問２

中国で作られた「蝦夷錦」や和人の「陣羽織」をどのようにしてアイヌ民族は手に入れたのでしょうか。

◆活動の流れ３

★指導のねらい

衣服の他に身につけた物や、刺繍されたアイヌ模様の意味について考える。

☆発問１

衣服の他にどんなものを身につけていましたか。その材料は何でしょうか。



写真１－２：ウル
クマの皮を使った衣服。



写真１－３：カヤハ
魚の皮で作った衣服。



写真１－４：チカプウル
羽のついた鳥の皮で作った衣服。

内皮
木の皮の内側にあるやわらかい皮。

せんい
木の皮や草から取れる、糸のような細長い物。

動物	陸の動物	クマ　シカ　テン キツネ　タヌキ ウサギ　トナカイ オオカミ
	海の動物	ラッコ　トド アザラシ　アシカ オットセイ
	魚	サケ　イトウ カラフトマス
	鳥	エトピリカ　ワシ アホウドリ　タカ ウミウ
植物	木	オヒョウニレ ハルニレ シナノキ
	草	イラクサ

衣服に使われた動植物



写真１－６：いろいろな衣服を着ておどるアイヌの人たちの昔の絵

２　衣服

昔のアイヌの人たちは、ふだんの生活の中で、身近にある材料を使って、それぞれの地域に合ったいろいろな衣服を作っていました。

衣服の材料には、けものや魚、鳥の皮のほかに、オヒョウニレやハルニレ、シナノキなどの木の内皮やイラクサのせんいなどが使われました。



写真１－５：布をおっている様子をえがいた昔の絵

衣服の材料の中で一番古いのは、毛皮です。けものは、毛皮をとるだけでなく、食料としての肉のほか、ほねやすじを使って、かりの道具や食器、かざり物、糸を作るなど、人々のくらしにとって一番身近かで大切なものでした。

昔の絵の中に、いろいろな時代の着物を着たアイヌの人たちが、いっしょにおどっている様子がえがかれているものがあります。衣服も他のものと同じように時代とともにうつり変ってきたのです。

8

２　衣　服

アイヌ民族の昔の衣服を調べよう

昔の人たち…自然にある身近な材料で衣服を作る

アイヌ民族…（動物）けもの、魚、鳥の皮…ウル、カヤハ、チカプウル自然を上手に利用

（植物）木や草のせんい…アットゥシ、レタラペ

和人や北の人々との交易→「じんばおり」（和人→アイヌ民族）

「えぞにしき」（中国→アイヌ民族→和人）

衣服につけたアイヌもよう→かざり、まよけの意味

現在　⇒　儀式や行事のときに民族衣装を着る

指導のポイント



多くの民族がそうであるように、自然の素材を上手に生かして衣服を作ってきたアイヌ民族の知恵を学びたい。木の繊維を織って作ったアットゥシは、硬いイメージがあるが馴染んでくると肌触りもよく、水にも強い。そのため和人の労働者も愛用するようになった。なお、アットゥシは、アイヌ民族の衣服の総称ではなく、素材に着目した呼び名であることに注意したい。また、衣服を取り扱う場合は、日常着と晴れ着、地域と時代を区別することが大切である。



写真１－７：アットゥシ
オヒョウの木のせんいでおった衣服。



写真１－８：レタラペ
イラクサのせんいでおった衣服。



写真１－９：ルウンペ
もめんぬのを使って作った衣服。

本州や外国から「もめんのぬの」を手に入れられるようになると、そのぬのを使って、儀式（ぎしき）や特別な時に着る「晴れ着」を作るようになりました。今でも博物館などに残されている古い衣服のほとんどは、こうした晴れ着です。

晴れ着の中には、中国との交易（こうえき）で手に入れた「えぞにしき」とよばれる、きぬでおられた衣服や、和人との交易で手に入れた「じんばおり」などもありました。

衣服のほかに、身に付けるものには、儀式や働く時にする「はちまき」、手足を守る「てっこう」「きゃはん」、冬にかりをする時に使った「ぼうし」や、サケやシカの皮で作った「くつ」などがありました。

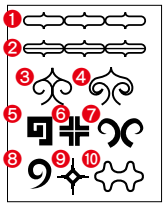
こうした衣服や身に付けるものには、アイヌもようが「ししゅう」されました。アイヌもようには、美しくかざるというだけでなく、病気などをふせぐという、魔（ま）よけの意味もありました。



写真１－10：えぞにしき



写真１－11：じんばおり



いろいろなアイヌもよう



写真１－12：身に付けるもの

❶アィウシ ❷アィウシ ❸モレウ
❹モレウ ❺モレウ ❻ウタサ
❼モレウ ❽モレウ ❾シク ❿ウタサ

☆発問２

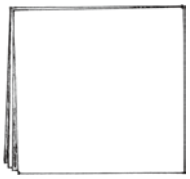
アイヌ模様は、衣服のどの部分に刺繍されているか調べてみよう。

☆発問３

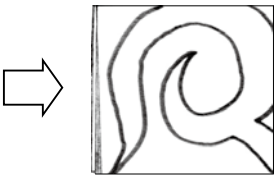
アイヌ模様にはどんな意味があるのだろうか。

◆チャレンジ　（アイヌ模様作り）

四つ折りの紙（折り目を右上）に渦のような型を描いて切り、丁寧に開く。



紙を四つ折りにする。



モレウ（ゆっくり曲がる）模様を描き、線にそって切る。山折りと接する部分を切り取らないように注意する。



丁寧に開くとアイヌ模様の切り絵ができる。

アイヌ模様には、アィウシ（とげが刺さる）、モレウ（静かに曲がる）、ウタサ（互いに交差する）、シク（眠）などがあり、いろいろと組み合わせて用いられる。

【資料】

「蝦夷錦」…蝦夷錦は中国の江南地方で作られた絹織物であり、北京からアムール川（黒龍江）を下り、間宮海峡を渡ってサハリン（樺太）に至り、南下して北海道に入るという五千キロにも及ぶ道のりを経て、わが国にもたらされたのである。その間、アムール川流域のナーナイやオルチャ、サハリンのニブフ・ニグブン（ギリヤーク）やウィルタなど多くの民族の手を経て、アイヌの人々の手に入った。松前藩は、アイヌから手に入れた蝦夷錦を、北前船交易の商品として大きな利益を得た。松前藩は、鎖国の国禁を犯しているとの嫌疑を恐れ、蝦夷錦に関する全てを秘密にした。（『アイヌの歴史と文化Ⅰ』榎森進編　2003年）

【補足説明】

「チェプケリ」はサケの皮で作った。サケの背びれ部分を靴底にしている。これは、滑り止めの意味があり、自然を生かす加工の知恵を知るよい例である。



3．食べもの

本時のねらい

昔のアイヌ民族の食生活は、野山の動物、川や海の魚介類、木の実や山菜・穀物など、季節や居住地ごとに多種多様であったことを知る。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

挿絵や写真などから、狩猟・漁労の様子、使用した道具などについて話し合う。

☆発問１

商店がまだなかった時代には、食べ物はどのようにして手に入れていたでしょう。

☆発問２

昔のアイヌ民族は、どこでどのようにして食べ物を手に入れていたでしょうか。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

「食ごよみ」などから、アイヌ民族の豊かな食生活をアワやヒエなどの穀物の栽培などと共に考える。

☆発問１

昔のアイヌ民族の１年間の食べ物を「食ごよみ」から調べ、わかったことをまとめよう。

◆活動の流れ３

★指導のねらい

アイヌ民族の普段の食事と儀式などの時の食事の違いやいろいろな保存方法を知る。

☆発問１

アイヌ民族の食事を調べよう。

☆発問２

長い冬の間に食べていたものを調べてみよう。



写真１－13：雪山に入り、弓矢でシカをとる様子



写真１－14：マレㇷ゚で川をのぼるサケをとる様子

かりや漁に使った道具



写真１－15：矢（アイ）と弓（クㇲ）
シカやクマなどをとらえる時につかった道具で、矢にはトリカブトという草の根から作ったもう毒がぬってありました。



写真１－16：つきかぎ（マレㇷ゚）
川や湖でサケ・マスなどをとる時に使った道具です。



写真１－17：もり（キテ）
海でアザラシやクジラなどをとる時に使った道具です。



写真１－18：丸木舟（チㇷ゚）
川や湖などで、通行や魚をとる時に使った舟で、カツラやヤチダモなどの木をくりぬいて作りました。

３　食べもの

昔のアイヌの人たちは、野山で狩りをしたり、川や海で魚や貝をとったり、季節ごとに実る木の実や山菜をとって豊かにくらしていました。

しかし、とれるものは住んでいる地域によってちがい、陸地の奥の方に住むアイヌの人たちと、海辺の近くに住むアイヌの人たちでは、食べるものの内容は、少しちがっていました。

狩りでは、シカやクマといった大きな動物や、タヌキやリス、ウサギなどの小さな動物のほか、エゾライチョウやスズメ、カケスなどの鳥もとりました。

大きな動物をとる時は、どく矢を使いましたが、小さな動物をとる時には「しかけ弓」など、いろいろな「わな」を使いました。

魚をとる時は、ささった時にカギ先が回転したり、モリ先が外れて体から抜けなくなるなどの工夫をした道具を使いました。

狩りや漁のほか、アワやヒエ、キビといった「こくもつ」も古くから作られ、今から200年



３　食べもの

アイヌ民族の食べものを調べよう

山
- 狩り　…　エゾシカ、ヒグマ、タヌキ、リス、鳥など←←どく矢、しかけ弓、わな
- 採集　…　フキノトウ、ギョウジャニンニク、オオウバユリ、木の実など

海、川
- 漁　…　サケ、マスなどの魚←←マレㇷ゚（つきかぎ）、キテ（もり）、チㇷ゚（丸木舟）
- 農耕　…　アワ、ヒエ、ジャガイモ、トウモロコシ

食事　…「汁もの」「おかゆ」＋（とくべつな時）「ごはん」「だんご」「お酒」
※先祖や神々と一緒に食べる楽しむ食事

自然のものを必要な分だけとる。むだにしないで全部工夫して食べたり、使う。



アイヌ民族は狩猟民族と理解されがちだが、ヒエ、アワ作りなどの農耕もしていたことをおさえておきたい。狩猟や漁労では、その道具が重要になるが、アイヌ民族の場合、他の民族には見られない「マレㇰ」という独特のつきかぎを作り出した。マレㇰは、サケやマスの捕獲に主に用いられている。乾燥、燻製などの保存法の工夫にもたけており、長い冬期間の食料確保に生かされた。授業では、実際にオハウ（汁物）やシト（団子）などを調理してみると子どもたちの興味・関心も高まる。

※昔のアイヌ民族は食料保存法としては、ビタミン崩壊が大きくなる塩漬けは行わなかった。そのことで冬場のビタミン不足による病気を防ぐことができたといえる。


写真１－19：チェㇷ゚オハウ
サケの切り身の汁。


写真１－20：チタタㇷ゚
サケの頭やヒレを細かくきざんでネギをまぜたもの。


写真１－21：チポㇿウシイモ
にてつぶしたイモにいくらをまぜたもの。

ほど前には、ジャガイモやトウモロコシ、大根、インゲン豆などを作っていたということもわかっています。

アイヌの人たちのふだんの食事は、朝と夕方の２回で、塩や動物の油で味付けをした「汁物」と「おかゆ」が中心でした。大切な食料であったサケは、身だけではなく内ぞうや頭・ヒレまで、すべて工夫して調理しました。

いろいろな儀式やお祝などの特別な時には、ふだんの食事に「ごはん」「だんご」「お酒」などがくわえられました。こうした料理は、集まった人たちだけではなく、なくなった先ぞや神々もいっしょに食べて、楽しむものだとアイヌの人たちは考えていました。

また、アイヌの人たちは、冬の間や「ききん」など、食べるものが少なくなる時にそなえて、食料をかんそうさせたり、「くんせい」などにしてたくわえました。オオウバユリの根からはデンプンをとりますが、その「しぼりかす」もだんごにして保存しました。

	動物	植物
春	クマ	フキノトウ ギョウジャニンニク フキ
夏	マス イワナ ヤマベ ウグイ	コゴミ ウラビ ゼンマイ ヨモギ
秋	サケ シカ ウサギ キツネ	オオウバユリ クロユリ ハマナス 海草類 コクワ クルミ クリ ドングリ ノイチゴ ヤマブドウ キノコ
冬		

アイヌの人たちの食ごよみ


写真１－22：儀式の時の料理


写真１－23：チポㇿシト
いくらをまぶしただんご。

11

注：記載の「食ごよみ」は旭川地方のものであり、それぞれの地方の地域性により異なる。

◆自然と共に生きるアイヌ民族の知恵を知る

☆問題

山に山菜採りに来たところ、たくさんの山菜を見つけました。あなたはどうしますか。

① 全部採る
② 必要な分だけ採る
③ その他

☆問題

湖に釣りに来ました。魚がたくさんいるのが見えました。釣りを始めると次から次と釣れてきます。あなたはどうしますか。

① 全部釣る
② 必要な分だけ釣る
③ その他

☆質問

アイヌ民族は必要な分だけしかとることはしませんでした。それはなぜでしょう。

【資料】

〔エハマメご飯　料理を作ってみましょう！（現代風）〕

エハマメ（土豆）は秋の終わりと早春に収穫します。つる性の植物で地下に豆が育っています。つるの根元部分の地面を掘ると、小指の先ほどの小さな豆がうまっています。（小さな石ころとまちがえることがあるので注意）。土色の皮をはぐと、うす紫色のきれいな豆が収穫できます。これは保存がきかないので、一回分だけをとるようにします。お米を炊飯する状態にして水も普通の分量にして、そこへ豆を入れる（あらかじめ、きれいに洗っておく）、塩一つまみ、油（サラダ油でもオリーブオイルでも良い）を少々入れ、コンブを一かけら入れて、炊飯器のスイッチを入れる。できたら、まぜて召し上がれ！神奈川などでも土手道で発見することができるそうです。北海道なら、どこにでもあります。昔はおかゆなどに入れて食べました。



（『日本の先住民族アイヌを知ろう！　②アイヌ民族のことばと文化』 知里むつみ　2009年）

4．住まい

本時のねらい

昔のアイヌ民族の家のつくりや材料を知り、家に附属する建物や「コタン」のつくられる地理的条件などを理解する。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

写真（１－24～29）などから、アイヌ民族の昔の家のつくりの特徴や材料について話し合う。

☆発問１

昔と同じ方法で建てた家の写真がありますが、気づいたことを発表してください。

☆発問２

家はいろいろな材料が使われていましたが、そのわけを考えてみましょう。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

コタンが形成される地理的条件について考えたり、文章から読みとる。

☆発問１

アイヌ民族のコタンは、どのような場所に作られたと思いますか。

① 湿地
② 山の上
③ 川や海のそば

【たき火と地熱の利用】

チセの床には床板ははらずに、土間の上に乾燥させたアシなどを敷き詰め、その上に同様の素材で編んだすだれとガマで編んだゴザを敷いている。それは、１年を通して15～18℃ある地下５ｍ付近の地熱を利用するしくみで、絶やすことのない炉のたき火も地表面の冷え込みを防ぐ役目を果たしている。その結果、外気温が－30℃の厳冬期でも、チセの内部は10℃前後になり、たき火の輻射熱なども加わって体感温度は20℃近くになることが、旭川地方で行った実験でも証明されている。



写真１－24：昔と同じ方法で建てた家（チセ）



写真１－25：チセを建てる時に柱の材料に使われるヤチダモ

いろいろな材料で作られたチセ



写真１－26：アシを使ったチセ



写真１－27：ササを使ったチセ



写真１－28：木の皮を使ったチセ



写真１－29：チセの骨組みのもけい

4　住まい

昔のアイヌの人たちは、食べ物や飲み水などが手に入りやすく、こう水などのさい害にあいにくい交通の便利な川の近くや海辺に、数けんから十数けんの家で「コタン」とよばれる村を作りました。

そして「村おさ」を中心に、近くの山や川、海などの決まった場所で狩りや漁をしたり、木の実や山菜をとってくらしていました。

家のことをアイヌ語で「チセ」と言いますが、チセは20㎡～100㎡くらいの大きさで、その地方で手に入れやすい材料を使って、コタンに住む人たちが協力しあって建てました。

柱などの骨組みには、ヤチダモなどのかたい木を使いました。屋根やかべにはアシやススキ、ササなどの草を使いましたが、キハダやカバの木などの皮を使ったという記録もあります。

骨組みや屋根・かべなどの材料は、くぎを使

12

板書例

4　住まい

○家～チセ（20～100㎡）
- 人々が協力し合って建てる
- 柱……ヤチダモなどのかたい木
- 屋根や壁……アシ、ササ、木の皮

↓

その土地で手に入れやすいもの

※くぎを使わず、植物のつるなどで作ったひもで材料をしばった。

○コタン（むら）～10けんくらいの家が集まる
- 川や海の近く（交通や食料の便）

○チセの間取り
- 炉（暖房・儀式・調理）
- 神窓（神々が出入りする窓）
- 家族や客の席が決められている
- 宝物置場

※たき火の熱と地熱を利用してきびしい冬をすごす知恵

○チセの建つ向き（神窓を中心に）
- 高い山　• 川の上流　• 日の出の方角

○チセの周り
- ヌサ（祭だん）• 食料倉
- おり（子ぐま）• トイレ

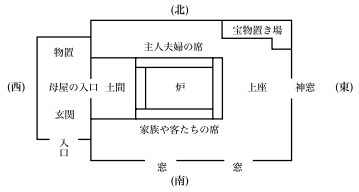
地方によって異なる

指導のポイント

◎　アイヌ民族の住まいは、単なる家ではなく、間取りや家の向き（方角）などにも、信仰が深く関わっていることに気づかせる。
◎　チセは、いずれもその地域において、最も手に入りやすい材料が使われ、工法、構造、各部位の呼称などにも地域性が見られる。
◎　チセの屋根の部分の構造の模型を、割りばしや竹ひごなどで作って提示すると理解しやすい。（例：３本組み木など）



写真１－30：チセのなかの様子



北海道新ひだか町でのチセの方位と間取りのひとつ

わないで、ブドウづるやシナノキの内皮でつくったひもなどを使って結びつけました。

チセの中に入ると、入り口近くに「炉」があります。炉は、「火」で部屋をあたためたり、食事をつくるだけではなく、大切な儀式にも使われました。窓は２、３か所ありますが、入り口の正面にある窓は、「神々が出入りする窓」として、とても大切にされ、外から中をのぞくことは許されませんでした。

主人や家族、客が座ったり寝たりする場所、宝物を置く場所なども、きちんと決められていました。

チセの周りには、いのりの場である「祭壇」や、食料をかんそうさせるための「物ほし」、食料をたくわえておく「倉」、つかまえた子グマをかうための「オリ」、男女別の「便所」などが作られました。

また、コタンの近くには「水のみ場」や丸木舟をつないでおく「船着き場」などもありました。



儀式のための祭壇

ネズミなどをふせぐため床を高くした倉には、かんそうさせた食料をたくわえていました

「クマ送り」の儀式までの間、子グマをかっておくオリ

男女別の便所

写真１－31：家の周りにある建物やしせつ

◆活動の流れ３

★指導のねらい

「チセ」の間取りなどから、アイヌ民族の住まいについての考え方をつかみとる。

☆発問１

間取りを見て、気がついたことを発表しましょう。

☆発問２

「炉」や「神窓」は、何のために設けられたのでしょう。

☆発問３

このようなつくりの家で、どうやって厳しい冬をすごしたのでしょう。

◆活動の流れ４

★指導のねらい

チセの周りにあるいろいろな建物と、アイヌ民族の生活との関係を理解する。

☆発問１

写真（１－31）を見て、アイヌ民族はどのような生活を送っていたのか、考えてみましょう。

【ケトゥンニ（３本組み木）】

３本の木を水平に並べ、幾重にも束ねた縄の輪を木の末口のほうの端から40～50㎝くらいのところにかけ、真ん中の木をほぼ一回転させた木の組み方。



【資料】

- 博物館等で展示されているアイヌ民族の家屋は、20世紀初頭までに建てられたものを復元したものであり、現在、写真のような家屋に住んでいる人はいない。
- 普通、一つの家屋には一つの世帯が住み、子どもが結婚した時は家を新築した。
- コタンにおけるチセの向きは、全て一定方向を向いていたが、その向きは地域によって違いがみられた。
  - 白老、千歳、平取、静内、門別は東向き。　・様似、本別、音更は北向き。
  - 帯広、芽室、幕別は西向き。

  ※これは「神窓」から見て、高い山、川の上流、日の出の方角などが神聖とされたためで、東西南北とは直接関係はない。
- 家屋の周囲には、神窓の外側正面にヌサ（祭壇）を設けた他、クマのイオマンテ（霊送り）の儀式に備えて子熊を飼育するための檻、家から少し離れたところには、ゴミ捨て場や炉の灰捨て場などが作られた。

5．信こう

本時のねらい

アイヌ民族の自然観や物に対する考え方を理解し、「自然と人間」「物と人間」の関係のあり方を考える。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

アイヌ民族のカムイ（神）とはどういうものか読みとり、自然と人間の関係を理解する。

☆発問１

アイヌ民族は、どのようなものを「カムイ」としたのでしょう。

☆発問２

アイヌ民族の「カムイ」と、他の宗教の神や仏と、どのように違うのか考えてみましょう。

☆発問３

「自然を守る」ということがよく言われますが、アイヌ民族は自然と人間の関係をどのように考えていたのでしょうか。

＊アイヌ民族の自然観を物語る話などを聞かせる。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

アイヌ民族のクマのイオマンテ（霊送り）の意味を知り、自然循環の視点を読みとる。

☆発問１

アイヌ民族は、どのような考えでイオマンテを行ったのでしょう。

☆発問２

人間の使った道具に対する、アイヌ民族の考え方はどのようなものですか。



写真１－32：カムイノミの様子



写真１－33：儀式で大切な役目をはたす火





写真１－34：シマフクロウ（上）
写真１－35：クマ（下）　シマフクロウとクマは、村を見守ったり、肉や毛皮をもたらす、位の高いカムイとしてそんけいされます。

カムイノミ

「神々へのいのり」のこと。神々に見守られているおかげで、人びとの平和なくらしがあると考え、そうしたくらしが続くことを願って行われました。

神々へのいのりは、まず「アペフチカムイ」とよばれる火の神に対して行われます。火の神が人間の願いを他の神々にとどける役目を持っていると考えられているからです。

5　信こう

アイヌの人たちは、動物や植物、火や水などのほか、うすやきねといった生活用具など、人間が生きていくために必要なものや、病気など人間の力ではどうすることもできないものを「カムイ（神）」としてうやまいました。

カムイは、人間に恵みをあたえたり、いろいろな役わりを果たしたりするために自然や物にすがたを変えて人間の世界にやって来ると言われますが、地震や津波などの自然災害や命を落とす病気などは悪いカムイのしわざだと考えました。

また、アイヌの人たちには、「自然を保護する」という考えはなく、カムイと人間は、それぞれがおたがいに支えあって生きているものであり、人間は自然世界の一部として、そこに住まわせてもらっていると考えていたのです。

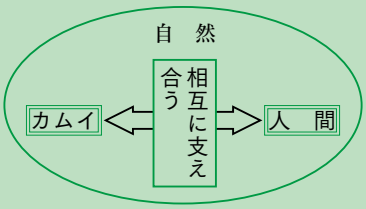
人間の世界での役わりを果たしたカムイは、やがて家族や仲間が待っている神々の世界へ帰ることになります。その時、アイヌの人たちは、

板書例

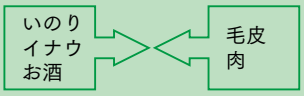
5　信こう

- 動物や植物
- 火や水
- 地震、津波
- 生活用具
- 病気

} いろいろな役割を果たすために、自然や物に姿を変えて人間の世界にいる



○役割を果たしたカムイ
↓
神々の世界に送る儀式
（クマのイオマンテなど）



○生活道具　→　ゴミとしてではなくカムイとして、ていねいに送る

指導のポイント



◎　アイヌ民族の「カムイ」という概念を、他宗教の神や仏と同一視させないように配慮する。
◎　アイヌ民族には「自然保護」という、人間中心的な考えはない。
◎　絵本『ちいさなくまのカムイのおはなし』(㈱アイヌ文化振興・研究推進機構発行)か、それをスライド化したものを使用する。



写真１－36：クマのイオマンテ

自分たちの生活に必要なカムイがふたたびやって来ることを願い、カムイを神々の世界に送り帰す儀式を行います。こうした儀式の中で、一番大きくて重要なのが、イオマンテです。

儀式では、カムイが喜ぶとされる木幣（イナウ）やお酒、だんご、ほしたサケなどの食べ物をそなえ、感しゃのいのりをささげます。

人間が動物をとらえて、肉や毛皮を手に入れるということは、その動物の命を奪うことです。しかし、アイヌの人たちは、その肉や毛皮を受け取るかわりに、最高の礼をつくしてカムイを神々の世界へ送り帰すことで、また、そのカムイが動物にすがたを変えて人間の世界にやって来ると考えたのです。

こうした儀式は、生き物だけでなく、使っていた道具が古くなったり、こわれて使えなくなった時にも行われました。ゴミとしてすてるのではなく、食べ物をそえて神々の世界にていねいに送り帰したのです。

写真１－37：儀式に使ういろいろな木幣（イナウ）

イオマンテの時に使われるいろいろな道具

写真１－38：トゥキ
お酒を入れるおわん。

写真１－39：キケウ＝パスイ
お酒をカムイにささげるへら。

写真１－40：ヘペ＝アイ
クマをいる花矢。

写真１－41：クマのイオマンテのことをかいた絵本

15

◆活動の流れ３

★指導のねらい

絵本『ちいさなくまのカムイのおはなし』の読み聞かせを通して、クマのイオマンテの流れやアイヌ民族の考え方を理解させる。

☆発問１

お話を聞いてどのような感想をもちましたか。

【ウエペケレー散文説話】

私はウラシベツの村長で、つまとなかよくくらしていました。あるとき、見た目のわるい男が来たので、私はその男をつきとばしました。

すると、その男は、首のもげたトックリのすがたになり、水が流れ出ました。私はだいじにあの世におくったほうがいいのか、いいかげんにあの世におくったほうがいいのか、まよいました。

そして、「ゆめに聞こう」と考え、ねてしまいました。すると、ゆめにあのトックリがあらわれて、こう言いました。

「私は、自分がなにものなのか、わからなくて、それを知りたくて、あちこちの村々をまわっていた。使い古したどうぐはむやみにすてずに、手厚くほうむれば、そのもののたましいは、神様の世界に帰れる。もし、あなたがそうしてくれたら、あなたに子どもをさずけよう。」

夜があけ、トックリを神様の世界におくった。私は子どもに恵まれ、りっぱな村長として一生を終えた。

（『知里真志保著作集』第２巻 pp. 428～430を要約）

【資料】

- アイヌ民族のカムイノミ（神への祈り）は、まず「アペフチカムイ」と呼ばれる火のカムイへの祈りから始めるが、それは、自分たちの祈りは、火のカムイを通して他のカムイに伝えられえるという考えに基づく。
- 「イオマンテ」は、アイヌ語で「それを行かせる」という意味で、「霊送り」という儀礼をさすものである。一般的には「クマのイオマンテ（霊送り）」などと、クマに限定されて使われることが多い。霊送りは、シマフクロウやキツネ、エゾオオカミなどの動物に対しても行われる。
- 1955年、北海道は「野蛮な行為」という理由で、イオマンテを禁止する通達を出したが、2007年に通達を撤回した。（環境省も「祭礼儀式に該当する」としている）
- アイヌ民族は、人間に役立ってくれたもの（生活用具も含め）を粗末に扱わず、礼を尽くして送る行為が再び自分たちに役立つものとして戻ってくると考えた。

6．歌とおどり

本時のねらい

アイヌ民族にとっての「歌や踊り」の持つ意味を理解し、実際に歌ったり踊ったりしてみる。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

アイヌ民族にとっての「歌や踊り」には、どのような意味があるのか読みとる。

☆発問１

写真（１－42、43、47、48）を見て、アイヌ民族の歌や踊りについて考えたり、気づいたりしたことはありますか。

☆発問２

実際にアイヌ民族が歌ったり踊ったりしているビデオを見て、感想を発表しましょう。

＊２～３曲ビデオを観賞する。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

アイヌ民族の歌や踊りの種類を調べたり、その特徴について知る。

☆指示１

p. 16～17を読んで、歌や踊りの種類や特徴をノートにまとめましょう。



写真１－42：すわり歌（ウポポ）
白老民族芸能保存会。



写真１－43：鶴の舞（サロルンチカㇷ゚リㇺセ）
一般財団法人アイヌ民族博物館。



写真１－44：イオマンテ（れい送り）の後に、ウポポを歌っている様子をかいた昔の絵



写真１－45：シントコ
儀式に使われるお酒や宝ものを入れておく入れ物。



写真１－46：きねつきのおどり
静内民族文化保存会。

６　歌とおどり

アイヌの人たちは、儀式（ぎしき）の時や親しい人たちが集まった時に歌ったりおどったりしました。また、仕事をしながら歌うこともありました。

歌やおどりには、神々に感しゃの気持ちを伝えるとともに、ふだんのくらしの中での喜びや悲しみを神々と分かち合いたいという気持ちがこめられていました。

歌やおどりは、その形や方法によっていろいろな種類があります。イオマンテなどの儀式の時の歌やおどり、「きねつき」などの仕事をする時や、赤ちゃんをあやす時の歌、歌い手が「自分の気持ち」をその場で歌にして歌う歌などがあります。このほかに、長くおどり続けて体力くらべをする遊びのおどりなどもあります。

ウポポとよばれる「すわり歌」は、数人の歌い手がシントコのふたを囲んですわり、みんなでふたを軽くたたいて「ひょうし」をとりながら歌われます。

ウポポは、短い歌の言葉を、少しずつずらして

16

板書例

６　歌とおどり

◎儀式
- 親しい人達の集まり
- 仕事
- 毎日のくらし

} 神々への感謝

●ウポポ（すわり歌）
- シントコ（ウルシぬりの器）のふたを囲んですわり、手で軽くたたいて拍子をとって歌う

●リㇺセ・ホリッパ（地方によって、呼び方などが異なる）
- 大勢の人が輪を作り、中心を向いて時計の針と同じ向きにおどりながら回る
- いろいろなかけ声
- 動物のなき声

◎現在北海道では、たくさんの人たちが活動中

指導のポイント



◎　アイヌ民族の歌や踊りと儀式の関係を気づかせる。
◎　同じ歌や踊りであっても、地方によって歌や節まわし、呼び方が異なるものもある。
◎　巻末資料に添付されている楽譜や、映像資料（p.23・p.47参照）などを参考に歌ったり踊ったりする体験を組み込む。



写真１－47：輪おどり（リムセ）
白糠アイヌ文化保存会。



写真１－48：弓の舞（ク・リムセ）
帯広カムイトウウポポ保存会。

追いかけるように歌われることが多く、特ちょうのあるひびきを生み出します。

「リムセ」「ホリッパ」などとよばれる「輪おどり」は、大ぜいの人が中心を向いて大きな輪を作り、いろいろな「かけ声」や「動物のなき声」などを入れ、かん単な足の運びと手のふりをくり返しながら時計のはりのように進んでいくおどりです。

ほとんどのおどりは女の人によっておどられますが、「剣の舞（エムシ・リムセ）」や「弓の舞（ク・リムセ）」などは、男の人によっておどられます。

伝統的な『古式舞踊』は地域の特色をもち、各地の保存会で受けつがれています。そのうち17の保存会が受けついでいる古式舞踊が国の『重要無形民俗文化財』に指定されています。

これらの保存会は、毎年国内で開かれるアイヌ民族文化祭やアイヌ文化フェスティバルだけでなく、アメリカ・イギリスなどの海外へもでかけて活やくしています。

地域によってこんなにちがうよ！

ウポポに『チュッカワカムイラン』という歌があります。地域によって、歌詞や曲が少しちがいます。

Aは平取地方で、「東の方から神がおりて、アオダモの枝にとまった。岩角に強い羽音を感じた」という内容です。

Bは釧路地方で、「東の方から神様がおりた。下界の山の上にお下りなされた。下界の山の上に、金色に輝き、長々とたなびいて」という内容です。

※輪唱する時は、最初に歌ったグループが②にきたら、次のグループが①から歌いはじめます。



17

◆活動の流れ３

★指導のねらい

「活動の流れ１」で鑑賞した映像資料をもとに、簡単に歌ったり踊ったりできるものを選択して、実際に体験してみる。

☆発問１

ビデオを見て、踊ったりできそうなものを選んでみましょう。

☆発問２

選んだ曲をみんなで真似て踊ってみましょう。



【資料】

- アイヌ民族の歌や踊りに関する記録は江戸時代からあるが、1799年に成立したとされる『蝦夷島奇観』には、絵で描かれている。
- 1897年、フランスのリュミエール社により、アイヌ民族の踊りの映像が記録されたほか、1900年頃には、ポーランドのピウスツキーが、サハリン（樺太）アイヌの歌や物語を蝋管に録音した。
- 歌や踊りの呼び方も、地域によって異なることがある。（例：立って輪になって踊る踊りを胆振の白老地方では、「リムセ」というが、日高の沙流地方では主に「ホリッパ」と呼び、旭川地方では「ウポポ」という）
- 踊りの大半は女性が踊るが、「剣の舞」「弓の舞」などは、男性が踊る。
- アイヌ民族の学者知里真志保は、「（アイヌ民族が）歌うのは、主として彼らの生命を脅かす諸々の悪魔を威嚇して遠ざけ、良い神々の助けを呼ぶため」と述べた。
- 国の重要無形民俗文化財でもあるアイヌ古式舞踊が、2009年、ユネスコ世界無形文化遺産に登録された。

7．楽　器

本時のねらい

アイヌ民族の楽器の種類やつくり、音の出し方などを知り、実際に演奏したり聴いたりして楽しむ。

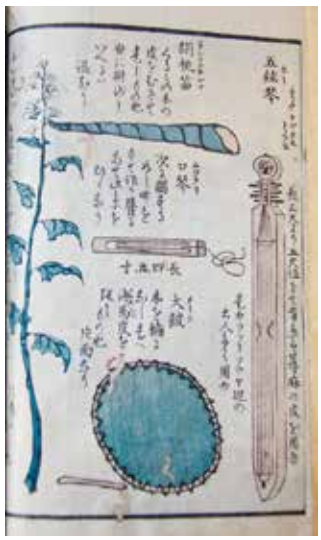
◆活動の流れ1

★指導のねらい

挿絵や写真をもとに、アイヌ民族の楽器について知っていることなどを出し合う。

☆発問1

写真（1－49・56）の人が弾いているものは、何でしょう。この楽器を弾いたり、聴いたりしたことのある人は、そのことを発表してください。



写真（1―51）の右のページには、楽器の名前や弾き方が記されている。（『蝦夷漫画』）



写真1－49：ムックリをひく女の人



写真1－50：いろいろな大きさのムックリ



写真1－51：いろいろな楽器の絵
たんけん家の松浦武四郎（松浦武四郎）が、150年ほど前にかいたアイヌの人たちのいろいろな楽器です。
ひとつひとつの楽器と、それをひいている人たちの様子が記録されています。

7　楽器

◎ムックリ

ムックリはアイヌの人たちの楽器の一つで、「口琴（こうきん）」ともよばれています。

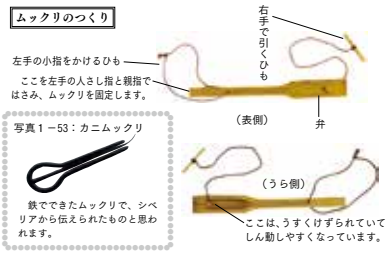
材料は竹などを使い、長さは10～15cmくらいで、はばは1cm前後、あつさは2mmくらいです。

板の真中には弁（べん）という切りこみがあり、えんそうする時は、弁のはじに付けたひもを引いて弁をしん動させます。

ムックリは、そのしん動を口の中の空気に伝えてならす楽器です。



写真1－52：その他の楽器
サハリン（樺太）で使われていた「たいこ（カチョ）」です。大きさは40～50cmくらいで、丸いわくの片方に皮をはり、細長い木に毛皮などをまいたバチでたたいて音をならします。楽器というより、儀式の道具として使われていました。



板書例

7　楽　器

○ムックリ（口琴（こうきん））
- 材料～竹
- ひもを引いて弁（べん）をしん動させる
- 舌の動きや呼吸のしかたを変えていろいろな音色を出す（口琴）

※鉄でできたものも、大陸から伝えられた（カニムックリ）

○トンコリ（5げん琴（きん））
- 材料～エゾマツ、トドマツなど
- 樺太アイヌの楽器
- げんをはじいて音を出す
- ひく姿勢はいろいろ（男～あぐら・女～正座）

※立ったり横になってひく方法もある

○カチョ
- 樺太アイヌの「片面たいこ」
- 材料～トド、アザラシの皮

※儀式の時に使った

指導のポイント



◎　ムックリは数本用意し、実際に児童に体験させる。
◎　ムックリやトンコリの演奏を直に聴かせることが望ましい。
　※最低でも演奏ＣＤや映像資料を使う。
◎　ムックリは半製品を使用すると１～２時間程度で製作が可能なので、時間を確保して実際に製作すると、より身近な楽器となり、興味関心も更に広がる。



写真１－54：シコタン島で発見された昔の３弦トンコリ



写真１－55：アイヌもようの入った５弦トンコリ

◎トンコリ

主にサハリン（樺太）に住んでいたアイヌの人たちの楽器で、弦を両手の指ではじいて音を出します。音は和楽器の「琴」ににています。

男の人は「あぐら」をかいて、トンコリを左かたに立てかけて、女の人は「正ざ」をして同じように左かたに立てかけてひきます。



トンコリについて

トンコリは「箏」の仲間で、材料には、エゾマツ・トドマツ・オンコ・ホオノキ・ハルニレ・ナナカマドなどが使われます。

長さは70～120㎝くらいのものがふつうですが、時には150㎝くらいの長さのものもあります。

はばは、10㎝くらい、あつさも形によっていろいろありますが、5㎝くらいのものが多いようです。

弦はシカやトナカイの足のスジなどを使いました。また、イラクサのせんいをよって糸にしたものを使ったこともありました。弦はふつうは5本ですが、3本や6本のものもあります。

曲は自然世界のさまざまな音や、動物の声・動きなどを表していますが、病気やさいなんを取りはらうためのいのりにも使われました。



写真１－56：座ってトンコリをひく女の人

19

◆活動の流れ２

★指導のねらい

ムックリやトンコリのつくり、音の出し方を理解する。

☆発問１

ムックリやトンコリはどうやって弾き、どんな音がするのでしょう。

☆演示１

実際にムックリやトンコリを演奏して聴かせ、感想などを発表させる。

＊実物がない場合や、授業者が演奏できない場合には、市販されているＣＤやＤＶＤを利用する。
＊ムックリの半製品も市販されている。

◆活動の流れ３

★指導のねらい

ムックリやトンコリの演奏を体験させる。

☆発問１

実際に演奏して、どんなことを思いましたか。

【資料】

●　口琴は、世界中に広く分布しており、特に東アジア周辺において多く見ることができる。材質は竹や金属を用いる。
●　1990年、埼玉県大宮市の遺跡から、平安時代の口琴（金属製）が２点発掘されている。
●　現在見られるトンコリの持ち方や奏法には様々なものがあるが、直接樺太アイヌからトンコリ演奏を採譜した富田友子さんによれば、「左肩から右前方に斜めに両手で抱え、下駒の少し上を両手で弾く」のが基本という。
　また、立って弾く「立奏」や横に寝て弾く「横臥奏」などもある。トンコリは弾く人の手の大きさに合わせて作られる。
●　範奏ＣＤ・ＤＶＤも市販されているが、インターネット動画も利用できる。

※　江戸時代の文政年間（1818～1829）に口琴が子どもの遊びとして大流行したが、庶民の幕閣揶揄に用いられたこともあって禁止されたとの記録がある（『海録』 山崎美成　1837年）。

8．文　芸

本時のねらい

アイヌ民族が作り上げてきた口承文芸にはいろいろな種類があり、アイヌ民族の精神世界を伝えるものであることを理解する。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

現在に伝わる昔話などを題材に、どんな話があり、どんなものが登場するか話し合う。

☆発問１

自分たちが聞いたり読んだりしてきた昔話には、どのようなものがありますか。

また、どんな人や動物が登場しますか。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

副読本を読みとり、アイヌ民族の口承文芸は、大きく３つに分けられることを知る。

☆発問１

「口承文芸」とはどのようなものですか。

☆発問２

「口承文芸」の中の物語の種類にはどのようなものがあり、それぞれの特徴は、どのようなものですか。





写真１－57（左）写真１－58（右）：英雄の物語（ユカㇻ）を語るアイヌの人をえがいた昔の絵

ユカㇻの一部分から

私を育ててくれているおばの家の宝物を置く所に、シカの角のある衣がありました。おばがねている間に、私はその衣を着て外に出ました。人は通ってはいけないという道を通って「神の遊び場」に着きました。

池に飛びこんで泳いでいると、男たちがやってきて私を見つけ「シカだ、矢をうて」とさけび、矢をたくさんうってきました。私はそれを角でポンポンと受け一つも当たることなく、男たちに向かって打ちました。ほとんどの男はにげましたが、一人の大きな男が向かってきました。でも、私は角ですくって池の中にさかさまにしてしずめてやりました。

家に帰ってみると、おばはまだねていたので、静かに衣をぬいでもとからねていたようにしてねました。（語り・八重九郎）



写真１－59：ぼうでひょうしをとりながら「ユカㇻ」を語る八重九郎

8　文芸

アイヌの人たちが、長い時間をかけて受けついできた文化の一つに、『口承文芸』があります。

口承文芸とは、文字で書かれたものを読むのではなく、語り手の話を聞いて楽しむものです。

口承文芸はいろいろな種類がありますが、その中の物語は、大きく「英雄の物語」「神々の物語」「むかし話」の３つに分けられています。

◎英雄の物語

「ユカㇻ」とも言われるこの物語は、空を自由に飛びまわったり、海に深くもぐったり、岩や土の中でも通りぬけることのできる「超人的」な少年が主人公で、自分を育ててくれた一族のてきとのはげしい戦いなどを内容としています。

これを語る人は、木のぼうで炉のふちをたたいてひょうしをとりながら節をつけて語ります。長い物語には、語り終えるのに何日もかかるようなものもあります。

20

板書例

8　文　芸

○アイヌ民族の文芸
　口づたえによる語り～口承文芸

●英雄の物語（ユカㇻ）
- 主人公～ちょう人的少年など
- 語り手によって節は異なる
- ぼうで拍子をとる

数時間～数日かかるものもある

●神々の物語（カムイユカㇻ）
- 主人公～動物・植物のカムイ
- きまった節をつけて語る
- くりかえしの言葉（サケヘ）

神々と人間の関係を学んだり、生きていく知恵

サケヘ → 物語の主人公を示す繰り返しの言葉
- キツネであれば、鳴き声の「パウパウ」

●昔話（ウエペケレ・ウチャㇱクマ）
- 主人公～人間・カムイ・植物
- 心がけの良い人は幸せ
- 心がけの悪い人は不幸

→ 社会や自然の中で生きていく時の心がけ

指導のポイント



◎　文芸の継承は、文字のみではないということをおさえ、いわゆる「文字を持たない文化は低い」という考え方の誤りに気づかせる。
◎　同化政策により、アイヌ語を話すことを事実上禁止され、日常生活の「和風化」のため口承が途絶えかけた。
◎　口頭による解説に加え、具体的な映像・音声資料が不可欠であるので、何種類かの資料を常備しておく。



写真１－60：『カムイユカラ』にかかれたキツネのカムイのさし絵（成田英敏・絵）



写真１－61：絵本になった昔話『ポロシルンカムイになった少年』（北市哲男・絵）

◎神々の物語（カムイユカラ）

主人公である動物や植物などの神が、神の世界や人間の世界で体験したことを語る物語で、「サケヘ」とよばれるくり返しの言葉をはさんで、節をつけて語られるという特ちょうがあります。

昔のアイヌの人たちは、子どものころからこのカムイユカラを何度も聞くことで、神々と人間の関係を学び、生きていく知恵を身に付けたと言われています。

カムイユカラでは、アイヌの女性・知里幸恵の書いた『アイヌ神謡集』が特に有名です。

◎むかし話（ウエペケレ・ウチャシクマ）

節をつけずに話される物語で、登場人物も人間やカムイ、動物、道具などいろいろです。内容は、主人公がいろいろな苦労や危険にあいながらも、最後には心がけの良い者は幸せになり、悪い者にはばちがあたるという形が多く、社会や自然の中で生きていくための心がけを示したものでした。



写真１－62：『アイヌ神謡集』を書いた知里幸恵（十四歳の頃）

カムイユカラ『ヤチダモの木の神』が語る物語の一部

私（ヤチダモの木の神）が滝の上に立っていると、オキクルミがたくさんの道具を持ってきて「この愚者め。お前のかたい肉を引っこめてやわらかい肉を出したなら、お前を舟にして商売にいくからな」などと悪口を言って切り倒そうとした。私は腹が立ったので、反対に固い肉を外に出して切れないようにしてやった。

しばらくすると、サマイェクㇷ゚がやってきて、私の前に礼ぎ正しく座って２、３度おいのりをし「ヤチダモの木の神よ。あなたのやわらかい肉を出してくれたら、あなたをきれいな舟にして交易にでかけ、お酒やいろいろな品物であなたのふところをいっぱいにしてさしあげます」といった。それを聞いて、私はかたい肉を引っこめて、やわらかい肉を出して切られてやった。（語り・杉村キナラブック）

◆活動の流れ３

★指導のねらい

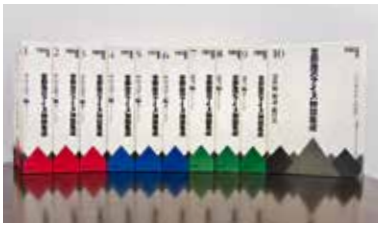
実際にＤＶＤやＣＤ・ＶＴＲなどで口承文芸を鑑賞し、感想を持たせる。

☆発問１

ＤＶＤやＣＤ・ＶＴＲを見て、どのように感じましたか。



㈶アイヌ無形文化伝承保存会編
「アイヌ文化を学ぶ」



萱野茂
「萱野茂のアイヌ神話集成」

【資料】

●　アイヌ文学の代表作として有名な『アイヌ神謡集』（知里幸恵）をはじめ、その後公刊された「アイヌ文学」は、文字で書き表わされているものの、もともとの素材は、口承文芸によるものである。
●　口承文芸のうち、「語り物」と呼ばれるものの分類にはいろいろある。

アイヌ口承文芸
- 言葉遊び
- 唱えごと
- 歌
- 語り物
  - 神謡（カムイユカラ・オイナ・トゥイタㇰ）
    ※固有の節をつけ、「サケヘ」「サハ」という、繰り返しの言葉と共に語る。
  - 英雄叙事詩（ユカラ・サコロペ・ハウキ・ヤイェラㇷ゚）
    ※語り手個人の節をつけ、棒で拍子をとって語る。
  - 散文説話（ウエペケレ・トゥイタㇰ（地域によっては神謡の中に入る）・トゥイタㇵ・ウチャシクマ・イソイタッキ）
    ※節をつけないで語られる物語。

（『アイヌの歴史と文化Ⅱ』榎森進編　2004年）

オリエンテーション

本時のねらい

アイヌ語やアイヌ文化は、今どうなっているか、なぜそうなったか、自由に考えることができる。

◆アイヌ民族の歴史を学ぶにあたって

「アイヌ民族の歴史」には、民族を支配する権力者は登場しない。権力者のための文化遺産も登場しない。歴史学習を「王朝の交替や政治権力の移り変わり、それらによる「業績」や文化遺産を理解すること」と捉える人もいるかもしれない。しかし、この見方は「アイヌ民族の歴史」にはまったく当てはまらない。

もとより、近代以前のアイヌ社会にも貧富の差はあり、有力な指導者も登場しており、美化・理想化は避けなければならない。アイヌ民族は周辺の文化の人々と接触し、時にはその文化の影響を受けつつ、独自の文化を作っていった。近代以前は漁労、狩猟、採集社会であった。

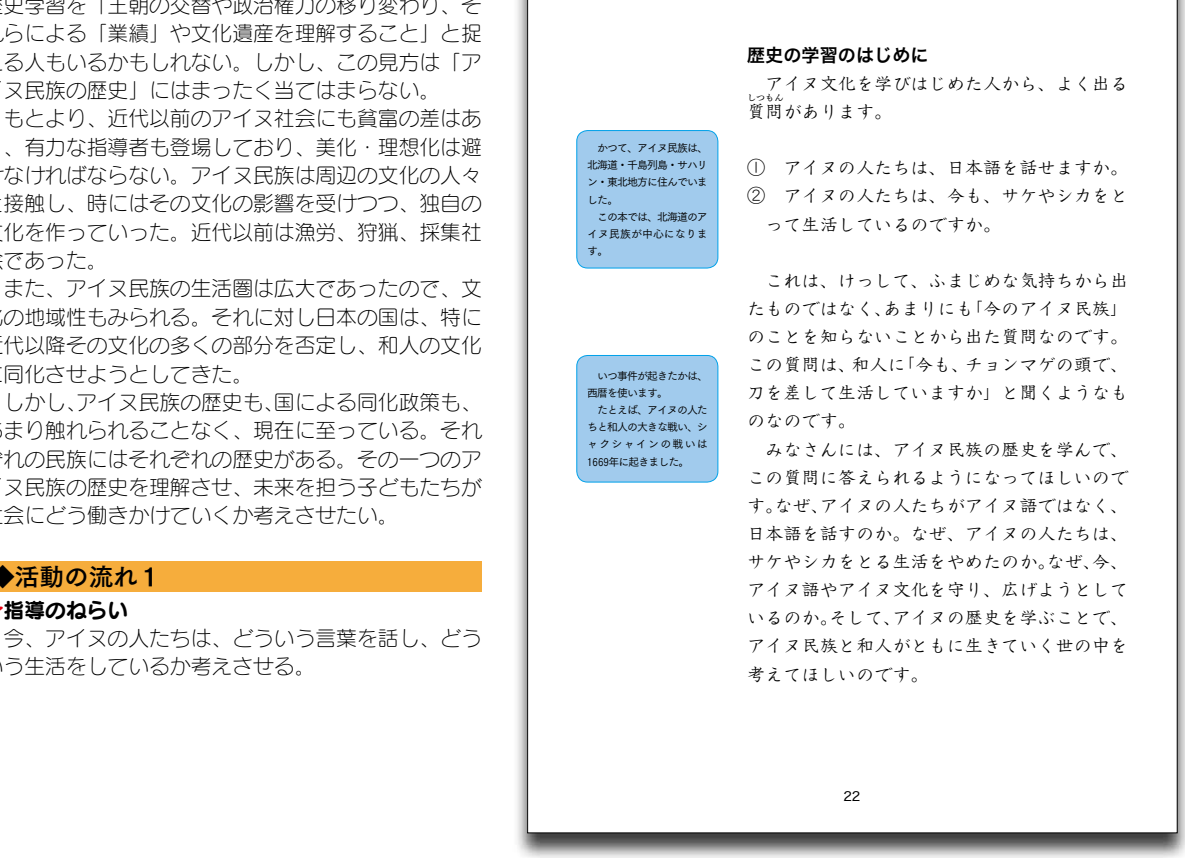
また、アイヌ民族の生活圏は広大であったので、文化の地域性もみられる。それに対し日本の国は、特に近代以降その文化の多くの部分を否定し、和人の文化に同化させようとしてきた。

しかし、アイヌ民族の歴史も、国による同化政策も、あまり触れられることなく、現在に至っている。それぞれの民族にはそれぞれの歴史がある。その一つのアイヌ民族の歴史を理解させ、未来を担う子どもたちが社会にどう働きかけていくか考えさせたい。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

今、アイヌの人たちは、どういう言葉を話し、どういう生活をしているか考えさせる。



２．アイヌ民族の歴史

歴史の学習のはじめに

アイヌ文化を学びはじめた人から、よく出る質問（しつもん）があります。

かつて、アイヌ民族は、北海道・千島列島・サハリン・東北地方に住んでいました。
この本では、北海道のアイヌ民族が中心になります。

① アイヌの人たちは、日本語を話せますか。
② アイヌの人たちは、今も、サケやシカをとって生活しているのですか。

これは、けっして、ふまじめな気持ちから出たものではなく、あまりにも「今のアイヌ民族」のことを知らないことから出た質問なのです。この質問は、和人に「今も、チョンマゲの頭で、刀を差して生活していますか」と聞くようなものなのです。

いつ事件が起きたかは、西暦を使います。
たとえば、アイヌの人たちと和人の大きな戦い、シャクシャインの戦いは1669年に起きました。

みなさんには、アイヌ民族の歴史を学んで、この質問に答えられるようになってほしいのです。なぜ、アイヌの人たちがアイヌ語ではなく、日本語を話すのか。なぜ、アイヌの人たちは、サケやシカをとる生活をやめたのか。なぜ、今、アイヌ語やアイヌ文化を守り、広げようとしているのか。そして、アイヌの歴史を学ぶことで、アイヌ民族と和人がともに生きていく世の中を考えてほしいのです。

22

「アイヌ民族の歴史」オリエンテーション



１．アイヌ民族の今は？

①アイヌ語を話しているか

②サケやシカをとって生活しているか

２．歴史を通して考えてほしいこと

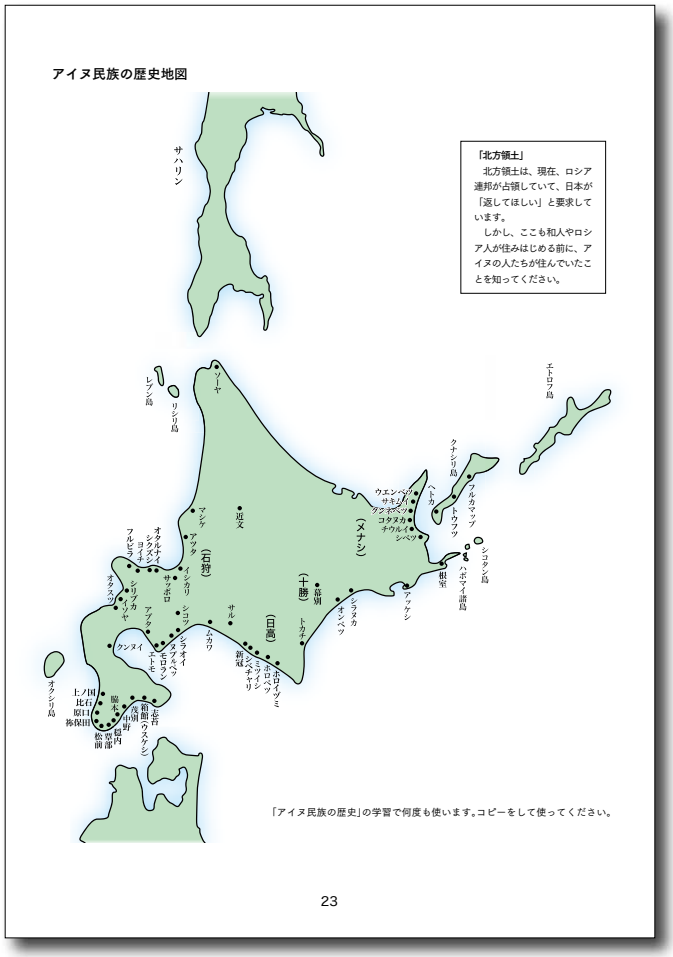
①なぜ、日本語を話すのか

②なぜ、サケやシカをとる生活をやめたのか

指導のポイント



この段階では、アイヌ史に対する深い理解や知識を求めはしない。それは「アイヌ民族の歴史」の学習を通して、理解させていくことである。ここでは、自由な意見を出させ、「これからじっくり考えていこう」という動機づけでよいだろう。



☆発問１
アイヌの人たちは、現在、アイヌ語を話しているか。

☆発問２
アイヌの人たちは、今もサケやシカをとって生活しているか。

☆発問３
上記のような質問が多く出されるが、どう思うか。

◆活動の流れ２

★指導のねらい
アイヌ民族は（北海道・千島列島・サハリン・東北地方北部）の先住者であるが、今、生活や文化がどうなっているかを考えさせたい。そうすることで、和人などによって、生活・文化が奪われたことにつなげることができる。ここでは、「和人などが生活・文化を奪った」とすぐに結論づける必要はない。それは、「アイヌ民族の歴史」を通して考えていけばよい。以下の発問の答えは、歴史学習を進めていく中で見つけていってほしい。

☆発問１
なぜアイヌの人たちは、今、アイヌ語ではなく日本語を話すのか。

☆発問２
なぜアイヌの人たちは、サケやシカをとる生活をやめたのか。

【資料】
〔北海道以外のアイヌ民族は？〕

〔樺太アイヌ〕
1875年の樺太・千島交換条約で841人が北海道に移住しなければならなくなった。宗谷に移住後、石狩、対雁（ついしかり）（江別市）へ強制移住させられた。そのうち４割近くが伝染病で亡くなった。また、日露戦争の後、サハリンに帰った人々もいる。アジア・太平洋戦争の後（1945年）、樺太に住むアイヌ民族は、大部分が北海道に移住させられた。

〔北千島アイヌ〕
樺太・千島交換条約で97人がシコタン島へ強制移住。他の人々はロシア国籍を選び、ロシア国内へ移住。

1．縄文文化からアイヌ文化へ

本時のねらい

縄文文化からアイヌ文化へ、変わったところと、変わらなかったところがわかる。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

北海道の縄文時代の生活の様子を理解する。

土器、たて穴住居、毛皮の衣服、弓矢、石器などの生活用具を通して、縄文時代の狩猟・採集の生活を理解する。

☆発問１

北海道の縄文時代の想像図から、どういう生活がわかるか。

＊たて穴住居は円形や多角形である。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

北海道の擦文時代の生活の様子を理解する。

土器、たて穴住居、小刀（交易品）、丸木舟（交易品の運搬）、農耕（アワなど）を通して、擦文時代の生活を知る。

☆発問１

縄文時代と擦文時代の想像図を比べ、わかることは何だろうか。

＊たて穴住居は方形、炉のほかにかまどがある。農耕は行われていたが、狩猟採集の生活が基本だった。



北海道の縄文時代の想像図　～上の図からどういう生活がわかるだろうか



はってん

石器や土器はどういうものか、図鑑で調べましょう。

北海道には縄文時代と擦文時代の間に、続縄文時代がある。
続縄文時代は、和人の弥生・古墳時代にだいたいあたり、本州から鉄器が入るようになった。生活は縄文時代とあまり変わらなかったようだ。

1　縄文文化からアイヌ文化へ

北海道では、１万年あまり前から２千年ほど前までを、縄文時代と言います。

縄文時代の人たちは、アイヌ民族の祖先と言われています。狩りや漁、採集の生活をしていました。石（石器）やほねで作った道具を使って、海や陸の動物をとりました。食べ物は、ねんどを焼いて固めた入れ物（土器）に入れました。土器は、食べ物を煮る鍋や、皿にしました。



擦文時代の想像図

板書例

1　縄文文化からアイヌ文化へ

狩りや漁の生活

⑴縄文時代
- １万年あまり前～２千年ほど前
- 土器、石器、たて穴住居、毛皮、弓矢

⑵擦文時代
- 1500年ほど前～800年ほど前
- 土器、たて穴住居、農耕（アワ）も
- 和人の政府ができ、物々交かんがさかんになる。

⑶アイヌ文化の時代
- 800年ほど前から百数十年前
- 弓矢、農耕、チセ（家）、倉庫
- 和人などとの交かん～はもの、鉄なべが入り、石器は使わなくなった。

指導のポイント



北海道では１万年あまり前から２千年ほど前を縄文時代、２千年ほど前から1500年ほど前を続縄文時代、1500年ほど前から800年前を擦文時代、800年ほど前から百数十年前をアイヌ文化の時代と言った。どの時代も漁労、狩猟、採集が生業だったが、交易やアイヌ民族の祖先が独自に発展させた方法により、生活の内容は変化していった。

1500年ほど前から800年ほど前を、擦文時代と言います。このころ、奈良や京都には、和人の政府ができ、本州・四国・九州で領土を広げていきました。擦文時代の人たちは、和人から鉄を手に入れ、だんだん石器を使わなくなりました。擦文時代は、およそ和人の奈良・平安時代にあたる。

かんがえよう
縄文時代と擦文時代の想像図をくらべ、わかることは何だろうか

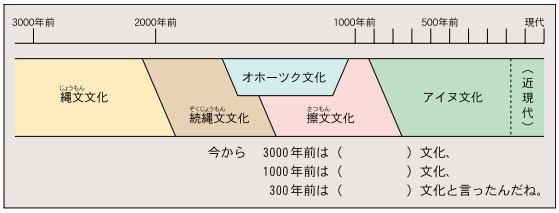


アイヌ文化の時代の想像図

今から、800年ほど前から百数十年前までを、アイヌ文化の時代と言います。狩りや漁、採集の生活をしていましたが、石器も土器も使わなくなりました。かわりに、和人からいろいろなものを手に入れました。

かんがえよう
前の時代とアイヌ文化の想像図をくらべ、わかることは何だろうか

アイヌ文化の時代は、およそ和人の鎌倉～江戸時代にあたる。



25

◆活動の流れ３

★指導のねらい

北海道のアイヌ文化の時代の生活の様子を理解する。
狩猟（弓矢など）、農耕（アワなど）、住居（平地式）、衣服（木綿衣）などを通して、アイヌ文化の生活を知る。

☆発問１

前の時代とアイヌ文化の想像図を比べ、わかることは何だろうか。

＊交易の拡大によって、石器・土器も必要としなくなった

☆発問２

縄文、擦文、アイヌ文化を通して変わらなかったことは何だろうか。

答　狩猟採集の生活

◆活動の流れ４

★指導のねらい

近代より前の北海道の時代をまとめる。
時代区分の年表に時代名を入れる。

☆発問１

年表の下にある（　　）をうめよう。

【資料】

地域による例外はあるが、大ざっぱに各時代の特徴は次のようになる。

時代名	弓矢	土器	たて穴住居	石器	鉄器
縄　　文	○	○	○	○	×
続　縄　文	○	○	○	○	○
擦　　文	○	○	○	△	○
アイヌ文化	○	×	×	×	○

※擦文時代は初期にしか石器は使用していない。

【用語】（「アイヌ文化」という時代区分について）

北海道では、縄文から19世紀後半まで、大きな人の移り変わりはない。また、アイヌ民族の文化は、現代も発展している。そういう意味で、13･14世紀～19世紀なかばのみを「アイヌ文化」と呼ぶ時代区分は誤解を与える。ここでは、それに替わる用語がないため、便宜的に使用したが、新たな時代区分と用語が求められる。

2．コシャマインの戦い

本時のねらい

アイヌの人たちの自由な交易の時代、和人が道南地方に住み始め、コシャマインをリーダーとする戦いが起きたことがわかる。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

今から800年前から400年ほど前、アイヌの人たちが自分たちの意志で交易していたことを理解する。アイヌの人たちは、狩りや漁でとったものを持って、千島列島のラッコ、アジア大陸の「蝦夷錦」、本州北部の米・布などと交換したことを理解する。

☆発問１

（p.26の地図をコピーして）北海道のアイヌの人たちはどこまで出かけたか、線を引こう。

また、交換したものは何だろうか。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

和人がヨイチ、ムカワまで侵入したことを理解する。

和人が北海道のサケ・コンブを求めて、あるいは本州北部の武士が移住してきたことを理解する。

☆発問１

（p.23の地図をコピーして）ヨイチからムカワの場所に印をつけよう。

（写真２－１）を見て、誰が集めたのだろうか。



２　コシャマインの戦い

板書例

⑴アイヌの自由な交易
- 800年～400年ほど前
- 千島列島からラッコの毛皮
- アジア大陸から「えぞにしき」
- 本州北部から米、布

自分たちの意志による自由な交かん

⑵和人が北海道南部にしん出
- サケやコンブを求めて
- 戦いに敗れたさむらいがにげて来た
- ヨイチ・ムカワまで住む

⑶コシャマインの戦いが起こる
- 12あった館～10の館がおちる
- 和人の住むところ

～松前・上ノ国あたりだけになる

指導のポイント



コシャマインの戦いは、最終的にコシャマイン父子が戦死するものの、和人がヨイチ、ムカワまで侵入したことへの反撃であり、本来持っていた生活圏を回復した事件である。

また、ヨイチからムカワ以西に和人の集落が出現したが、アイヌ集落も共にあったことを確認しておきたい。



写真２－２：上ノ国の勝山館の復元模型

みはじめました。北海道でとれるサケやコンブが売れるので、それを求めてきたのです。また、本州の北部での戦いに敗れたさむらいが、北海道に逃げることもありました。そのためにアイヌの人たちの土地だった、ヨイチからムカワのあたりにまで、和人が住むようになったのです。

そういう時、志苔（函館市）でアイヌの少年が和人の鍛冶屋に殺されるという事件がおきたのです。この事件がきっかけとなって、コシャマインをリーダーとするアイヌの人たちと、和人との間で戦いがはじまりました。

この戦いで、12あった和人の館のうち、10の館がおちましたが、コシャマインは戦死しました（1457年）。この戦いの後、数十年の間、和人の住むところは松前や上ノ国だけになりました。

コシャマインの戦いでおちた10の館

志苔・箱館・中野・脇本・穏内・葦部・松前・茂別・脇本・穏内・葦部・松前・恭保田・厳口・比石

のこった館

茂別・上ノ国（花沢館）

アイヌの人々と和人の住むばしょのへんかを調べてみましょう。

ヨイチからムカワってどこかな。23ページの地図に線をひこう。

1432年、津軽安藤氏による

かんがえよう

先に住んでいたアイヌの人たちはどう思っただろうか。

ことば

館

館とは和人のさむらいが作ったお城に似たものです。

コシャマインの戦いによっておちた10の館の場所はどこかな。23ページの地図に×印をつけよう。

松前、上ノ国はどこかな。23ページの地図に線をひこう。

◆活動の流れ３

★指導のねらい

コシャマインの戦いによって、和人の行動範囲が大きく縮小したことを理解する。

12あった和人の館のうち、10の館が落ちたこと、松前・上ノ国方面には和人が住み続けたことを理解する。

☆発問１

アイヌの少年が殺され、先に住んでいたアイヌの人たちはどう思ったか。

（p.23の地図に）戦いで落とされた10の館に印をつけ、松前・上ノ国の範囲に線を引こう。

◆その裏には

北海道南部に和人が住み始めるには、津軽安藤氏の北方交易拡大というバックアップがあったようだ。

しかし、安藤氏は1430年頃から隣接の南部氏に攻められ弱体化していった。

そして、1453年には安藤氏本家が滅び、北海道南部の和人の後ろ盾がなくなってしまった。そんなときにコシャマインの戦いが起きたと言える。

【資料】

〔コシャマインの戦いの直接原因〕

ウスケシ（函館のこと）のアイヌに攻められたこと。シノリの鍛冶屋の村には家が数百あった。1456年春、オッカイ（アイヌの少年のこと）が来て、鍛冶屋とマキリ（小刀）がよいか悪いか、値段のことで言い合った。鍛冶屋はマキリを取って、オッカイを殺した。このために、アイヌが戦いを起こした。

（『新羅之記録』）

〔オッカイとはどういう意味？〕

シノリで殺された上記のオッカイとはどういう意味か。現在の北海道西部の辞典にはこの語は見られず、道東部では「男」の意味だとする。

ところで、この事件は『新羅之記録』（1646年）に「乙孩来て鍛冶に靡刀を打たしめし処、…」と記されている。同じ道南地方、同じ17世紀の書である諸史料では、オッカイの意味として「少年」（『アンジェリスの第一蝦夷報告』）「わらんべ（童）」（松前の言）とある。そして、それ以前には、アイヌ語単語の意味を記した史料はない。これは「少年のアイヌ」ということなので、コシャマインの戦いのおりのオッカイは少年と推測できる。ただし、この少年の年齢幅については、さまざまな見解が入る余地がある。

なお、18世紀になると「少年」のほかに「男」の意味も登場するが、この事件を解説した『福山秘府』には「按所謂乙孩者即言二少年夷一也」と記されている。

3．シャクシャインの戦い

本時のねらい

アイヌ民族と和人の交易の変化などを通して、シャクシャインの戦いの経過を理解する。

◆活動の流れ１　（p. 23の地図をコピー・配布）

★指導のねらい

シベチャリのチャシ（写真２－３）を見て、どういう事件が起きたかを知る。

17世紀頃、松前や上ノ国に和人が住み、松前氏が治めていたことを知る。

☆発問１

シベチャリのチャシでは、どういう事件が起きたか（この段階では正答を求めない）。

答　シャクシャインがだまし討ちにされた翌日、松前氏の軍勢が攻めてきた。松前勢は火を放ちチャシを落とした。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

アイヌ民族に対し、松前氏が一方的に交易を有利にしたことを知る。松前氏の家来とアイヌ民族の交易のしくみを知る。

☆発問１

アイヌ民族と和人の交易の変化に、アイヌ民族はどう思っただろうか。

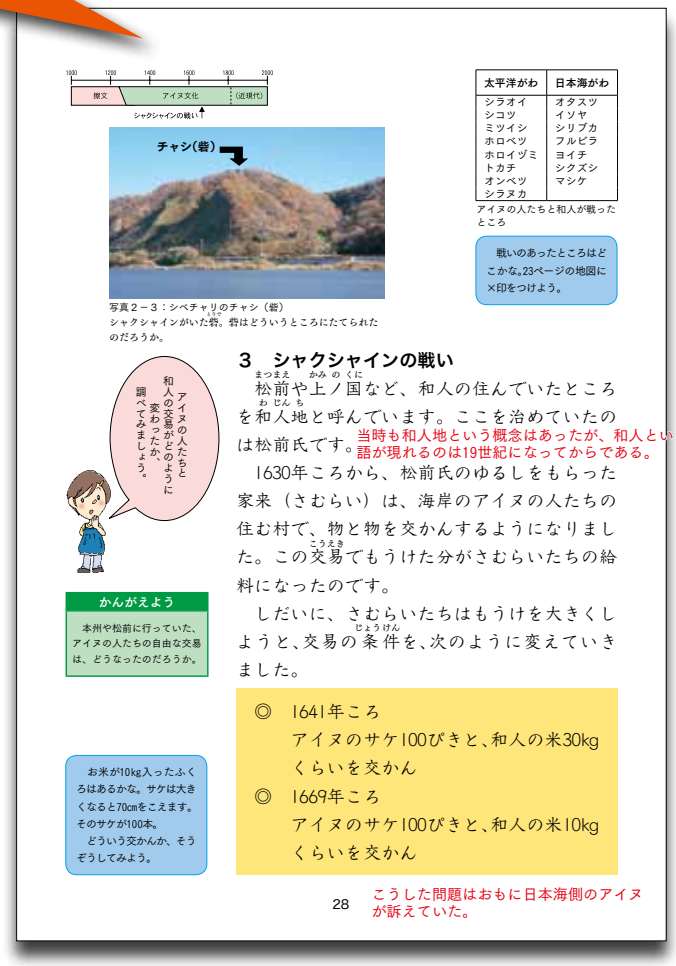
◆活動の流れ３

★指導のねらい

交易以外にも、アイヌ民族が戦いを決めた原因を考える。

☆発問１

和人の砂金掘りや鷹を獲る人が入ってきて、アイヌの人たちの生活はどのようになったか。



3　シャクシャインの戦い

松前・上ノ国方面…和人地
松前氏が治める
シャクシャインの戦い…アイヌ民族と
松前氏が戦う

〔原因〕
①サケと米の交かんで松前氏が有利に
②砂金掘りやタカとりも入る
③ウス山、タルマエ山が噴火

〔戦いのようす〕
戦いは全道の海岸に広がる
シャクシャインがだまし討ちに

〔戦いの後〕
松前氏の力が強まる

指導のポイント



シャクシャインの戦いにはいくつかの原因があるが、ここでは松前氏とアイヌ民族の交易（米とサケ）の変化を読みとることで、戦いの原因や結果を知ることにつなげたい。戦いの後の詳しい史料は見られないが、松前氏の軍事力を背景に服従の誓いを強制したことは間違いない。



これはシャクシャインの戦いのころの絵ではなく、18世紀の絵である。

日本海側の首長が要求した交易のパターン。これをウイマムと言う。

写真２－４：交易するための物を持って松前城に行くアイヌの首長。戦いのあと、どういう関係になったのだろうか。

そのほか、和人の砂金ほりや、鷹をとる人が、アイヌの人たちの村に入ってくるようになりました。

こうした問題はおもに太平洋側のアイヌが訴えてきた。

こうしたことが重なり、アイヌの人たちの不満は高まりました。1669年、シャクシャインをリーダーとするアイヌの人たちの戦いがはじまりました。この戦いは、結局、松前のさむらいが勝ちました。そして、「戦いをやめる話し合いにこないか」とシャクシャインを呼び出し、だましうちにしました。

その後、松前のさむらいはアイヌの人たちから刀を取り上げ、「松前の言うとおりにする」と誓うことを強制しました。また、交かんの条件は

> アイヌの生サケ100ぴきと、和人の米20kgくらいを交かん

というようになりました。

29

このころ、ウス山やタルマエ山がふん火しました。これもアイヌの人たちの生活を苦しめたかもしれません。

かんがえよう

アイヌの人たちの生活はどのように変わったかな。

鷹をどうしてとったのか？
⇒さむらいが鷹がりをするために、北海道の鷹をとった。

人物しょうかい

シャクシャインは、シベチャリ（静内）の首長でした。松前を攻めるため、仲間をあつめました。そして、その仲間は、クンヌイ（長万部）で戦いました。

かんがえよう

どうして、こういう交かんになったのだろうか。

シャクシャインの戦いの時に交易品にされたサケは、干サケ（燻製）である。一方、これらのサケは和人の需要の多い生サケ（塩漬け）で、18世紀後半の史料では、干サケより生サケの方が価格が高くなっている。1688年には、生サケ100匹と米１斗２升（18kg）を交換したという。なお、米の重さについて、現代のように端数まで厳密に量っていたわけではないので「20kgくらい」という表現をした。

☆**発問２**

自然災害（ウス山、タルマエ山噴火）で、アイヌの人たちの生活はどうなっただろうか（発問の１・２は答えを想像させる発問）。

◆活動の流れ４

★**指導のねらい**

戦いの経過を知る。

☆**作業**

「アイヌ民族と和人」が戦ったところに印をつける（p.23の地図をコピー）。

☆**発問１**

戦いはどうなったか。

◆活動の流れ５

★**指導のねらい**

戦いの後のアイヌ民族と和人の関係を知る。

☆**発問１**

松前氏はどうしてアイヌの人たちから刀を取り上げたのか。

☆**発問２**

アイヌ民族と和人の交易は、どちらが有利になったか。

☆**発問３**

写真２－４で、アイヌの人たちはなぜ松前城に行ったのか（ここでは正答を求めない）。

答　松前氏にあいさつに出向くと同時に松前で交易を行った。

【資料】

〔ヨイチアイヌの訴え〕

私たちが去年商船に乗ってきた人々を殺害したのは、松前殿のやり方がすべて悪いせいだ。かつて米２斗入りの俵（の取り引き）だったのが、現在は７・８升ほどになり、押し売りしてしまう。その上、俵物では串貝（ほしアワビ）が１束たりなければ、翌年は20束とられ、それを出せなければ子どもを人質にとられる。（『津軽一統志』）

〔「起請文の事」～誓いの強制〕

一、殿様より、どんなことを言われようとも、私はもちろん、子孫・一族、下人の男女にかぎらず、さからわないこと。（中略）

一、殿様より用事があって和人が来たときは粗略にしないこと。たとえ、和人が私用で来ることがあっても、ていねいに対応すること。（中略）寛文11（1671）年　亥年４月　（『蝦夷蜂起』）

4．クナシリ・メナシの戦い

本時のねらい

クナシリ・メナシのアイヌ民族が、和人やロシア人の侵入に対して抵抗したことがわかる。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

アイヌ社会に、ロシア・日本・中国が侵入したことを知る。

☆発問１

クナシリ首長ツキノエの絵にあるくつ､服､刀（鉄）は、どこで作られたものか（写真２－７）。

図　くつはロシア、服は中国、鉄は日本だろう。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

ロシアがカムチャツカ半島から南下、千島のアイヌ民族が抵抗することを知る。

アッケシのアイヌ民族が千島列島まで狩猟に出かけたこと、そこにロシアが侵入したことを知る。

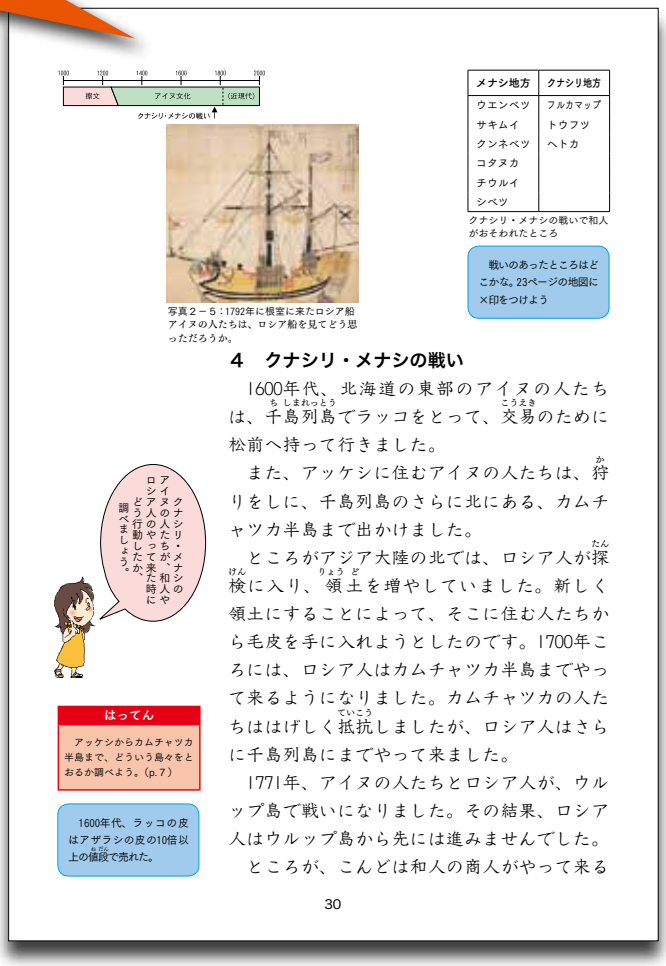
☆発問１

アッケシからカムチャツカ半島まで、どういう島々を通るか調べよう（p.7の千島列島の地図を使用）。

☆発問２

（写真２－５を見て）アイヌの人たちはロシア船を見てどう思っただろうか。

＊写真２－５は、実際にはクナシリ・メナシの戦いの後に来航したものである。



板書例

4　クナシリ・メナシの戦い

⑴北海道東部のアイヌ民族
　千島列島まで行き交易

⑵ロシア人がカムチャツカ半島から南下
　アイヌの人たちとロシア人の戦い(1771年)

⑶和人の商人が交易に来る
　交易がさむらいから商人へ
　きびしい仕事をさせられた

⑷クナシリ・メナシの戦い（1789年）
　和人をおそう
　長老たちがわかものを説得した
　松前のさむらいにより死刑に

指導のポイント



クナシリ・メナシの戦いは、和人とロシア人の侵入という中での戦いであることと、結果として和人に対する最後の武力による戦いである。

ツキノエの絵は、クナシリ・メナシの戦いの後に描かれたもの。しかも、実際にこうした服装をしたものか疑問も出されている。ただし、当時のアイヌ社会をめぐる国際関係を象徴するものと言える。



写真２－６：アイヌの人たちの戦いのようす
アイヌの人たちはどういう武器で戦ったのだろうか。



写真２－７：ツキノエ
松前で着せられた服装です。くつや服はとこのものかな。

ようになりました。シャクシャインの戦いのころは、松前のさむらいがアイヌの人たちの村で、交易をしていました。※1ところが、このころには、松前のさむらいにかわって、商人がやって来るようになっていたのです。※2クナシリ島の首長・ツキノエは、商人との交易をことわり続けますが、それも数年しかもちませんでした。

クナシリ島に来た商人は、※3アイヌの人たちに魚かすを作る仕事をさせました。※4それはとてもひどい仕事で、給料はほんのわずかで、「言うことをきかなければ殺す」とおどし、どくをのませることさえありました。追いつめられたクナシリ・メナシ地方のアイヌの人たちは立ち上がり、和人71人を殺害しました（1789年）。しかし、アイヌの長老たちは、戦いを中止するように説得し、立ち上がった人たちもそれにしたがいました。それにもかかわらず、松前のさむらいは強い態度（たいど）でのぞみ、37人のアイヌの人たちを死刑にしてしまいました。

かんがえよう
ロシア人と和人がやって来たことで、アイヌの人たちの交易はどうなっただろうか。

かんがえよう
松前のさむらいと商人では、アイヌの人たちに対する接し方にどういう違いがあっただろうか。

かんがえよう
アイヌの長老たちはなぜ話し合いするよう説得したのだろうか。

※1
商場（あきないば）知行制
※2
場所請負（うけおい）制
※3
飛騨屋久兵衛
※4
交易から漁場労働になった。

31

◆活動の流れ３

★指導のねらい

和人商人の侵入と、それに対するアイヌ民族の戦い。戦いの結果を知る。

☆発問１

松前の侍と商人では、アイヌ民族に対する接し方にどういう違いがあったか。

☆作業

（p.23の地図をコピーしたものに）クナシリ・メナシの戦いがあったところに印をつけよう。

☆発問２

（写真２－６を見て）アイヌの人たちは、当時どういう武器で戦ったか。

☆発問３

アイヌの長老たちはなぜ話し合いをするように説得したのか（答えを想像させる発問）。

◆その裏には

飛騨屋は元々、材木の商売をしていた。それがクナシリ・メナシ地方でアイヌ民族を使って漁場経営を始めたのには理由がある。1760年代に松前藩は財政が悪化し、飛騨屋などの商人から大量の借金をした。しかし、借金を返す気はなく、漁場を請け負わせることで借金を帳消しにさせた。1774年、また松前藩の借金は増え、新たな漁場を請け負わせることでこれも帳消しにさせた。飛騨屋はこの大損害を取り戻すためアイヌ民族を酷使した。

【資料】

〔戦いの前のクナシリ島〕

この春より、クナシリの運上屋へ来る者は、米・酒・みそなどに毒を入れ、クナシリ島のアイヌをすべて毒殺すると言う。この５月にアイヌ首長のサンキチが病気になり、酒を「薬にせよ」と運上屋からサンキチの家へ使いの者が持ってきて（中略）、まもなくサンキチは病死した。

なお、またフルカマップの首長マメキリの妻も、運上屋で御飯を食べ、そのまま即死したという。

（『寛政蝦夷乱取調日記（かんせいえぞのらんとりしらべ）』）

5．漁場ではたらくかげで

本時のねらい

ニシン漁などの和人の漁場経営が、アイヌ民族の生活を苦しめたことを理解する。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

和人とアイヌ民族の交易から、和人によるアイヌ民族の使役へと変わったことを理解する。

和人の漁場経営は、さまざまな水産物を手に入れようというものだが、肥料に使われたニシンを取り上げてみる。

☆発問１

ニシン漁のようす（写真２－８）を見て、誰がアイヌの人たちを働かせたのか。

＊近畿で綿などを作るのにニシンかすが必要だったことを補足する。他に、干アワビ、干ナマコ、コンブは長崎俵物として輸出された。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

ニシンの多くとれる日本海側では、人口減少が激しかったことを理解する。

人口減少地域を知ることと、そこに労働力を持っていくために、他地域のアイヌの人たちを連行、働かせたことを知る。

☆作業

（p.33の表と地図を使って）アイヌの人たちの人口減少のあった地域の地図に色をぬろう。

（本文の松浦武四郎の文を読み）サルのアイヌ民族はどこに行かされたか、サルから線を引こう（p.23の地図をコピー）。

☆発問１

何年も働きに行って帰ってこないことへの、家族の気持ちを考えよう。





写真２－８：ニシン漁のようす
だれが、アイヌの人たちを働かせたのか。



写真２－９：天然痘の予防接種をしているようす



西日本では、わたなどを作るときの肥料にニシンかすがよいことがわかって、北海道のニシンが高く売れました。

かんがえよう

出かせぎの和人が来て、アイヌの人たちの生活はどうなっただろうか。

5　漁場ではたらくかげで

かつて、北海道の日本海沿岸では、たくさんのニシンがとれていました。松前のさむらいに交易をまかされた和人の商人は、アイヌの人たちの村に行って、ニシンを買いました。

しかし、1700年代の半ばから、本州でニシンが肥料に使われるようになると、商人はもっとたくさんのニシンを手に入れたいと考えるようになりました。

そこで、商人はアイヌの人たちを働かせて、ニシン漁をするようになりました。さらに、出かせぎの和人を、アイヌの人たちの村につれて来て、早春から夏にかけて、ニシン漁をさせるようにもなりました。

次の文は、1800年代の半ばころ、北海道を探検した、松浦武四郎という人が書いた文です。

太平洋岸の日高のサルには…、家が300けん、

32



5　漁場ではたらくかげで

⑴和人とアイヌ民族の交易
↓
和人の商人がアイヌ民族をはたらかせる
↓
ニシン（肥料になる）
↓
本州へ

⑵アイヌ民族の人口
日本海側で大きく減少
↓
日高のアイヌの人たちが日本海側へ
きびしい漁場の仕事

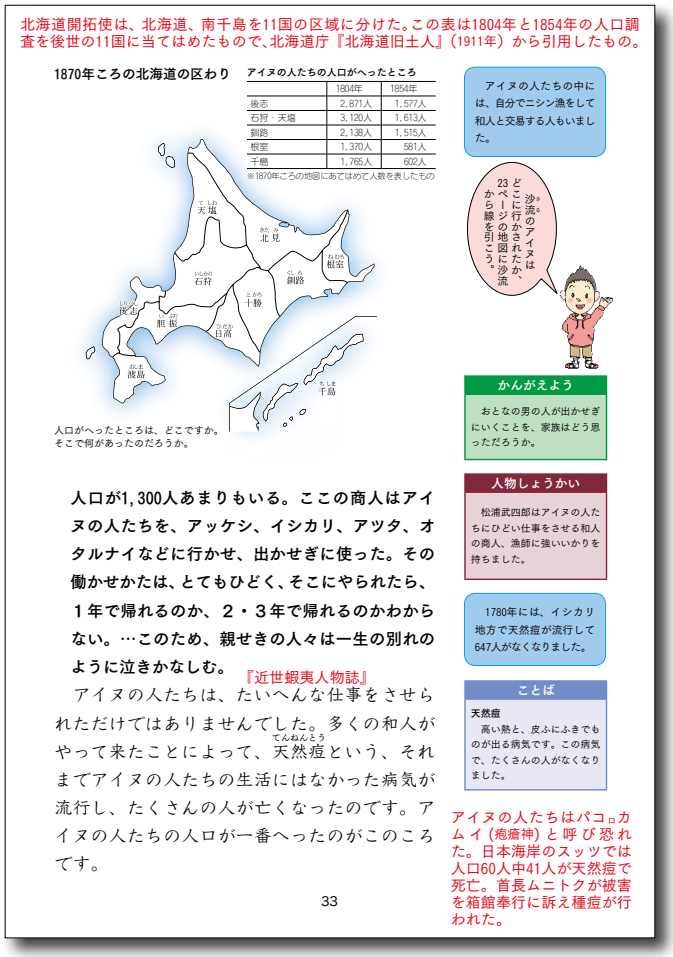
⑶和人から伝染病が入る
天然痘でたくさんの人が亡くなる

指導のポイント



アイヌ民族の人口がもっとも減少したのがこの時代である。その原因は和人の商人や漁師による強制労働で所帯を持てなくなったことと、和人から伝染した病気のせいである。

和人とアイヌ民族の交易から、和人によるアイヌ民族の使役へと変わったことをおさえておく必要がある。



北海道開拓使は、北海道、南千島を11国の区域に分けた。この表は1804年と1854年の人口調査を後世の11国に当てはめたもので、北海道庁『北海道旧土人』(1911年)から引用したもの。

1870年ころの北海道の区わり

アイヌの人たちの人口がへったところ

	1804年	1854年
後志	2,871人	1,577人
石狩・天塩	3,120人	1,613人
釧路	2,138人	1,515人
根室	1,370人	581人
千島	1,765人	602人

※1870年ころの地図にあてはめて人数を表したもの

人口がへったところは、どこですか。そこで何があったのだろうか。

アイヌの人たちの中には、自分でニシン漁をして和人と交易する人もいました。

かんがえよう

おとなの男の人が出かせぎにいくことを、家族はどう思っただろうか。

人物しょうかい

松浦武四郎はアイヌの人たちにひどい仕事をさせる和人の商人、漁師に強いいかりを持ちました。

1780年には、イシカリ地方で天然痘が流行して647人がなくなりました。

ことば

天然痘
高い熱と、皮ふにふきでものが出る病気です。この病気で、たくさんの人がなくなりました。

人口が1,300人あまりもいる。ここの商人はアイヌの人たちを、アッケシ、イシカリ、アツタ、オタルナイなどに行かせ、出かせぎに使った。その働かせかたは、とてもひどく、そこにやられたら、1年で帰れるのか、2・3年で帰れるのかわからない。…このため、親せきの人々は一生の別れのように泣きかなしむ。『近世蝦夷人物誌』

アイヌの人たちは、たいへんな仕事をさせられただけではありませんでした。多くの和人がやって来たことによって、天然痘(てんねんとう)という、それまでアイヌの人たちの生活にはなかった病気が流行し、たくさんの人が亡くなったのです。アイヌの人たちの人口が一番へったのがこのころです。

33

アイヌの人たちはパコ□カムイ(疱瘡神)と呼び恐れた。日本海岸のスッツでは人口60人中41人が天然痘で死亡。首長ムニトクが被害を箱館奉行に訴え種痘が行われた。

◆活動の流れ3

★指導のねらい

天然痘など、和人から伝染した病気によっても、多くのアイヌの人たちが亡くなったことを理解する。

☆発問1

天然痘がイシカリ地方で流行したのはなぜだろうか。

＊イシカリの漁場には、たくさんのアイヌの人たちが集められた。

◆その裏には

たくさんのアイヌの人たちが漁場で働かされる。それでは、内陸に残された人々はどうなったのか。

日本海岸の天塩川の上流にエカシテカニ（68歳）と妻のテケモンケ（50歳くらい）がいた。２人には10人の子どもがいたが、長男（30歳くらい）、長女（22～23歳）、次女（17～18歳）、次男（13～14歳）、四男（12歳）が漁場に連れて行かれ帰ってこない。山に残ったエカシテカニは失明、テケモンケは左目を大ケガ、三男はかろうじて仕事ができるが、後の４人の子どもは乳幼児である。**（『近世蝦夷人物誌』）**

＊内陸に残された人々も苦しい生活を強いられていたことがわかる。

【資料】

18世紀後半～19世紀前半の流行病や餓死の記録は次のとおりである。

1780年－イシカリ地方で天然痘が流行し、647人が死亡（『松前家記(かき)』）

1783年－ソウヤ、メナシのアイヌが800～900人、樺太のアイヌが180人餓死（『松前年歴捷径』）

1805年－ソウヤ、テシオ地方で熱病が流行し、590人が死亡（『松前家記』）

1817～1818年－イシカリで天然痘が流行し、833人が死亡

天保年間（1830～1845年）、アッケシで天然痘が流行し、半分以上が死亡（『東蝦夷夜話(とうかいやわ)』）

6．北海道の「開拓」とアイヌ民族

本時のねらい

北海道の「開拓」で、アイヌ民族の生活がどのように変えられたか理解する。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

北海道が日本の一部にされ、苗字をつけられ（創氏改名）日本国民にされたことを理解する。

☆発問１

（p.34のアイヌ民族の名前を見て）２つの時代に分けるなら、どこで分けられるか。どうしてこのように変わったか。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

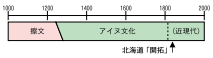
日本の国は、北海道の原始林を切り開き、町や道路、港を作り、鉄道を敷いた。そのため、アイヌ民族は住む場所を追われていったのだが、アイヌ民族にとって「開拓」が意味したものについて考えさせたい。

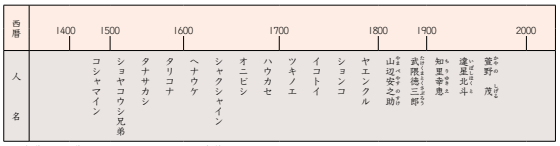
☆発問１

（写真２－11を見て）アイヌ民族の住む地に和人が住み始めた。アイヌ民族はどう生活しただろうか。

☆発問２

（写真２－10を見て）アイヌ民族の住む地に原始林が切り開かれ、町ができ鉄道が敷かれた。ここで見ているアイヌの人たちはどう思っているだろうか。





1400年代から現代までの、アイヌの人たちの名前
２つの時代に分けるなら、どこで分けられるか。どうして、このように変わったのだろうか。



北海道は、松浦武四郎が名付けた。北海道の「カイ」は、アイヌ民族を指します。

1855年に積丹半島を越えて和人女性も移住できるようになった。このため和人の定住が広がった。

6　北海道の「開拓」とアイヌ民族

1850年ころ、北海道のほとんどの場所に、アイヌの人たちが住んでいました。しかし、1869年に日本政府は、この島を「北海道」と呼ぶように決め、アイヌの人たちにことわりなく、一方的に日本の一部にしました。そして、アイヌ民族を日本国民だとしたのです。しかし、日本の国はアイヌ民族を「旧土人」と呼び、差別し続けました。



写真２－10：手宮（小樽）～札幌に汽車が走った
アイヌの人たちはどう思っただろうか。

日本の国は新しいきまりを作って北海道を「自分の土地」として、使いはじめました。原始林を切り開いて、町や道路、港をつくり、汽車を走らせたのです。これを北海道の「開拓」と言っています。

1877年に作った「北海道地券発行条例」で

6　北海道の「開拓」とアイヌ民族

板書例

⑴アイヌ民族の土地が日本の一部に
　北海道という名になる
　　日本の一部へ
　アイヌ民族は日本政府から
　　「旧土人」と呼ばれる

⑵北海道「開拓」
　町、道路、港、鉄道が作られる
　アイヌ民族の土地は取り上げられ、和人のものに

⑶「同化政策」
　イレズミ、耳かざりの禁止
　サケ漁の禁止
　和人風の名前を
　日本語の強制
　　} 和人と同じ生活を

指導のポイント



北海道が日本の一部にされたのは、先住民族であるアイヌ民族の理解を得たものではない。(小学校では日本とロシアの関係まで示すのは難しいが) まさしく「アイヌ民族にことわりなく、一方的に日本の一部にした」ものであることを理解させたい。

また、自分たちの生活を変えられたことで、アイヌの人たちがどう思ったか、想像させてみたい。



写真2－11：琴似（札幌）に来て住みはじめた和人
アイヌの人たちはどう生活したのだろうか。

アイヌの人たちが住むところは、いろいろな事情に関係なく、しばらくの間、すべて官有地に入れます。

と決めました。このきまりで、アイヌの人たちは、それまで住んでいた土地も取り上げられたのです。そして、その土地は和人にあたえられていきました。

また、それまでの、アイヌの人たちの文化や習慣に対して「やってはいけない」「変えなさい」と命令したものがいくつもあります。

◆イレズミをしてはいけない
◆耳かざりをしてはいけない
◆川でサケを取ってはいけない
◆和人風の名前に変えなさい

日本は近代国家をめざし「同じ日本国民」という意識を持たせようとした。

そして、狩りや漁が中心の生活を、農業中心の生活に変えて、日本語を使うようにと言いました。「和人と同じような生活をしなさい」ということです。これを「同化政策」と言います。

35

はってん
ヨーロッパの国々は、500年ほど前から、アメリカ大陸、オーストラリア大陸などの昔から住んでいた人々の土地に入り込み、自分の国の一部にしていました。
〜先住民族（p.41）

はってん
その後、沖縄も台湾もサハリン（樺太）も日本の一部にされた。
北海道「開拓」って何だろうか。

ことば
官有地
日本の国の土地のことです。

かんがえよう
アイヌの人たちの生活で、変えられたことをまとめよう。
また、変えられたことを、アイヌの人たちがどう思ったかをそうぞうしよう。

アイヌの女性は、くちびるのまわりや手にイレズミを入れました。これは「もう、おとなですよ」ということをあらわしていました。

◆活動の流れ３

★指導のねらい

アイヌ民族の文化が変えられ「和人と同じような生活」をするように言われたことを理解する。

☆発問１

アイヌ民族の生活で変えられたことは何か。そのことをアイヌ民族はどう思っただろうか。

◆その裏には

「女たちは、最近入れ墨が禁止されたので非常に悲しいと言っていた。入れ墨が禁止されたので神々が怒っているだろうということで、またこれがなければ結婚できないと言っていた。そうして日本政府に言ってほしいと頼んだ」　**(『コタン探訪記』)**

これは、イギリス人のイザベラ·バード（1832〜1904年）が、1878年に平取を訪れたときの文である。入れ墨の禁止に対して、アイヌ女性の生の声を知ることができる。

【資料】

〔松浦武四郎が「北海道」という名を提案した理由〕

北加伊道　アイヌの人たちは､自分たちの住む国のことをカイと呼ぶ｡だからこの地にカイという名を付けた。（中略）カイと呼ぶこと、今もアイヌの人たちはお互いにカイノーと呼び、女の子のことをカイナチー、男の子のことをセカチー、また、なまって言えば、アイノーとも近ごろ呼ぶ。　**(『蝦夷地道名之儀勘弁申上候書付』)**

【用語】

「開拓」と「開基」

「開拓」とは、「未開」の大地を切り開くこと。北海道「開拓」と言えば、先住民族であるアイヌ民族の存在を無視した言葉となる。同様に「開基」○○年という言葉がある。北海道の市・町・村に和人が入植した年、あるいは和人の集落ができた年から、年数を数えたものである。ここにも、先住民族の視点が欠如している。そのため、現在、市制施行○○年という言い方に変えている自治体が増えている。

7．北海道旧土人保護法

本時のねらい

北海道旧土人保護法が作られた理由と、その内容・問題点がわかる。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

日本の国による「開拓」で、和人が移り住み、サケ漁の禁止やシカの減少によって、アイヌ民族の生活が追い込まれていったことを理解する。

☆発問１

（写真２－12を見て）和人による開墾によってアイヌ民族の生活はどうなっただろうか。

☆発問２

（写真２－13を見て）このとき、アイヌの人たちを移住させたのは誰だろうか。

☆発問３

アイヌ民族のサケ漁、シカ猟はどうなっただろうか。

＊国策である北海道「開拓」では、和人の囚人もたくさん亡くなったことに触れたい。

※１〔北海道の人口増加〕
1878年　19万８千人
1888年　56万人
1898年　144万６千人

※２　和人の政府高官、大土地所有者、大工場主と、移住を余儀なくさせられた人たちとは、区別して考えたい。

※３　政府が美々(千歳市)に、シカの缶詰工場を作り、たくさんのシカを獲った。

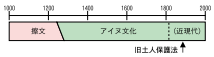




写真２－12：北見の上斜里の開こん
原始林は開こんされ、畑にかえられていった。



写真２－13：新冠御料牧場
この牧場を作るために、ここにいたアイヌの人たちの一部は、平取に強制的に移された。



7　北海道旧土人保護法

日本の国が行った北海道「開拓」によって、北海道に和人がどんどん移り住むようになりました。鉄道や道路がたくさん作られ、住みやすくなったからです。※１しかし、和人にとっても原始林を切り開き、道路を作る仕事はたいへんなものでした。そこで、空知や樺戸や釧路にあった刑務所※２にいる囚人たちを働かせることもありました。

和人の人口が増えると、アイヌの人たちの生活が苦しくなりました。それまで、アイヌの人たちはサケやシカを食料としていましたが、そのサケ漁が禁止され、シカ猟もやりにくくなったからです。

1880年ころには、多くの和人のハンターがシカ猟をして、シカをとりすぎたり、大雪でシカが死んでしまったため、※３シカが急に減ってしまいました。このころには、サケ漁も禁止されていたこともあって、アイヌの人たちは、狩りや

囚人の中には、国の方針に反対で、とらえられた人もいました。囚人たちは、むりな仕事をさせられ、たくさんの人が亡くなりました。

かんがえよう

アイヌの人たちは和人のハンターをどのように思っていたのかな。

1880年代には、一部の地域だが根室県が農業をすすめる動きを見せている。

7　北海道旧土人保護法



⑴北海道「開拓」
和人の人口が増える
アイヌ民族
サケ漁禁止　　狩りや漁では
シカの減少　　生きていけない
↓　　↓
とりすぎた　　多くのアイヌ民族がうえ死に
大雪

⑵北海道旧土人保護法の成立
アイヌ民族を「助けるため」の法律
しかし、農業をする者だけに　　同化をさらに
土地も少ない　　強める法律
アイヌ民族の子どもに日本語の学校

指導のポイント



北海道「開拓」は日本の国策であること、それをアイヌ民族に向けて法律にしたのが北海道旧土人保護法であること。その国策によって、アイヌ民族がどういう状況にされたか理解させたい。

一部に「アイヌ民族を保護してやった」という意見があるが、指導者には、和人に与えられた法と比較した上での、認識が必要である。



写真２－14：北海道の役所が行ったアイヌの調査として、役所がアイヌの人たちの生活を調べたのだろうか。



写真２－15：1877年ころのアイヌの生活
アイヌの生活で、気が付くことは何だろうか。

漁の生活では生きていけなくなりました。

そこで政府は、アイヌの人たちを「助けよう」と、「北海道旧土人保護法」を作りました（1899年）。その第１条は、次のようなものです。※4

北海道のアイヌで、農業をする者には…土地をただであたえる。

アイヌ民族を「助ける」と言っても、ずっと続けてきた狩りや漁が中心の生活から、農業中心の生活に変えさせようというものだったのです。しかし、「ただであたえる」と言った土地が畑に向かないところだったり、急に農業をしようとしても、うまくできなかったため、土地を取り上げられることもありました。

アイヌの子どもたちは、学校でアイヌ語ではなく、日本語を教えられました。また、アイヌの人たちの人口の多いところでは、和人の子どもの学校とは別に、アイヌの子どもだけが行く「学校」が作られました。その後、和人の子どもが学校へ行く年数は６年間に伸びましたが、アイヌの子どもは４年間のままでした。

かんがえよう
農業をする人だけを「助けよう」としたのは、どうしてだろう。

かんがえよう
アイヌの子どもだけが行く学校では、国語（日本語）と修身（道徳）に力を入れました。
アイヌの子どもに、日本語を教えたのはどうしてだろうか。
修身では、何を教えたのだろうか。

アイヌの人たちにあたえられた畑は、和人にくらべてずっとせまかった。

かんがえよう
今から考えると、このときどういう法律を作っていればよかったのだろうか。

※4　加藤政之助が1893年、最初に「保護」法案を提出した。

37

◆活動の流れ２

★指導のねらい

北海道旧土人保護法の内容を理解し、現代から見た問題点を考える。

北海道旧土人保護法は「アイヌ民族を保護する」という部分だけをとらえては一面的である。国策に沿って農業をさせ、日本語の学校に行かせることに注目させたい。

☆発問１

農業をする人だけを「助けよう」としたのは、どうしてだろうか。

＊北海道「開拓」の一つの方向として、農業化があったこと、土地にしばることで管理しやすいことに目を向けさせたい。

☆発問２

アイヌの子どもなのに、どうして日本語が教えられたか。修身（道徳）では何を教えられただろうか。

＊天皇制のもとの国民作りでは、「国語」と「修身」が利用されることに目を向けさせたい。

＊台湾、朝鮮、沖縄でも皇民化教育が行われた。

☆発問３

今から考えると、どういう法律を作っていればよかったか。

＊北海道旧土人保護法は1997年まで続けられた（p.41参照）。現在を生きている子どもの視点で、どこに問題があったか考えさせたい。

【用語】

○「土人」の名称

アイヌ民族を「土人」と呼ぶようになったのは、北海道を日本に組み入れ始めた幕府直轄時代に始まる。「土人」は語源としては「土着の人」を指すが、「南洋の土人」などの使用例のように、「未開」＋「野蛮」な人間としての、侮蔑の意味を持つようになった。アイヌ民族に対しても差別を象徴する用語として使われたと言えよう。

○「北海道旧土人保護法」はアイヌ民族を優遇したか

1886年の北海道土地払下げ規則では、和人１人に10万坪（33ha）まで、1897年の北海道国有未開地処分法案では、和人１人に開墾用150万坪（500ha）、牧畜用250万坪（833ha）まで無償で与えた。後者には、大地主の利益団体である北海道協会の働きかけがあった。一方「北海道旧土人保護法」は、こうして、和人が良質な土地を開墾した後になって、アイヌ民族の戸主のみに１万５千坪（５ha）までを与えるというものだった。釧路のアイヌの人たちのように、市街地を追われ、春採湖畔の切り立った崖を与えられるという事例さえあった。

8．アイヌ協会を作る

本時のねらい

（戦前の）アイヌ協会は、なぜ作られたか、どういう仕事をしたか理解する。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

日本の国による同化政策によって、文化や生活を奪われたアイヌ民族から復権を求める動きが出てきたことを理解する。

かつて「文字を必要としなかった」アイヌ民族が育んできた口承文芸が、『アイヌ神謡集』として初めて出版された。その序文に注目したい。

☆発問１

知里幸恵の「進んでいく世と歩みをならべる」社会とはどういう社会か想像してみよう。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

違星北斗や吉田菊太郎が中心に仲間を集め、アイヌ協会を作ったことがわかる。

☆発問１

（p.39の違星北斗の短歌）で「アイヌのために起つ」とは何をしようというのか想像してみよう。

☆発問２

演説会のポスター（写真２－17）の「青年の熱叫を聞け」とは、誰に言ったものか。

＊ここまでの発問は正答を求めるものではなく、イメージを広げさせるものである。

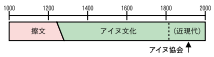




写真２－16：『コタン』違星北斗



写真２－17：演説会のポスター
何が書かれているだろうか



ことば

アイヌ神謡集
『アイヌ神謡集』は、アイヌの手でアイヌの物語を集めた初めての本です。
神謡とは、動物などの神々を主人公にした物語です。

8　アイヌ協会を作る

北海道にはたくさんの和人が移り住みました。そして、町や港や道路をどんどん作っていきました。そのことによって、アイヌ民族は、生活や習慣を変えられ、名前も和人風の名前に変えられていきました。

おお　ほろびゆくもの　…それは今の私たちの名。なんというかなしい名前を私たちは持っているのでしょう。…

はげしい競争に敗れた　今の私たちの中からも、いつかは二人でも三人でも（強いものが）出てきたら、進んでいく世と歩みをならべる日も、やがては来ましょう。

21ページ参照　（1923年『アイヌ神謡集』）

これは、知里幸恵という、アイヌの女性が書いた文です。



8　アイヌ協会を作る

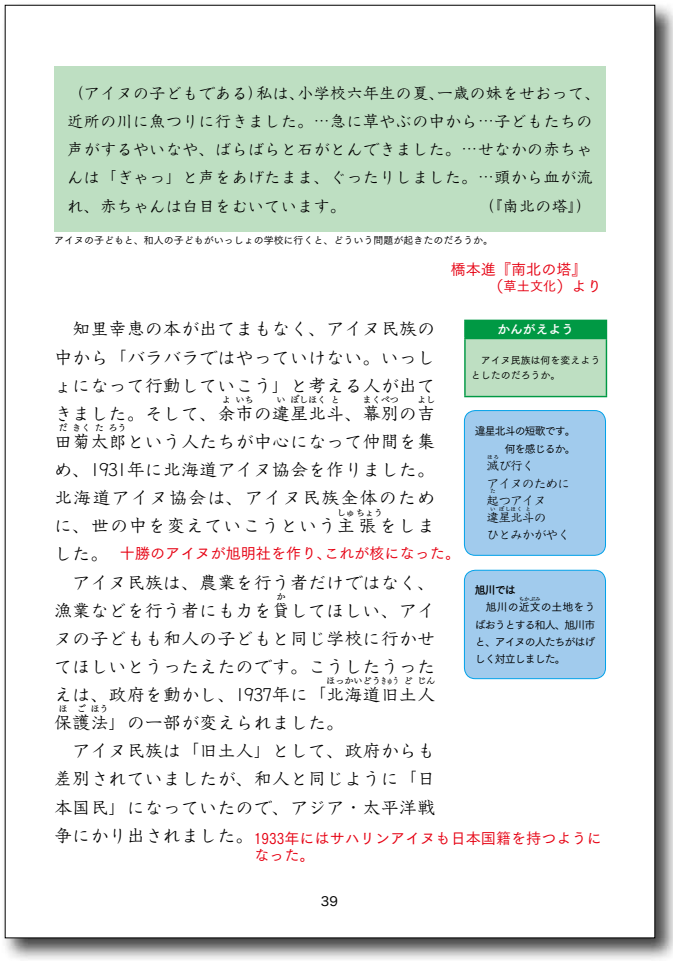
⑴北海道「開拓」とは
　和人が移り住む
　　町、港、道路ができる
　アイヌ民族
　　生活、習慣を変えられ
　　和人風の名前にされる

⑵北海道アイヌ協会の成立
　違星北斗、吉田菊太郎らによる
　アイヌ民族全体のために世の中を変える
　　↓
　北海道旧土人保護法を変える
　漁業などにも力を
　アイヌと和人が同じ学校へ
　　↓
　しかし、差別は続く



ともすれば近現代のアイヌ史は「開拓」期及び北海道旧土人保護法から、一足飛びに現代の活動に触れがちである。しかし、大正デモクラシーの流れでアイヌ協会が成立したというのも、重要なことがらである。

また、国策としての同化政策の中、根強い差別があったことにも触れていきたい。



（アイヌの子どもである）私は、小学校六年生の夏、一歳の妹をせおって、近所の川に魚つりに行きました。…急に草やぶの中から…子どもたちの声がするやいなや、ばらばらと石がとんできました。…せなかの赤ちゃんは「ぎゃっ」と声をあげたまま、ぐったりしました。…頭から血が流れ、赤ちゃんは白目をむいています。（『南北の塔』）

アイヌの子どもと、和人の子どもがいっしょの学校に行くと、どういう問題が起きたのだろうか。

橋本進『南北の塔』（草土文化）より

知里幸恵の本が出てまもなく、アイヌ民族の中から「バラバラではやっていけない。いっしょになって行動していこう」と考える人が出てきました。そして、余市の違星北斗、幕別の吉田菊太郎という人たちが中心になって仲間を集め、1931年に北海道アイヌ協会を作りました。北海道アイヌ協会は、アイヌ民族全体のために、世の中を変えていこうという主張をしました。十勝のアイヌが旭明社を作り、これが核になった。

アイヌ民族は、農業を行う者だけではなく、漁業などを行う者にも力を貸してほしい、アイヌの子どもも和人の子どもと同じ学校に行かせてほしいとうったえたのです。こうしたうったえは、政府を動かし、1937年に「北海道旧土人保護法」の一部が変えられました。

アイヌ民族は「旧土人」として、政府からも差別されていましたが、和人と同じように「日本国民」になっていたので、アジア・太平洋戦争にかり出されました。1933年にはサハリンアイヌも日本国籍を持つようになった。

かんがえよう

アイヌ民族は何を変えようとしたのだろうか。

違星北斗の短歌です。

何を感じるか。

滅び行く
アイヌのために
起つアイヌ
違星北斗の
ひとみかがやく

旭川では

旭川の近文の土地をうばおうとする和人、旭川市と、アイヌの人たちがはげしく対立しました。

39

◆活動の流れ３

★指導のねらい

アイヌ民族の要求が一部受け入れられ、北海道旧土人保護法の一部が変えられたことがわかる。

☆発問１

アイヌ民族の要求には何があったか。

☆発問２

（p.39の『南北の塔』を読み）アイヌ民族の子どもと和人の子どもが同じ学校に行くとどういう問題が起きたか。

☆発問３

なぜ、アイヌ民族はアジア・太平洋戦争に出征させられたか。

◆その裏には

アイヌの兵隊がどのように見られていたか。次のような事例を紹介したい。

（連隊長の閲兵のとき）「中隊長は連隊長に『これが北海道からきたアイヌの兵隊であります。日本語もわかるそうであります』と言ったら、連隊長は『どうだお前、軍隊の飯食えるか。生肉は食わなくとも大丈夫か』とぬかしやがった」

（『エカシとフチを訪ねて』川上勇治）

【資料】

○違星　北斗（1903～1929）　余市町出身のアイヌの歌人。東京で事務職をしていたとき、「民族の復興」を思い、北海道に戻る。アイヌ協会の創設に影響を与えた。1927年に『コタン』を発刊した。

○吉田菊太郎（1896～1965）　幕別町出身。禁酒会、コタンの矯風会を結成。アイヌ協会の創設に関わるとともに、アイヌ民族として初の幕別村会議員になる。以後、30年間、村議・町議として活動。

○知里　幸恵（1903～1922）　登別市生まれのアイヌ民族。アイヌの口承文芸を文字表記、和訳した。『アイヌ神謡集』校正直後に、東京で亡くなった。

9．先住民族として

本時のねらい

現在、アイヌ民族はどういう世の中を作ろうとしているのか、アイヌ民族と和人が共に生きていくにはどうしたらよいか、考えることができる。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

アジア・太平洋戦争の敗戦後、日本は新しい国のしくみが作られ、アイヌ協会も新しいしくみになったことがわかる。

☆発問１

戦後､日本ではどういう目的の国作りが行われたか。新しいアイヌ協会ができたのはいつか。

☆発問２

（p.40のこぼれ話を読んで）感想を言おう。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

根強い差別の中、アイヌ民族は和人と同じように生きていける世の中をめざしたことがわかる。

結婚、就職、学校での差別、人権を無視した人類学などの問題があったが、ここでは就職と当時の人類学の研究方法の問題に注目させる。

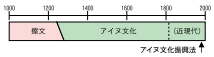
☆発問１

（p.40の就職の文を見て）感想を言おう。なぜ差別は起こるのか。

☆発問２

（p.40の一部の学者の文を見て）何が問題だと思うか。

※１　この時期でも、文化や言語の復権をめざす動きの芽生えがあった。



一部の学者は研究のために「アイヌの人たちの墓をほり起して骨を持ちさる。アイヌの人たちの血液を採る。」ということまで行った。どういう考え方で研究が行われたのだろうか。



写真２－18：国際連合の会議に出席するアイヌ民族の代表
なぜ、アイヌ民族の服を着ているのだろうか。

こぼれ話

このころ、日本を占領した国から、日本から独立して、アイヌ民族の国を作らないかという話がでました。しかし、当時のアイヌ民族のリーダーたちは､「日本国民として生きる道を選んだ」ということが関係者の話から、伝えられています。



結婚、就職、学校での差別が続いた。

かんがえよう

しゅう職について、自分の感想を言ってください。なぜ､差別はおこるのだろうか。

9　先住民族として

1945年、日本はアジア・太平洋戦争に敗れました。そして､「平和で、国民一人一人が大切にされる」新しい国のしくみがつくられました。

戦争が終わって間もない1946年に、北海道アイヌ協会も新しいしくみにしました（1961年北海道ウタリ協会に名前を変え、2009年北海道アイヌ協会に名前を変えています）。

しかし、日本という国で生きるためには「日本語を話し、和人と同じ生活をするのは当り前」（同化）というふんいきの中で、アイヌ民族への差別はなくなりませんでした。※１

ひどいものです。こんなに中学卒業生の求人が多く困っているのに、アイヌの少年少女となると、しゅう職が思うようにいかないんです。…アイヌの娘さんが一次試験では合格したのに、面接試験でアイヌとわかって不合格になったんです。

（役所の人のお話　1960年代）

40

9　先住民族として

板書例

(1)アジア・太平洋戦争の敗戦後
平和で一人一人が大切にされる世の中を
新しく北海道アイヌ協会が成立(1946年)
しかし差別は続く

和人と同じように生きていける世の中を

(2)先住民族の権利
①土地や資源
②文化を守り、発展させる
③政治の場で意見を言う
｝世界の流れの中で

私たちのすべきこと

（子どもたちの考えを入れる）

指導のポイント



p.22の「歴史学習のはじめに」で示した「なぜアイヌの人たちがアイヌ語ではなく日本語を話すのか、なぜサケやシカをとる生活をやめたのか、なぜ今アイヌ語やアイヌ文化を守り、広げようとしているのか」という原点も意識しながら、先住民族・アイヌ民族と和人が共に生きていく世の中を考えさせる。



写真２－19：アイヌ民族文化祭で発表されたアイヌ語の劇（様似アイヌ協会）
アイヌ民族はアイヌ語やアイヌ文化をとりもとそうととりくんでいる。



写真２－20：アイヌ語ラジオ講座のテキスト

そのころのアイヌの人たちは、和人と同じように生きていける世の中をめざして、活動していました。当時、アイヌ文化を売り物にする観光行政に批判が集まった。1980年代になると、世界の先住民族が国際連合に集まって、次のうったえをしました。

① 先住民族の土地や資源をとりもどす。
② 昔から守ってきた文化を守り、はってんさせる。
③ 政治の場で意見を言う。※２

アイヌ民族も先住民族の仲間として、同じうったえをしました。また、「日本には、昔から和人しかいない」（日本単一民族）というまちがった意見には、抗議してきました。アイヌ民族のうったえによって1997年に②だけは「アイヌ文化振興法」とよばれる法律になりました。

私たちは、アイヌ民族も和人も、共に生きていく世の中をこれからも考えなければなりません。

ことば

先住民族とは、ある土地に先に住んでいた民族で、あとからきた別の民族に、土地や文化がうばわれていった民族のことです。
オーストラリアのアボリジニ、ニュージーランドのマオリなどが知られています。

アイヌ文化振興法の正しい名前は『アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律』という。

かんがえよう

アイヌ民族と和人がともに生きていくためには、どういうことをしていかなければいけないのだろうか。

41

◆活動の流れ３

★指導のねらい

先住民族の権利について理解し、私たちはどういうことをすべきか考えることができる。

☆発問１

（写真２－18）で、なぜアイヌ民族の服を着ているのか。先住権とは何か。p.41の①②を奪ったのは誰か。

☆発問２

なぜアイヌの人たちがアイヌ語ではなく日本語を話すのか。
なぜサケやシカをとる生活をやめたのか。
なぜ今アイヌ語やアイヌ文化を守り、広げようとしているのか。

☆発問３

アイヌ民族と和人が共に生きていくためには、どういうことをしたらよいか。

◆その裏には

1992年はコロンブスがアメリカ大陸に渡ってから500年。この年をめぐってスペインやアメリカ大陸の国々は「国連による祝賀会」を行おうとし、北欧の国々は「もっと前にバイキングが渡っている」と反対。エクアドルのコーボウたちは「先住民族の権利を考える元年にしよう」と考えた。こうした中、1992年に祝賀会を行うという案は退けられたが、国際先住民年は1993年に開始となった。

※２　「政治の場で意見を言う」とは
先住権の中に「自決の権利」に基づき、「自らの政治的地位を自由に決定できる」権利がある（「先住民族の権利に関する国連宣言」）。アイヌ民族の場合、国会や地方会議で特別議席を求めてきているが、未だ実現されていない。

【資料】

〔アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議〕（2008年６月６日衆参本会議）

2007年９月国連において「先住民族の権利に関する国際連合宣言」が、我が国も賛成する中で採択された。これはアイヌ民族の長年の悲願を映したものであり、同時にその趣旨を体して具体的な行動をとることが国連人権条約監視機関から我が国に求められている。（中略）すべての先住民族が名誉と尊厳を保持し、その文化と誇りを次世代に継承していくことは、国際社会の潮流であり、またこうした国際的な価値観を共有することが我が国が21世紀の国際社会をリードしていくためにも不可欠である。

1．いろいろな文化が共に生きる社会に①

本時のねらい

国や地域には、様々な民族が存在し、私たちはたくさんの民族と共に暮らしていることを理解する。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

自分たちの地域に住むのは、和人だけなのか話し合う。

☆発問１

自分と違う言葉や文化の人に出会ったことがありますか。どんなところが違っていましたか。

☆発問２

違う言葉や文化があるのはなぜだと思いますか。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

「同化政策」の影響で、アイヌ文化の継承が妨げられたことを理解し、近年になって伝統的儀式や文化の復興を求めるアイヌ民族の運動が盛んになってきたことをつかむ。

☆発問１

北海道に住む私たちがアイヌ語を話す人やアイヌ文化にあまり出会えないのはなぜだと思いますか。

☆発問２

アイヌ民族はこのことをどう思ってきたか考えてみましょう。



写真３－１：川をのぼるサケのむれ



写真３－２：アシリチェップノミ
豊平川で行われた新しいサケをむかえる儀式。

3．アイヌ民族の文化と現代社会

よみがえるいろいろな儀礼

札幌市の豊平川で行われた新しいサケをむかえる儀式や、なくなった先ぞにそなえ物をして供養をする儀式なども、他の地域に広がっています。

儀式の中で最も重要な『クマのおい送り』が北海道の平取、白老、旭川などで行われたり、弟子屈の屈斜路湖はんでは、『シマフクロウのおい送り』も行われました。



写真３－３：1955年の通達で、イオマンテは「やばん」という理由で、一方的に禁止されていました。しかし、2007年に国がイオマンテは「動物を使った正式な儀式」にあたり法的に問題はないという見解を示した。アイヌの人たちの長年の要求が認められたのである（北海道新聞2007. 4. 28付）。

1　いろいろな文化が共に生きる社会に

私たちの国に一番多く住んでいるのは和人ですが、ちがう言葉や文化・習慣などを持った人たちも、たくさん住んでいます。

それらの人は一生の中で、誕生・成長・死といった、大切なできごとについての儀式、季節や信こうから来るいろいろな行事を、それぞれの考え方で行っています。

昔のアイヌの人たちは、そ先から伝わる方法で地域や家庭で自分たちの儀式や行事を行っていました。

しかし、長く続いた国の「同化政策」のために言葉や文化が受けつがれなくなり、儀式や行事を行うことは、少なくなってしまいました。

しかし、1980年代から、いろいろな儀式や文化を再びよみがえらせようと運動するアイヌの人たちが増えてきました。そこにアイヌ民族以外の人たちも加わって、その運動はさらにもり上がるようになりました。

42



1　いろいろな文化が共に生きる社会に

日本に住む人たち

和人　アイヌ民族　韓国・朝鮮人　中国人…

→　違う言葉・文化・習慣

〈昔は別々の地域で、それぞれの暮らし方だった〉

国の同化政策

アイヌ民族の文化・言葉　→　禁止　日本文化に

行事・儀式　→　少なく

1980年代

アイヌ文化をよみがえらせる運動

アイヌ文化体験教室

昔の文化の復元

（家・舟・衣服・サケ漁・シカ猟）

↓

新しいアイヌ文化をつくる

〈和人も共に〉



◎　自分たちの周りには、たくさんの外国人やアイヌ民族が暮らしていることをつかませる。
◎　近年のアイヌ文化復興の背景には、国際的な流れや過去の歴史が影響していることを理解させる。


写真３－４：東京で行われているアイヌ語講座
アイヌ語教室は各地で活発に開かれています。


写真３－５：イタオマチㇷ゚（板つづり舟）
海での漁や物の交かんに使った舟です。波よけのための板は、鉄のくぎを使わずにナワでつづられています。

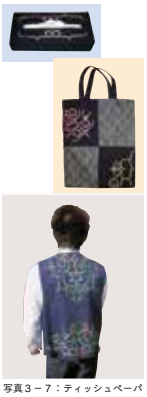
アイヌの人たちが、そ先から伝わる民族の言葉を話せるようになろうと全国各地で開いている「アイヌ語教室」や、民族衣しょう、楽器、料理、民具、小物作りなどの「体験教室」には、アイヌ民族以外の人たちもたくさん参加して活発な活動をくりひろげています。

また、各地のいろいろな人が関って昔のアイヌの人たちの家や舟、衣服などを復元（元と同じように作ること）したり、伝統的な方法でサケやシカなどの猟をする行事なども行われています。

さらに、アイヌ文化の伝統を受けつぎ大切にしながら、さまざまな文化を取り入れた新しい形のおどりや音楽、美術作品を作って発表するアイヌの人たちが続々とあらわれ、和人もいっしょに活動しています。

そうしたことが重なって、アイヌ民族の文化や芸術に関心を持ったり、親しみを感じる人がだんだんふえ、アイヌの料理を楽しんだり、身の回りの小物や衣服にアイヌもようのししゅうを入れたり、民芸品をアクセサリーとして身に付けるなど、それらをくらしの中に生かす人も出てきました。


写真３－６：かつてアイヌの人たちが大切な食料にしていたシカ肉を使った料理


写真３－７：ティッシュペーパーカバーや手提げ袋など、ふだん使うものにもアイヌのししゅうがほどこされています。下はアイヌもようを入れたベストを着る若者。

◆活動の流れ３

★指導のねらい

写真や資料から、アイヌの伝統的文化復興の様子を読みとり、和人の中にもそれらが浸透してきたことをつかむ。

☆発問１

アイヌ文化をよみがえらせる運動を調べてみましょう。

☆発問２

この運動をアイヌ民族だけでなく和人も一緒にやっているのはなぜか考えてみましょう。

【資料】

―　既習事項との関連　―

p.４～p.21「アイヌ民族の文化」

アイヌ語　伝統的衣服・模様　狩り　食料　家　信仰　歌　踊り　楽器　文芸

p.34～p.37「北海道開拓」と「同化政策」

- 「旧土人」の差別的呼称
- 土地の取り上げ
- 和人風の名前の強制
- 入れ墨、耳飾りの禁止
- 主食のサケ漁の禁止
- 和人の乱獲による鹿の減少
- 学校教育の場での日本語の強制

2．いろいろな文化が共に生きる社会に②

本時のねらい

国や地域には、様々な民族が存在する。それぞれの歴史と文化を理解し、尊重しあうことの大切さを理解する。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

「アイヌ文化振興法」の概要について知り、学校や地域でアイヌ文化を学ぶ機会が増えてきたことをつかむ。

☆発問１

「アイヌ文化振興法」とはどんな法律か調べてみよう。法律ができてよかったことは何でしょう。

☆発問２

国の「同化政策」にもかかわらずアイヌ文化がなくならずに受け継がれたのはどうしてでしょう。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

現在、各地で文化活動をしているアイヌ民族の姿や作品等を映像で見る。

☆発問１

アイヌ文化に触れて、感想を出し合いましょう。

◆活動の流れ３

★指導のねらい

各地で行われている民族同士の交流を知り、そこに流れる「相互の尊重と理解」という精神を理解する。

☆発問１

地域に住むいろいろな文化・民族の人々が集まったら、どんな出会いが生まれるでしょう。



写真３－８：「異文化への理解」と「自然との共生」をテーマに国内外で活動するアイヌ詞曲舞踊団・モシリ



写真３－９：「先ぞが残した豊な文化を受けつぎ、自分で考え・思う活動」を行っているアイヌ・アート・プロジェクト



写真３－10：文様Ⅱ（川村則子・作）



写真３－11：カムイ　ピリマ（結城幸司・作）
版画の世界にも、アイヌ民族の心が取り入れられています。

1997年に『アイヌ文化振興法』という法律ができたことにより、学校や地域にアイヌ文化がより広く知られるようになりました。また、アイヌ文化を受けつぎ残し発てんさせるための活動にも、国などが積極的に補助することになりました。

そのため、伝統的なおどりや歌、アイヌ語などを受けついでいこうという人がふえ、その活動はより活発になりました。

しかし、現在のこのような活動ができるのも、アイヌ民族の文化が和人によって禁止されるという、長く苦しい時代を乗りこえて伝統の文化を受けついできた、アイヌのおじいさんやおばあさんたちがいたからだということを、決して忘れてはいけません。

さまざまな国や地域には、いろいろな民族がいるのはごく自然なことで、そこに住む人たちが共に生き、仲良く、豊かになっていくためには、それぞれの国や地域の歴史と文化を『尊重し理解し合う』ことがとても大切です。

44

2　受けつがれるアイヌ文化

1997年「アイヌ文化振興法」

アイヌ文化を受けつぎ発展させる活動

文化を伝えたアイヌ民族のおじいさん・おばあさんの気持ち

- 自分たちの話す言葉をなくしてはならない
- アイヌ民族としてのほこりを持って、文化を大事に子どもたちに伝えたい
- アイヌ民族の生活の知恵を守りたい

→ ・学校　・地域 活発に

いろいろな文化との出会い
↓
互いに仲良く
良いところを伝え合って
↓
みんなが豊かに生きる社会

板書例



◎　現代のアイヌ民族の文化活動を紹介する。
◎　国内外の先住民族、少数民族の動きなども扱う。

「アイヌ生活文化再現マニュアル」

アイヌの伝統文化の保存・伝承を図るためのＤＶＤで、テーマごとに分かれています。
【発行】
(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構
http://www.frpac.or.jp/manual/index.html

★概要
◇建てる【祖先の時代のチセづくり】
◇織る【樹皮衣】
◇縫う【木綿衣】
◇食べ物【春～夏】【秋～冬】
◇イオマンテ　熊の霊送り
◇五弦琴【トンコリ】
◇ヘカッタラ　シノッ【子どもたちの遊び】
◇踊り【リムセ・ホリッパ】　など

★利用方法
〔申込者⇒機構〕
借用申込書に必要事項を記入し送付してください。
※申込書は当財団ＨＰでもダウンロードできます。



〔機構⇒申込者〕
借用申込書到着後、マニュアルを送付いたします。なお、送料については借用者のご負担とし、着払いにて発送します。
〔申込者⇒機構〕
借用期間終了後、速やかに機構にご返却ください（送料はご負担ください）。
貸出期間：個人30日、団体60日

アイヌ文化普及啓発ＤＶＤ「カムイからのおくりもの」

アイヌ文化全般をわかりやすく紹介したＤＶＤです。



【発行】
(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構
http://www.frpac.or.jp/history/index.html

★概要
◇サケは「神の魚」と呼ばれている
◇サケは捨てるところがない！
◇感謝の心とともに
◇一緒に生きるということ　など

アイヌ文化学習 命をいただくこと、違いをみとめあうこと －アイヌ文化学習の取り組み－

千歳市立末広小学校で実施されているアイヌ文化学習の様子を紹介しています。
【発行】
(公財)アイヌ文化振興・研究推進機構
http://www.frpac.or.jp/history/index.html



【資料】
― 既習事項との関連 ―

p.41	「アイヌ文化振興法」はアイヌ民族の訴えの一部（文化についてのみ）が法律化したものに過ぎない。この法律成立時に「北海道旧土人保護法」は廃止となった。
p.38	1923年　知里幸恵『アイヌ神謡集』
p.39	1931年　アイヌ協会設立（違星北斗・吉田菊太郎）
p.40～p.42	写真資料 • 民族衣装を着て国際会議に参加するアイヌ民族の代表 • 現在のアイヌ語劇の様子 • アシリチェップノミ • イオマンテ禁止撤回

3．アイヌ文化の精神を今に生かす

本時のねらい

今日もアイヌ民族の世界観が必要とされる理由を考えさせ、これからの社会のあり方で大切なことをつかみとらせる。

◆活動の流れ１

★指導のねらい

今、「人間と人間」「人間と自然」の関係で問題になっていることを出し合う。

☆発問１

人と人の結びつきが弱くなって困ることは何か考えましょう。

☆発問２

人と自然の関係が悪くなると、どんなことが起こるでしょう。

◆活動の流れ２

★指導のねらい

アイヌ社会における、人間関係のあり方や自然に対する考え方を整理し、現代社会との違いをつかみとる。

☆発問１

昔のアイヌ社会では、人と人との結びつきはどんなでしたか。

また、自然や物に対する考え方はどうだったでしょう。

◆活動の流れ３

★指導のねらい

視点を世界に広げた時でも、アイヌ民族の考え方は通用するかどうか考えてみる。

☆発問１

アイヌ文化では争い事をどうやって解決しようとしていたでしょう。

☆発問２

2007年に「先住民族の権利に関する国連宣言」が採択されたのはなぜでしょう。

☆発問３

私たちが豊かに暮らすために大切にすべきことは何か話し合ってみましょう。



写真３－12：民族文化の交流をめざして

日本にはいろいろな民族が住んでおり、それぞれに違う文化をもっています。「チャランケ祭」（チャランケ：アイヌ語で「話し合う」という意味）は、アイヌや琉球など日本に住むいろいろな民族が、芸術・文化の交流を通しておたがいを理解し合うことを目的に、1994年から東京都にあるＪＲ中野駅北口広場で開かれています。

左の写真は、参加者によるリムセ（輪おどり）です。アイヌの人たちだけではなく、集まったたくさんの人たちがいっしょにおどっています。

２　アイヌ文化の精神を今に生かす

これまで見てきたように、アイヌ民族の歴史や文化は遠い昔のものではなく、今も私たちのすぐそばにあって息づいています。

日本の文化も、古い時代から中国や朝鮮といったアジアの国々をはじめ、ヨーロッパの国々からたくさんの文化を取り入れて発てんしてきました。

21世紀をむかえた現在、その時代とは比べものにならないほど日本の社会は豊かになりました。しかし、その一方で、人と人の結び付きが弱くなったり、自然環境が破壊されたり、戦争や貧しさに対する不安といった大きな問題が起きています。

このような時代の中で人びとは、だんだんと明らかにされてきたアイヌ民族のものの考え方や生き方にふれ、これから生活していく上で「学ぶものがたくさんあるのではないか」と考えるようになりました。

そこで、アイヌの人たちの、自然や社会への接し方、アイヌ文化の精神が今の時代に必要とされているわけをいっしょに考えてみましょう。



イオル計画とは？

イオルとは、アイヌ語の「イウォロ」（かりをする時の自分たちの場などという意味）からきています。

『イオル計画』は、アイヌの人たちの生活を支えた森や水辺などを中心とした自然環境を再び作り出すとともに、アイヌ民族の伝統文化を受けついでいく場を作ろうというものです。

そこでくり広げられるアイヌ文化が、日本という国の文化をさらに豊かにするものとして期待されています。

イオルの再生は、北海道内の５地域（白老・平取・札幌・新ひだか・十勝）で進められており、他の地域においても、それぞれの地域に合った計画を実現するための研究や話し合いが行われています。

３　アイヌ文化の精神を今に生かす



〈これまでの日本の文化〉
…いろいろな文化を取り入れて豊かになってきた
〈これからは〉

アイヌ文化に学ぶ21世紀の生きかたは…

〈ウコチャランケ…話しあいで解決する〉
国連で…アイヌ民族への差別も世界の人たちと話し合ってなくしていきたい

①人と人との結びつき
弱まると
- 困った時、だれも助けてくれない（仕事・子育て・病気・なやみごと）
- さびしい生活

②人と自然との関係
悪くなると
- 自然環境破壊　森がなくなる　海や川をよごす

昔のアイヌの社会
- 村のみんなが協力して生活
- 子どもやお年よりを大切に
- 村おさ―ふさわしい人に

自然はすべてカムイとしてうやまう
- 山菜を根こそぎとることはしない
- 道具を大切に

指導のポイント



◎　アイヌ民族の世界観を誇張しすぎることなく扱う。
◎　多様な文化が交流することの大切さと、問題解決の方法について考えさせる。
◎　かつての日本でも同じような価値観を持っていたことにも触れる。



写真３－13：昔のアイヌの子どもたちの遊び
アイヌの子どもたちは、じょうぶな体をつくるために、小さい時はハダカで育てられました。
また、ブドウのつるで作った輪にぼうを投げ通したり、シカにせて作ったアシのたばを引っぱってはやく走ったり、それを弓でうったりする遊びの中で、将来の狩りや漁の仕方を学びました。

赤ちゃんはカムイ？
アイヌの社会では、「赤ちゃんは親だけではなく、コタン（村）みんなで育てるもの」という考えがあります。
また、赤ちゃんのうちはカムイ（神）としてやりたいようにさせ、赤ちゃんの願いをかなえてやるのが大人の役目でした。
しかし、言葉をおぼえはじめる年になったら、きびしくしつけを始めたと言われています。



昔のアイヌの社会では、生まれたばかりの赤ちゃんには名前を付けず、わざときたないよび方でよんでいました。
それは、赤ちゃんに病気などの悪い神が近づかないようにするために、赤ちゃんの元気な成長を願ったものでした。（正式な名前は、子どもが5、6歳になったころに、その子にふさわしい名前がつけられました）
アイヌの人たちは、何よりも自分に付けられた名前を大切にしてくらしていたと言われています。

◎子どもやお年寄りが大切にされるアイヌの社会

アイヌの社会は、きびしい自然の中でくらしていたということもあり、人と人のつながりや助け合いは大変強いものでした。

狩りや漁のほかに、家を建てる時なども、村の人たちみんなが協力し合って仕事をしました。

子どもは「村の宝」として大切に、きびしく育てられました。お年よりはすぐれた知恵の持ち主として尊敬され大切にされました。

また、「村おさ」は話が上手で、勇気があって、狩りのじょうずな、外見も中身もどうどうとした人がみんなから選ばれました。親が「村おさ」だからといってその子どもが必ず「村おさ」になるとは限りませんでした。

◎物を大切にし、自然とともに生きるアイヌ民族

アイヌの人たちは、身の周りや自然にある多くのものを、カムイとしてうやまいました。

山菜をとる時も、根こそぎとるのではなく、次に来る時のために、いくらか残すということはごくふつうのことでした。

そして、くらしに必要なものは、身近にある材料を使って、「長く人々の役に立つように」



写真３－14：国連「世界の先住民の国際年」開幕式典で記念演説をするアイヌ民族の代表　©UN Photo/E. Debebe

これまでアイヌ民族は、国連（国際連合という言い方を短くしたもの）という、世界の国ぐにの代表の人たちが集まって話し合う場で、毎年多くの先住民族が集まって開かれる会議に参加したり、文化交流を深めたりしてきました。
そして、世界70カ国以上に少なくとも３億人はいるとされている『先住民族』への差別を禁止し、民族の権利を守る運動にとりくんだ結果、2007年９月の国連総会で『先住民族の権利に関する国連宣言』が採択されました。

と心をこめてていねいに作り、その作ったものも、カムイがすがたを変えたものだと考えて大切に使いました。

こうした生き方や考え方は、昔の日本にもありましたが、物や生き物をそまつにあつかうことの多い今の社会にあっては、よく考えて見ることも必要でしょう。

◎国をこえた交流の広がりと争いの少ない社会

アイヌの人たちは、古くから国境をこえてまわりの国々に自由に行き来し、そこに住む人たちと交易をしたり、文化の交流をして豊かにくらしていました。

豊かな生活は、社会が平和でなければならないというのが、アイヌの人たちの昔からの考え方でした。たとえ争い事がおきても、「十分な話し合い」で解決し、力や戦争にうったえることは、やむをえない最後の方法でした。



国境
国と国のさかいのことで、地図では国の領土をあらわす線が引かれています。

「話し合い」は、人間の持つ大切なちえ
アイヌの人たちは、争い事がおきると、ウコチャランケとよばれる話し合いをして問題をかいけつしました。
ウコチャランケは、ウコ（お互いに）チャ（言葉）とランケ（下ろす）という３つの語からできていて、言葉で争うという意味です。
アイヌの社会では、いくら時間がかかってもおたがいがわかり合うまで話し合いました。長い時は３日も４日もかかったそうです。

おわりに
私たちが毎日学習する目的は、アイヌ民族もふくめた世界中の民族の歴史と文化から、より良い生き方・考え方を見つけ出し、差別やまずしさ、争いのない平和で民主的な社会や世界を作ることにあることを、しっかりと学び取って欲しいと思います。

【資料】　－　アイヌ民族復権に向けた最近の動き　－

2008年　「アイヌ民族を先住民族とすることを求める国会決議」
2009年４月１日　「北海道ウタリ協会」は長年にわたる議論の末「北海道アイヌ協会」と名称変更。
「われわれの祖先が作り出した『アイヌ』という美しい言葉を、協会が堂々と名乗ることで、特に道外の人たちに民族の存在を知ってもらう意義は大きい」（加藤忠　北海道アイヌ協会理事長）
７月　「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告
- アイヌ民族は日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族・先住民族の権利に関する国連宣言の尊重・政府はアイヌ文化振興に強い責任がある・アイヌ民族の日（仮称）制定や、学校教育充実による国民理解の促進・アイヌ民族の生活向上関連施策の全国実施などの内容

８月　政府は「アイヌ総合政策室」を内閣官房に設置
12月　政府は「アイヌ政策推進会議」を発足
2014年６月　「アイヌ文化の復興等を促進するための「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する基本方針」が閣議決定



本書の活用にあたって（中学生用）

副読本『アイヌ民族：歴史と現在』を2008年に改訂しました。改訂にあたっては、以下の点を留意しました。

- **通史として、前後の時代のつながりをわかりやすくする。**
- **琉球など、他の民族や地域についても記述することで、他と相対化した内容にする。**
- **教科書で扱う部分を補足的に詳しく記述する。**
- **アイヌ民族の現在についても正しく認識できるようにする。**
- **アイヌ民族について学習することが、“内なる国際化”や“多文化社会”など真に平和で民主的な社会を創ることと通じるものにする。**

中学校社会科で歴史的分野を学習する際、アイヌ民族について触れる機会は、

〈歴史的分野〉

「**中世の日本**」……武家政権の成立と東アジア世界との密接なかかわり
「**近世の日本**」……江戸幕府の鎖国政策と対外関係
「**近代の日本と世界**」…富国強兵・殖産興業政策と領土の画定

の３か所となります。この副読本を手元において、各時代を通して授業の中で活用して頂ければと思います。ただ、琉球も含めて学ぶことにもなりますので、時数的に余裕のない場合もあるかと思います。そのような際は、いずれかの時代で副読本を使って頂き、生徒の興味・関心を高めた上で配布頂ければと思います。

本書では、活用１について板書例を含めて指導展開例を詳しく示しましたので、是非各校で実践頂ければと思います。各校の教育課程や授業のスタイルに応じて、他の活用例を用いて副読本をお使い頂くことも可能かと思います。

また、歴史的分野以外の分野でも、以下のような使用も可能です。地域によっては、「総合的な学習の時間」の中で副読本を使われているところもあるようです。

〈地理的分野〉

「**都道府県の調査**」…北海道を取り上げる際に、アイヌ民族とのかかわりを歴史や文化の視点からテーマを設定し、もしくは多面的に追求することができる。

「**世界から見た日本のすがた**」…世界と日本の生活と文化において、沖縄の伝統的な生活・文化を取り上げるにあたり、これと対比させる形でアイヌ民族の生活・文化を取り上げることができる。

〈公民的分野〉

「**人間の尊重と日本国憲法**」…基本的人権の尊重という観点から、アイヌ民族への差別の問題を人間尊重と関連させて取り上げることができる。

また、国際人権規約や人種差別撤廃条約を取り上げ、国際的な視野からアイヌ民族への差別問題を考えさせることができる。

◆活用１　中世の歴史の流れをふまえた、アイヌの人たちがになう北東アジアの交易

★ねらい　中国から蝦夷地までの蝦夷錦の交易経路を考えることで、中世、アイヌの人たちの交易が東北アジアー帯のネットワークを形成していたことを理解する。

近世前期以前のアイヌ民族には、中国を中心とする北東アジアと日本とをつなげる役割があり、その中で独自の文化を形成していく。そのような歴史的流れの中にアイヌ民族と琉球があり、中国、朝鮮、そして日本などと東アジアの中でお互いに関連しあいながら歴史を歩んできたことを認識する必要がある。その点をふまえると、近現代のアジアがヨーロッパを中心とした世界に組み込まれていき、アジア世界と西洋のぶつかりあいが、アイヌ民族や琉球にも大きな影響を与える点が見えてくる。

蝦夷錦は、教科書では江戸時代の松前藩との関わりで記載されている。しかし、中世のアイヌ民族がすでに蝦夷錦を交易し、北方と日本を結ぶ役割を果たしていたことは、生徒にとっても新鮮な驚きであり、アイヌ民族の歴史の尊重につながるのではないだろうか。また、古代･中世･近世と歴史を経る中で、和人とアイヌ民族との接点が奥州藤原氏･津軽十三湊・蝦夷地松前藩と変遷し、北上している点にも注目したい。アイヌ民族は蝦夷地だけでなく、東北地方にも住んでいたことの理解にもつながる。



★活用１の指導展開例

☆発問･課題　なぜ中国の服をアイヌ民族の指導者が着ているのだろうか。中国から蝦夷地までの交易経路を考えよう。

☆展開例　①蝦夷錦を提示し、龍の絵柄から中国の服であることを紹介する。②蝦夷錦を着たアイヌ民族の指導者(p.18の資料は近世のものであるが）を提示し発問する。③この服が江戸や京都でもてはやされ蝦夷錦と呼ばれていたことから、アイヌ民族が中国と直接交易をしていたことを理解させる。④アイヌ民族の主な交易品がクロテンやアザラシ、ラッコなどの毛皮であったことから千島方面とも交易があったことを理解させる。⑤平安、鎌倉・室町、江戸とアイヌ民族と和人との接点が北上していったことを理解させる。⑥南方では琉球王国が、北方ではアイヌ民族が日本と対等な交易を行っていたことを整理し、感想を書かせる。

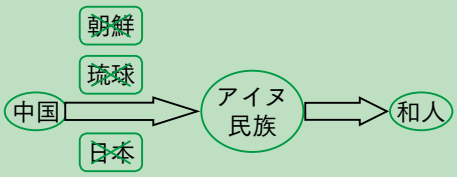
☆留意　蝦夷錦についてはp.17に、蝦夷錦を着たアイヌの指導者についてはp. 18に掲載。細かい史実にはこだわらず、東アジアの関係を大きく概観するようにする。平安時代の藤原氏には奥州藤原氏からアザラシの皮が、室町時代の足利義量には十三湊の安藤氏からラッコの皮30枚が、家康には蝦夷錦が松前の蛎崎氏から送られている。

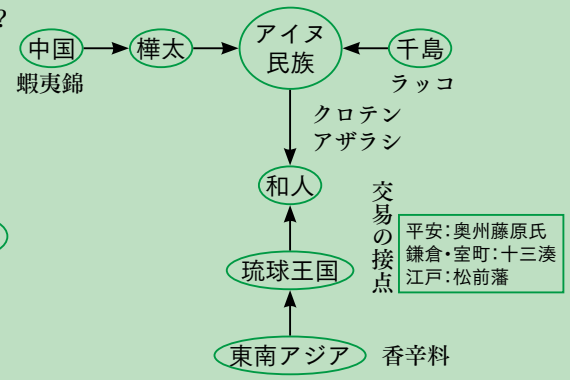
アイヌがになう北東アジアの交易

中国服とアイヌ民族の指導者　交易経路は？

長江下流域　杭州でつくられた絹織物









オルチャ語とニヴフ語
オルチャはアムール川の下流域に住む民族で、サハリンのウィルタ（昔はオロッコと呼ばれた）などと近いことばを話している。このことばのグループには、17世紀に清をたてた満州人の満州語も含まれる。ニヴフ（昔はギリヤークと呼ばれた）はサハリンに住む民族で、漁労を主な生業としている。ニヴフ語は、オルチャ語やウィルタ語とは違う。アイヌ語や日本語とも関係がないことがわかっている。

モンゴル帝国の成立とアイヌの人たち

13世紀のはじめにチンギス＝ハンがたてた**モンゴル帝国**は、またたく間にユーラシア大陸の大部分を領土にした。チンギス＝ハンの孫のフビライ＝ハーンの時代には、中国風に元というようになった。元は中国の南にあった南宋を滅ぼし、東アジアの海に進出しはじめた。1274年と1281年に、元の軍が博多湾に押しよせた蒙古襲来もそのひとつであったし、ジャワ島にも遠征軍を送っている。1264年からは、サハリンに進出し、骨嵬と戦っている。骨嵬とはアイヌの人たちのことであり、オルチャ語やニヴフ語など、サハリンやアムール川下流域に住む先住民族の言葉で、「アイヌ」を意味する「クギ」あるいは「クイ」という言葉に、音の近い漢字をあてたものである。

元は、サハリンに住んでいたニヴフの祖先を服属させた。その一方で、元の軍隊は、1264年から約40年間にわたって、北海道からサハリンへ北上してくるアイヌの人たちと何度か戦ったと、『元史』に書かれている。しかし、その戦いはそれほど規模の大きなものではなかったようである。元がニヴフとアイヌの人たちとの交易をやめさせようとしたために起きたと見られている。また、サハリンからは、擦文土器がほんの少ししか発見されていないので、アイヌの人たちは、13世紀には土器作りをしなくなっていたと考えられている。アイヌの人たちがサハリンに定住するようになったのは、13世紀から15世紀初頭までの間のことであろうと考えられているが、まだはっきりしていない。

図Ⅱ－2：モンゴル帝国・元の時代の地図。
赤い線はアイヌの人たちが使ったルート。間宮林蔵も同じルートを使った。

モンゴル帝国
モンゴル帝国は、武力でユーラシアを征服した恐われているが、実際には外交を通じて平和的に各地を従わせたことが多かったようである。14世紀のサハリンでは、アイヌの人たちが持ってくるオコジョの毛皮を小屋に入れておいて、野人といわれる人たちが持ってきた中国製品と交換するということが行われていた。野人というのは、アムール川の下流域やサハリンに住む、オルチャやウィルタの人たちと同じことばを話す人たちだったと考えられている。このように、アイヌの人たちと野人とは会わないで交易をしていた。このような方法を沈黙交易という。

写真Ⅱ－5：サンタンゴヌ地図
1809年に間宮林蔵が描いてアムール川を下り、ティルの丘を絵にかいた。1413年と1433年に建てられた2つの石碑が描かれている。

写真Ⅱ－6：ヌルガン都司が置かれたティル村
写真中央部が、永寧寺が建っていたティルの丘。19世紀までは2つの石碑もここに建っていた。

明のアムール川下流域への進出とアイヌの人たち

14世紀に明が成立して、元の勢力はモンゴル高原に退いた。明は、大きな船をつくってアムール川を下り、アムール川の下流域にヌルガン都司という役所を置いた。また、永寧寺という寺を建てて仏教を利用して先住民の人たちを支配しようとした。明は、アイヌの人たちと戦うことはなく、貢ぎものを取ることでアイヌの人たちを支配しようとした。同じ時期には、鄭和の艦隊がインド洋で活躍している。

しかし、15世紀の半ばになると、明は大艦隊を送ることはしなくなり、東アジアの海上交易は小さくなった。アムール川の下流域でも、明の朝貢交易はしだいに小さくなった。また、永寧寺が焼かれるなど、仏教を利用した明の統治は、先住民の人たちからは受け入れられなかった。

写真Ⅱ－7：1433年に建てられたヌルガン永寧寺碑。
現在はロシア連邦のウラジオストク市に移されている。ライが報賓に来たので、衣服などの品物を与えたということが石碑に刻まれている。

優遇　明の永楽帝は、各地に使節を派遣して、貢ぎ物を持ってくるように促した。日本からは室町幕府の足利義満の使節が、明に行き国交を開いた。これ以降、明と日本との間で勘合貿易が行われた。インド洋に派遣された鄭和の艦隊の一部は、アフリカにまで行き、キリンを中国に連れて行った。アムール川の下流域に行ったのは、鄭和の同僚のイシハが率いる軍隊であった。明の拡大政策は、1430年代まで続いた。14世紀に明が成立すると、モンゴル帝国や元の時代に許されていた自由な交易を、制限しようとした。そのため、15世紀には優遇という武装した海上交易者が海賊行為を行うようになった。優遇のなかには、日本人のほかに中国人や朝鮮人が加わっていた。

1. 中世の日本とアイヌ民族

〈資料〉　毛皮と蝦夷錦に関する記述

- 出羽国における摂関家領大曽祢庄の年貢として、水豹（アザラシ）５枚を京進すべきことを、左大臣藤原頼長に対して、藤原基衡（奥州藤原氏）が申し出ている。
- 1423年、安藤陸奥守が、室町幕府の将軍に就任した足利義量に祝儀としてラッコ皮30枚を贈り、将軍家が礼状を与えた礼状の控えが幕府側に書き留められている。
- 1593年、蛎崎慶広は、肥前名護屋で徳川家康に拝謁したが、身につけていた「唐衣」（蝦夷錦）を家康から褒められると、すぐさまこれを脱いで献上したと伝えられている。

（『アイヌの歴史と文化Ⅰ』榎森進編　2003年）

◆活用２　アイヌの人たちと交易

★ねらい　アイヌの人たちが北方民族や安藤氏とさかんに交易を行い、中国へ朝貢していたことを理解する

☆発問・課題

なぜ、アイヌの人たちは元と戦うことになったのだろうか。アイヌの人たちと東北地方や大陸の人たちとの関係をまとめてみよう。

☆留意

安藤氏がアイヌの人たちとの交易で栄えたこと(p.11･12)や、アイヌ民族と中国の関係(p.12･13)をおさえる。また和人とアイヌの人たちとの対立からコシャマインの戦い(p.14)が起こったことについても触れる。

◆活用１　近世の日本の歴史の流れをふまえた、和人によるアイヌ民族支配の進行

★ねらい　近世の日本を学習した後に、幕藩体制の確立、商品経済の拡大、欧米諸国の接近をふまえ、蝦夷地では幕府や松前藩、そして商人によるアイヌ民族の支配がどのようにして進んでいくのかを理解する。

大まかな歴史の流れは以下の通りである。

江戸以前	和人とアイヌ民族との関係は自由で対等であり、アイヌ民族の交易は、北東アジア一体のネットワークの一部を形成していた。
江戸前期	松前藩の成立により、アイヌ民族主体の交易が松前藩主体の交易に変わり、シャクシャインの戦いが起こるが、その後和人の優位が決定的となった。
江戸中期	商品経済・貨幣経済の拡大により商人が蝦夷地に進出し、場所請負制のもとでアイヌ民族をその働き手として用い、アイヌ民族本来の生活が困難になっていった。
江戸後期	欧米諸国の接近により、クナシリ・メナシの戦いの後、幕府はアイヌ民族の風俗を和人化しようと試み蝦夷地の直接支配に乗り出した。



◆活用２　幕府・松前藩によるアイヌ民族支配

★ねらい　松前藩の成立により、アイヌ民族主体の交易が松前藩主体の交易に変わったことを理解する。

☆発問・課題

松前藩がおかれる前と後のアイヌ民族の交易の様子の違いを読みとってみよう。

☆留意

中世の交易の様子は、p.10～13を参照。商場知行制がとられる理由を他の藩との比較から考えることもできる。アイヌ民族との交易の統制が、松前藩にとっては死活問題となること、それと同時にアイヌ民族の交易範囲が制限されたことを理解する。また、オムシャ(p.21)の様子から、和人とアイヌ民族の関係について読みとることができる。

◆活用３　アイヌ文化

★ねらい　狩猟・漁労や採集・交易の生活を行っていたアイヌ民族は、自然と共に生きる世界観を持っていたことを理解できる。

☆発問・課題

アイヌ民族の生活は、どのようなものだったのだろうか。

☆留意

アイヌ文化については、p.20・21を参照。キムンカムイ（クマ）、カムイチェプ（サケ）、コタンコロカムイ（シマフクロウ）などの呼び名から、カムイ（神）とのかかわりを見ることができる。アイヌ民族の文化については、小学生用の副読本に詳しく記載されている。

★活用１の指導展開例

☆発問・課題

いつから、どのようにしてアイヌの人たちは、支配されるようになったのだろうか。まとめてみよう。

☆展開例

①副読本を活用しながら、それぞれの時期についてまとめる。②幕藩体制、商品経済の拡大、ロシアの接近を通史と関連させながらおさえる。

☆留意

中世の交易の様子は、p.10～13を参照。商場知行制がとられる理由を他の藩との比較から考えることもできる。コンブやニシンの利用方法から商品経済の拡大に結びつける。身分制度のもとでアイヌの人たちが労働者になるのは商人が進出してから。今までの経緯と和人化との矛盾を、ロシアの接近に結びつけたい。

近世の日本とアイヌ民族

板書例

江戸以前　自由な交易・対等な関係

《江戸幕府》 ⇒ 《松前藩》 ⇒ 《家臣》
黒印状：交易を独占する権利　／　領地の代わりにアイヌの人たちと交易する権利

⇩ シャクシャインの戦い

江戸前期　和人が優位に

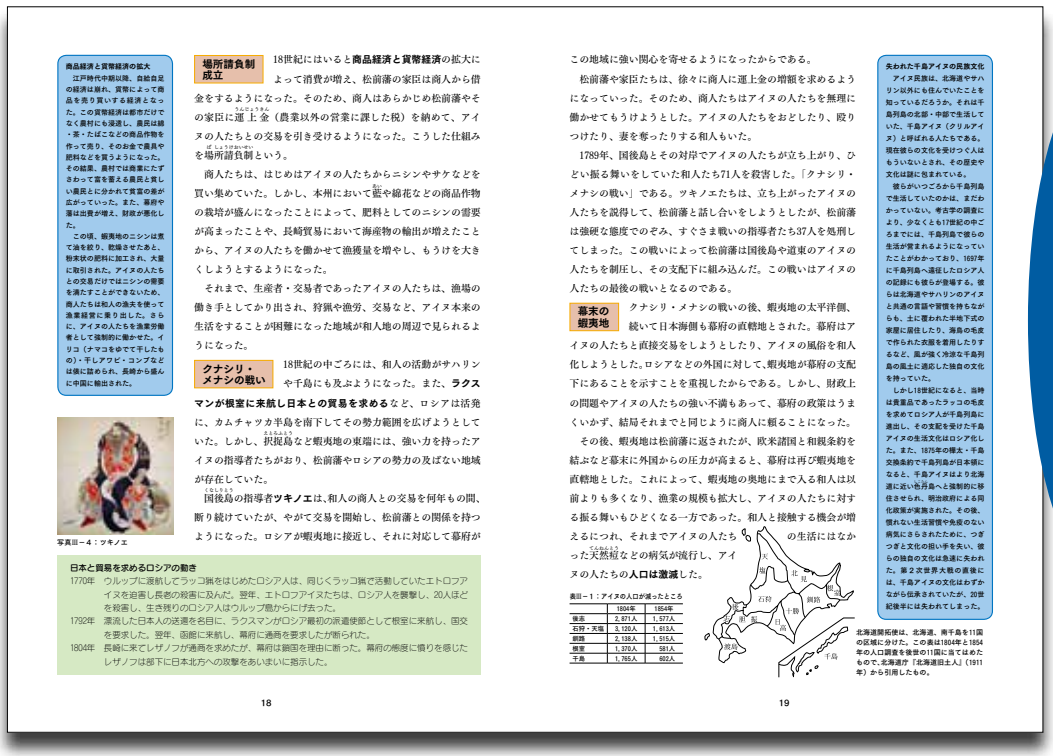
⇩ 商品経済の拡大

江戸中期　商人の進出…交易や漁業を請け負う

コンブ⇒長崎貿易
ニシン⇒肥料
サケ
} アイヌの人たちを働かせる

⇩ ロシアの接近
クナシリ・メナシの戦い

江戸後期　幕府が蝦夷地を直接支配
⇒　アイヌ民族の和人化



2. 近世の日本とアイヌ民族

商品経済と貨幣経済の拡大

江戸時代中期以降、自給自足の経済は崩れ、貨幣によって商品を売り買いする経済となった。この貨幣経済は都市だけでなく農村にも浸透し、農民は綿・茶・たばこなどの商品作物を作って売り、そのお金で農具や肥料などを買うようになった。その結果、農村では商業にたずさわって富を蓄える農民と貧しい農民とに分かれて貧富の差が広がっていった。また、幕府や藩は出費が増え、財政が悪化した。

この頃、蝦夷地のニシンは煮て油を絞り、乾燥させたあと、粉末状の肥料に加工され、大量に取引された。アイヌの人たちとの交易だけではニシンの需要を満たすことができないため、商人たちは和人の漁夫を使って漁業経営に乗り出した。さらに、アイヌの人たちを漁業労働者として強制的に働かせた。イリコ（ナマコを中でて干したもの）・干しアワビ・コンブなどは俵に詰められ、長崎から盛んに中国に輸出された。

写真Ⅲ－４：ウキノエ

日本と貿易を求めるロシアの動き

1770年　ウルップに渡航してラッコ猟をはじめたロシア人は、同じくラッコ猟で活動していたエトロフアイヌを迫害し長老の殺害に及んだ。翌年、エトロフアイヌたちは、ロシア人を襲撃し、20人ほどを殺害し、生き残りのロシア人はウルップ島からにげ去った。

1792年　漂流した日本人の送還を名目に、ラクスマンがロシア最初の派遣使節として根室に来航し、国交を要求した。翌年、函館に来航し、幕府に通商を要求したが断られた。

1804年　長崎に来てレザノフが通商を求めたが、幕府は鎖国を理由に断った。幕府の態度に憤りを感じたレザノフは部下に日本北方への攻撃をあいまいに指示した。

場所請負制成立

18世紀にはいると**商品経済と貨幣経済**の拡大によって消費が増え、松前藩の家臣は商人から借金をするようになった。そのため、商人はあらかじめ松前藩やその家臣に運上金（農業以外の営業に課した税）を納めて、アイヌの人たちとの交易を引き受けるようになった。こうした仕組みを場所請負制という。

商人たちは、はじめはアイヌの人たちからニシンやサケなどを買い集めていた。しかし、本州において藍や綿花などの商品作物の栽培が盛んになったことによって、肥料としてのニシンの需要が高まったことや、長崎貿易において海産物の輸出が増えたことから、アイヌの人たちを働かせて漁獲量を増やし、もうけを大きくしようとするようになった。

それまで、生産者・交易者であったアイヌの人たちは、漁場の働き手としてかり出され、狩猟や漁労、交易など、アイヌ本来の生活をすることが困難になった地域が和人地の周辺で見られるようになった。

クナシリ・メナシの戦い

18世紀の中ごろには、和人の活動がサハリンや千島にも及ぶようになった。また、**ラクスマンが根室に来航し日本との貿易を求める**など、ロシアは活発に、カムチャツカ半島を南下してその勢力範囲を広げようとしていた。しかし、択捉島など蝦夷地の東端には、強い力を持ったアイヌの指導者たちがおり、松前藩やロシアの勢力の及ばない地域が存在していた。

国後島の指導者**ツキノエ**は、和人の商人との交易を何年もの間、断り続けていたが、やがて交易を開始し、松前藩との関係を持つようになった。ロシアが蝦夷地に接近し、それに対応して幕府がこの地域に強い関心を寄せるようになったからである。

松前藩や家臣たちは、徐々に商人に運上金の増額を求めるようになっていった。そのため、商人たちはアイヌの人たちを無理に働かせてもうけようとした。アイヌの人たちをおどしたり、殴りつけたり、妻を奪ったりする和人もいた。

1789年、国後島とその対岸でアイヌの人たちが立ち上がり、ひどい振る舞いをしていた和人たち71人を殺害した。「クナシリ・メナシの戦い」である。ツキノエたちは、立ち上がったアイヌの人たちを説得して、松前藩と話し合いをしようとしたが、松前藩は強硬な態度でのぞみ、すさまじい戦いの指導者たち37人を処刑してしまった。この戦いによって松前藩は国後島や道東のアイヌの人たちを制圧し、その支配下に組み込んだ。この戦いはアイヌの人たちの最後の戦いとなるのである。

幕末の蝦夷地

クナシリ・メナシの戦いの後、蝦夷地の太平洋側、続いて日本海側も幕府の直轄地とされた。幕府はアイヌの人たちと直接交易をしようとしたり、アイヌの風俗を和人化しようとした。ロシアなどの外国に対して、蝦夷地が幕府の支配下にあることを示すことを重視したからである。しかし、財政上の問題やアイヌの人たちの強い不満もあって、幕府の政策はうまくいかず、結局それまでと同じように商人に頼ることになった。

その後、蝦夷地は松前藩に返されたが、欧米諸国と和親条約を結ぶなど幕末に外国からの圧力が高まると、幕府は再び蝦夷地を直轄地とした。これによって、蝦夷地の奥地にまで入る和人は以前よりも多くなり、漁業の規模も拡大し、アイヌの人たちに対する振る舞いもひどくなる一方であった。和人と接触する機会が増えるにつれ、それまでアイヌの人たちの生活にはなかった天然痘などの病気が流行し、アイヌの人たちの**人口は激減**した。

表Ⅲ－１：アイヌの人口が減ったところ

	1804年	1854年
後志	2,671人	1,577人
石狩・天塩	3,128人	1,613人
網路	2,138人	1,155人
根室	1,370人	581人
千島	1,785人	662人

北海道開拓使は、北海道、南千島を11国の区域に分けた。この表は1804年と1854年の人口調査を後世の11国に当てはめたもので、北海道庁『北海道旧土人』（1911年）から引用したもの。

失われた千島アイヌの民族文化

アイヌ民族は、北海道やサハリン以外にも住んでいたことを知っているだろうか。それは千島列島の北部・中部で生活していた、千島アイヌ（クリルアイヌ）と呼ばれる人たちである。現在彼らの文化を受けつぐ人はもういないとされ、その歴史や文化は謎に包まれている。

彼らがいつごろから千島列島で生活していたのかは、まだわかっていない。考古学の調査により、少なくとも17世紀の中ごろまでには、千島列島で彼らの生活が営まれるようになっていたことがわかっており、1697年に千島列島へ遠征したロシア人の記録にも彼らが登場する。彼らは北海道やサハリンのアイヌと共通の言語や習慣を持ちながらも、土に覆われた半地下式の家屋に居住したり、海鳥の毛皮で作られた衣服を着用したりするなど、風が強く冷涼な千島列島の風土に適応した独自の文化を持っていた。

しかし19世紀になると、当時は貴重品であったラッコの毛皮を求めてロシア人が千島列島に進出し、その支配を受けた千島アイヌの生活文化はロシア化した。また、1875年の樺太・千島交換条約で千島列島が日本領になると、千島アイヌはより北海道に近い色丹島へと強制的に移住させられ、明治政府による同化政策が実施された。その後、慣れない生活習慣や免疫のない病気にさらされたため、つぎつぎと文化の担い手を失い、彼らの独自の文化は急速に失われた。第２次世界大戦の直後には、千島アイヌの文化はわずかながら伝承されていたが、その記憶年には失われてしまった。

◆活用４　商品経済の拡大とアイヌ民族との関係

★ねらい　商品経済の拡大と、和人によるアイヌ民族支配の強化との関係を理解する。

☆発問・課題

商品経済の拡大は、アイヌの人たちにどのような影響を与えたのだろうか。

☆留意

本州で商品作物が大量に作られるようになることと蝦夷地で獲れるニシン（主に近畿へ）との関係や、長崎貿易と蝦夷地のコンブとの関係などと商人とアイヌ民族との関係を結びつける。商人の進出が、アイヌ民族の生活を大きく変えていくことに着目したい。

◆活用５　外国船の来航と蝦夷地との関係

★ねらい　アイヌ民族の風俗を和人化しようとする幕府の政策とロシアなどの外国の接近との関係を理解する。

☆発問・課題

なぜ幕府は、アイヌの人たちを和人化しようとしたのだろうか。

☆留意

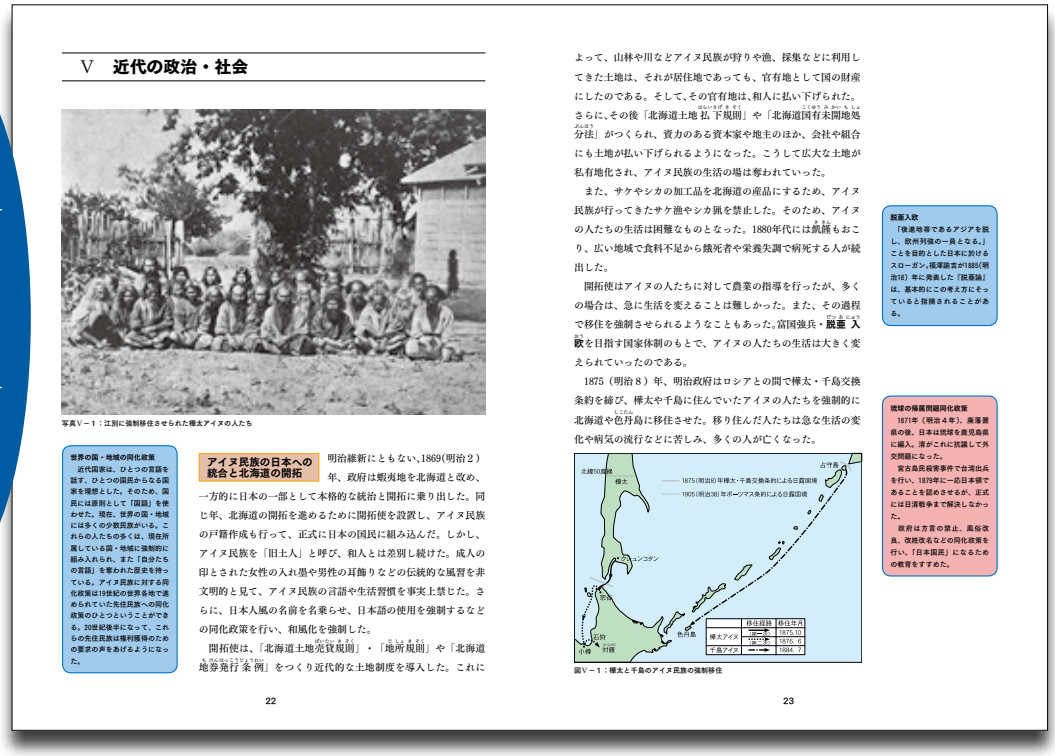
アイヌ民族に対する幕府の対応と琉球に対する明治政府の対応との共通性を外国との関係をふまえて理解する。屯田兵制度など、ロシアとの関係が明治時代に引き継がれていくことをおさえる。

◆活用例　生活を変えられたアイヌの人たち

★ねらい　同化と差別という二面性をもった新政府の対アイヌ政策によって、アイヌの人たちの生活は変えられ、明治以降、アイヌ文化が否定されたことを理解する。

日本の近代化政策のもとで、漁労、狩猟、採集を中心としたアイヌ民族の生活や文化が破壊され、民族の尊厳や誇りを奪われたのがこの時期である。同様なことは琉球王国や植民地支配を受けた台湾や朝鮮半島などでも行われた。その他被差別部落の人たちや在日韓国・朝鮮人などとともに、大きな差別問題となっていく。特にアイヌ民族に対しては、法的にも『旧土人』として位置づけられ、1997年まで北海道旧土人保護法が存続したことは事実である。この単元で十分な学習を行うことで、その後の植民地政策や公民での人権学習へとつなげることができる。是非、生徒の心情に迫る授業を展開したい。

3. 近代の日本とアイヌ民族



V　近代の政治・社会

写真V－1：江別に強制移住させられた樺太アイヌの人たち

世界の国・地域の同化政策
近代国家は、ひとつの言語を話す、ひとつの国民からなる国家を理想とした。そのため、国民には原則として「国語」を使わせた。現在、世界の国・地域には多くの少数民族がいる。これらの人たちの多くは、現在所属している国・地域に強制的に組み入れられ、また「自分たちの言語」を奪われた歴史を持っている。アイヌ民族に対する同化政策は19世紀の世界各地で進められていた先住民族への同化政策のひとつということができる。20世紀後半になって、これらの先住民族は権利獲得のための要求の声をあげるようになった。

アイヌ民族の日本への統合と北海道の開拓

明治維新にともない、1869(明治２)年、政府は蝦夷地を北海道と改め、一方的に日本の一部として本格的な統治と開拓に乗り出した。同じ年、北海道の開拓を進めるために開拓使を設置し、アイヌ民族の戸籍作成も行って、正式に日本の国民に組み込んだ。しかし、アイヌ民族を「旧土人」と呼び、和人とは差別し続けた。成人の印とされた女性の入れ墨や男性の耳飾りなどの伝統的な風習を非文明的と見て、アイヌ民族の言語や生活習慣を事実上禁じた。さらに、日本人風の名前を名乗らせ、日本語の使用を強制するなどの同化政策を行い、和風化を強制した。

開拓使は、「北海道土地売貸規則」・「地所規則」や「北海道地券発行条例」をつくり近代的な土地制度を導入した。これによって、山林や川などアイヌ民族が狩りや漁、採集などに利用してきた土地は、それが居住地であっても、官有地として国の財産にしたのである。そして、その官有地は、和人に払い下げられた。さらに、その後「北海道土地払下規則」や「北海道国有未開地処分法」がつくられ、資力のある資本家や地主のほか、会社や組合にも土地が払い下げられるようになった。こうして広大な土地が私有地化され、アイヌ民族の生活の場は奪われていった。

また、サケやシカの加工品を北海道の産品にするため、アイヌ民族が行ってきたサケ漁やシカ猟を禁止した。そのため、アイヌの人たちの生活は困難なものとなった。1880年代には飢餓もおこり、広い地域で食料不足から餓死者や栄養失調で病死する人が続出した。

開拓使はアイヌの人たちに対して農業の指導を行ったが、多くの場合は、急に生活を変えることは難しかった。また、その過程で移住を強制させられるようなこともあった。富国強兵・**脱亜入欧**を目指す国家体制のもとで、アイヌの人たちの生活は大きく変えられていったのである。

1875（明治８）年、明治政府はロシアとの間で樺太・千島交換条約を締び、樺太や千島に住んでいたアイヌの人たちを強制的に北海道や色丹島に移住させた。移り住んだ人たちは急な生活の変化や病気の流行などに苦しみ、多くの人が亡くなった。

図V－1：樺太と千島のアイヌ民族の強制移住

脱亜入欧
「後進地帯であるアジアを脱し、欧州列強の一員となる。」ことを目的とした日本に於けるスローガン。福澤諭吉が1885(明治18)年に発表した「脱亜論」は、基本的にこの考え方にそっていると指摘されることがある。

琉球の帰属問題同化政策
1871年（明治４年）、廃藩置県の後、日本は琉球を鹿児島県に編入。清がこれに抗議して外交問題になった。
宮古島民殺害事件で台湾出兵を行い、1879年に一応日本領であることを認めさせるが、正式には日清戦争まで解決しなかった。
政府は方言の禁止、風俗改良、改姓改名などの同化政策を行い、「日本国民」になるための教育をすすめた。

★指導展開例

☆発問・課題　漁労、狩猟、採集を中心としたアイヌの人たちの伝統的な生活は、現在はどうなっているのだろうか。アイヌの人たちの生活は、どのようにして変えられたのだろうか。

☆展開例　①漁労、狩猟、採集を中心としたアイヌ民族の伝統的な生活を確認する。②現在も伝統的な生活は行われているのか、また、なぜ変わってしまったのか発問する。③明治維新にともない、アイヌ民族は正式に日本国民に組み込まれたことを確認する。④アイヌ民族に対する同化政策と土地制度の導入によって生活の場が奪われていき、生活が困窮したことを確認する。⑤北海道旧土人保護法が制定されたが、アイヌ民族への農業の強制と伝統的なアイヌ文化を否定する教育がその主な内容であったことを確認する。⑥この法律が廃止される1997年まで、アイヌ民族は法律上、旧土人と位置づけられていたことを確認する。

☆留意　近世のアイヌ文化についてはp.20・21に、また、漁労、狩猟、採集など食生活については小学生用p.10・11に掲載。アイヌ民族に対する支配を学ぶことで、台湾、朝鮮などでの日本の植民地支配の学習につなげていきたい。

生活を変えられたアイヌ民族

板書例

アイヌ民族－漁労・狩猟・採集の生活　＋　農耕
（主）　（副）

〈開拓使の設置〉（1869年）

蝦夷地 ⟶ 北海道
アイヌ民族 ⟶ 日本国民
戸籍の作成

⟺ ロシア

○同化政策…伝統的な生活習慣やアイヌ語の禁止
日本人風の名前に
○アイヌ民族の土地の取り上げ

官有地（国有地）　と　民有地　に
サケ漁やシカ猟の禁止　和人

生活の場が奪われる

1899年　北海道旧土人保護法

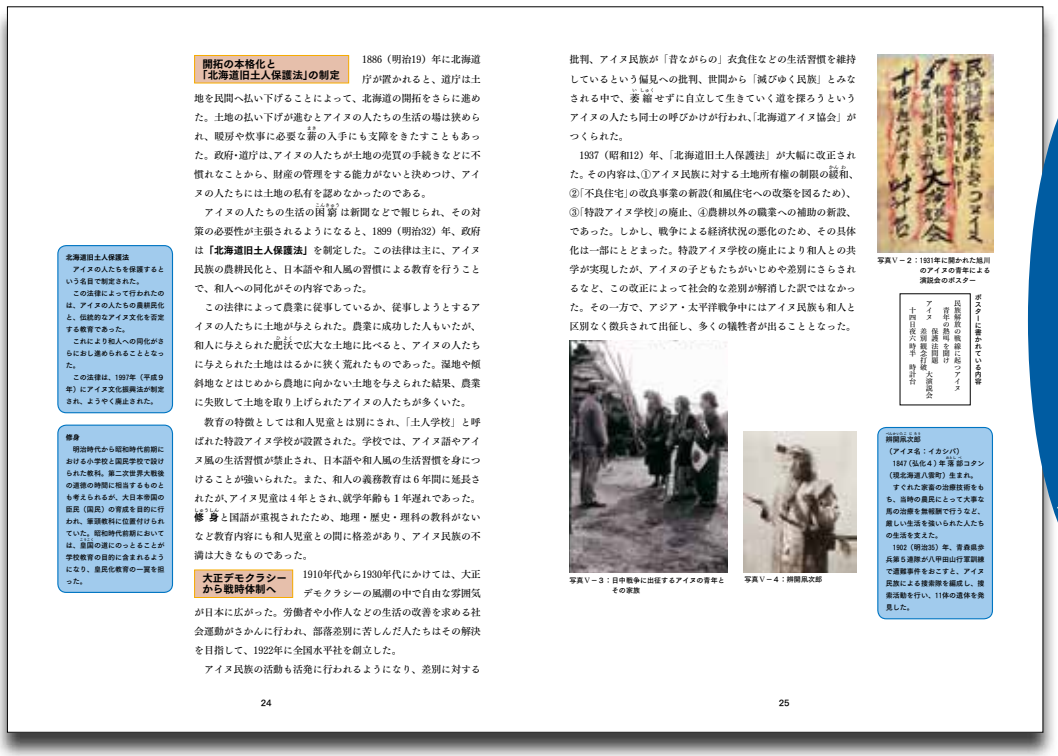
○農地や農具を与える
⇩
農業を強制

○特設アイヌ学校の設置
⇩
日本語の強制

生活が変えられる

文化を否定される

1997年　アイヌ文化振興法により廃止



開拓の本格化と「北海道旧土人保護法」の制定

1886（明治19）年に北海道庁が置かれると、道庁は土地を民間へ払い下げることによって、北海道の開拓をさらに進めた。土地の払い下げが進むとアイヌの人たちの生活の場は狭められ、暖房や炊事に必要な薪の入手にも支障をきたすこともあった。政府・道庁は、アイヌの人たちが土地の売買の手続きなどに不慣れなことから、財産の管理をする能力がないと決めつけ、アイヌの人たちには土地の私有を認めなかったのである。

アイヌの人たちの生活の困窮は新聞などで報じられ、その対策の必要性が主張されるようになると、1899（明治32）年、政府は**「北海道旧土人保護法」**を制定した。この法律は主に、アイヌ民族の農耕民化と、日本語や和人風の習慣による教育を行うことで、和人への同化がその内容であった。

この法律によって農業に従事しているか、従事しようとするアイヌの人たちに土地が与えられた。農業に成功した人もいたが、和人に与えられた肥沃で広大な土地に比べると、アイヌの人たちに与えられた土地ははるかに狭く荒れたものであった。湿地や傾斜地などはじめから農地に向かない土地を与えられた結果、農業に失敗して土地を取り上げられたアイヌの人たちが多くいた。

教育の特徴としては和人児童とは別にされ、「土人学校」と呼ばれた特設アイヌ学校が設置された。学校では、アイヌ語やアイヌ風の生活習慣が禁止され、日本語や和人風の生活習慣を身につけることが強いられた。また、和人の義務教育は６年間に延長されたが、アイヌ児童は４年とされ、就学年齢も１年遅れであった。**修身**と国語が重視されたため、地理・歴史・理科の教科がないなど教育内容にも和人児童との間に格差があり、アイヌ民族の不満は大きなものであった。

大正デモクラシーから戦時体制へ

1910年代から1930年代にかけては、大正デモクラシーの風潮の中で自由な雰囲気が日本に広がった。労働者や小作人などの生活の改善を求める社会運動がさかんに行われ、部落差別に苦しんだ人たちはその解決を目指して、1922年に全国水平社を創立した。

アイヌ民族の活動も活発に行われるようになり、差別に対する批判、アイヌ民族が「昔ながらの」衣食住などの生活習慣を維持しているという偏見への批判、世間から「滅びゆく民族」とみなされる中で、萎縮せずに自立して生きていく道を探ろうというアイヌの人たち同士の呼びかけが行われ、「北海道アイヌ協会」がつくられた。

1937（昭和12）年、「北海道旧土人保護法」が大幅に改正された。その内容は、①アイヌ民族に対する土地所有権の制限の緩和、②「不良住宅」の改良事業の新設（和風住宅への改築を図るため）、③「特設アイヌ学校」の廃止、④農耕以外の職業への補助の新設、であった。しかし、戦争による経済状況の悪化のため、その具体化は一部にとどまった。特設アイヌ学校の廃止により和人との共学が実現したが、アイヌの子どもたちがいじめや差別にさらされるなど、この改正によって社会的な差別が解消した訳ではなかった。その一方で、アジア・太平洋戦争中にはアイヌ民族も和人と区別なく徴兵されて出征し、多くの犠牲者が出ることとなった。

写真Ⅴ－２：1931年に開かれた旭川のアイヌの青年による演説会のポスター

ポスターに書かれている内容
見捨てられた民族と同じアイヌ
青年よ勇気を出せ
アイヌ　保護法改正期成　大演説会
十四日夜八時半　時計台

写真Ⅴ－３：日中戦争に出征するアイヌの青年とその家族

写真Ⅴ－４：幣開凧次郎

幣開凧次郎
（アイヌ名：イカシパ）
1847（弘化４）年厚岸コタン（現北海道八雲町）生まれ。
すぐれた家畜の治療技術をもち、当時の農民にとって大事な馬の治療を無報酬で行うなど、厳しい生活を強いられた人たちの生活を支えた。
1902（明治35）年、青森県歩兵第５連隊が八甲田山で軍訓練で遭難事件をおこすと、アイヌ民族による捜索隊を編成し、捜索活動を行い、11体の遺体を発見した。

北海道旧土人保護法
アイヌの人たちを保護するという名目で制定された。
この法律によって行われたのは、アイヌの人たちの農耕民化と、伝統的なアイヌ文化を否定する教育であった。
これにより和人への同化がさらにおし進められることとなった。
この法律は、1997年（平成９年）にアイヌ文化振興法が制定され、ようやく廃止された。

修身
明治時代から昭和時代前期においてある学校と国民学校で設けられた教科。第二次世界大戦後の道徳の時間に相当するものとも考えられるが、大日本帝国の臣民（国民）の育成を目的に行われ、筆頭教科に位置付けられていた。昭和時代前期においては、皇国の道にのっとることが学校教育の目的に含まれるようになり、皇民化教育の一翼を担った。

3. 近代の日本とアイヌ民族

〈資料〉 アイヌ民族であること－娘の選択（一部抜粋）

1988年４月末、雪もすっかり解けて、まもなく桜も開花というころにわたしは娘といっしょに札幌に引っ越してきた。わたしにとって、およそ20年ぶりの北海道での暮らしだった。

しかしわたし一人の稼ぎでは、食べていくのがやっとという経済状態で、そんな精神的負担が娘にも重くのしかかっていた。毎日が綱渡りのようなものだったのだから。

それでも、娘は娘なりに一生懸命やっていた。だが、貧しいことに加えて、アイヌ民族であるという理由で中学校で差別を受け、それにたえきれなくなって、１年あまりの札幌での暮らしにピリオドを打ち、東京に戻ってしまった。苦しいことの多かった札幌での暮らしは、娘にとって悪夢のようだったのだろう。北海道はわたしの故郷ではあっても、東京生まれの娘にとっての故郷ではなかったのである。傷つきやすい、小さな魂は一生懸命考えて、自分の道を探り、歩きはじめたのである。それ以来、わたしたちは別々に暮らしている。

差別の痛みを知らない人は、よく、差別に打ち勝つ強さを要求する。しかしこれはどう考えてもおかしい。いじめられる原因を引き起こしたわけでもないのに、アイヌ民族の血を引いているというだけで、いじめられてしまうのである。いじめる側の問題を問うこともなく、目をつむってしまう社会の不条理に怒りを感じる。

（『アイヌ文様刺繍のこころ』　チカップ美恵子　1994年　岩波書店）

♪　うたってみよう　♪

アイヌ民族の歌は、同じ題名の曲でも、地方や歌う人によってメロディーや歌詞が異なります。また、楽譜では書きあらわせない音がたくさんあります。あくまでも、みなさんが歌いやすく親しめるように、おおまかに書いてあります。音の高さや長さのめやすとして見てください。

数多くあるアイヌの人たちの歌の中から、いくつか紹介します。



クリムセ



オロ□ピンネ　オワヒヤ



チュプカワ　カムイラン



※ウコウク（輪唱）で歌う時は、最初に歌ったグループが②にきたら、次のグループが①から歌いはじめます。

フライェ　トゥキ



アイヌ資料を展示している博物館等

北海道内については100点以上のアイヌ資料を展示している博物館等を掲載した。

北海道内

函館市北方民族資料館
〒040-0053　函館市末広町21-７
℡0138-22-4128
http://www.zaidan-hakodate.com/hoppominzoku/

北海道博物館
〒004-0006　札幌市厚別区厚別町小野幌53-２
℡011-898-0456
http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/

サッポロピリカコタン
〒061-2274　札幌市南区小金湯27
℡011-596-5961
http://www.city.sapporo.jp/shimin/pirka-kotan/

北海道立アイヌ総合センター
〒060-0002　札幌市中央区北２条西７丁目
℡011-221-0462
http://www.ainu-assn.or.jp/

昭和新山アイヌ記念館
〒052-0102　壮瞥町昭和新山
℡0142-75-2053

のぼりべつクマ牧場・ユーカラの里
〒059-0551　登別市登別温泉町224
℡0143-84-2225　http://www.bearpark.jp/

一般財団法人アイヌ民族博物館
〒059-0902　白老町若草町２-３-４
℡0144-82-3914
http://www.ainu-museum.or.jp/

名寄市北国博物館
〒096-0063　名寄市字緑丘222
℡01654-3-2575

旭川市博物館
〒070-8003　旭川市神楽３条７丁目
℡0166-69-2004
http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/museum/

川村カ子ト アイヌ記念館
〒070-0825　旭川市北門町11丁目
℡0166-51-2461

平取町立二風谷アイヌ文化博物館
〒055-0101　平取町二風谷55
℡01457-2-2892
http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/

萱野茂・二風谷アイヌ資料館
〒055-0101　平取町二風谷79-４
℡01457-2-3215
http://www.geocities.jp/kayano_museum/index.html

帯広百年記念館
〒080-0846　帯広市緑ケ丘２　緑ケ丘公園内
℡0155-24-5352
http://www.museum-obihiro.jp

北海道立北方民族博物館
〒093-0042　網走市潮見309-１
℡0152-45-3888　http://hoppohm.org

苫小牧市美術博物館
〒053-0011　苫小牧市末広町３-９-７
℡0144-35-2550
http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/

新ひだか町アイヌ民俗資料館
〒056-0011　新ひだか町静内真歌７-１
℡01464-3-3094

シャクシャイン記念館
〒056-0011　新ひだか町静内真歌７-１
℡01464-2-6792

浦河町立郷土博物館
〒057-0002　浦河町西幌別273-１
℡01462-8-1342
http://www.town.urakawa.hokkaido.jp

幕別町蝦夷文化考古館
〒089-0563　幕別町千住114-１
℡0155-56-4899

網走市立郷土博物館
〒093-0041　網走市桂町１丁目１番３号
℡0152-43-3090

弟子屈町屈斜路コタン アイヌ民俗資料館
〒088-3351　弟子屈町字屈斜路市街１条通11
℡01548-4-2128

釧路市立博物館
〒085-0822　釧路市春湖台１-７
℡0154-41-5809
http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/

北海道外

国立歴史民俗博物館
〒285-8502　千葉県佐倉市城内町117
℡043-486-0123　http://www.rekihaku.ac.jp

アイヌ文化交流センター
〒104-0028　東京都中央区八重洲２丁目４-13
℡03-3245-9831

東京国立博物館
〒110-8712　東京都台東区上野公園13-９
℡03-5777-8600　http://www.tnm.jp/

野外民族博物館リトルワールド
〒484-0005　愛知県犬山市今井成沢90-48
℡0568-62-5611　http://www.littleworld.jp

松浦武四郎記念館
〒515-2109　三重県松阪市小野江町383番地
℡0598-56-6847
http://www.city.matsusaka.mie.jp

大阪人権博物館（リバティおおさか）
〒556-0026　大阪府大阪市浪速区浪速西３-６-36
℡06-6561-5891　http://www.liberty.or.jp/

国立民族学博物館
〒565-8511　大阪府吹田市千里万博公園10-１
℡06-6876-2151　http://www.minpaku.ac.jp/

天理大学附属天理参考館
〒632-8540　奈良県天理市守目堂250
℡0743-63-8414　http://www.sankokan.jp/

写真・資料提供（敬称略）

【小学生用】
写真１－１㈲さっぽろフォトライブ／写真１－２『蝦夷嶋図説』「ウリ乃図」函館市中央図書館／写真１－３東京国立博物館蔵　Image：TNM Image Archives Source：http://TnmArchives.jp/ ／写真１－４北海道大学植物園／写真１－５『蝦夷嶋図説』「アツトシカル乃図」函館市中央図書館／写真１－６『蝦夷嶋奇観』「タフカリ図」函館市中央図書館／写真１－８北海道大学植物園／写真１−10児玉マリ／写真１−11児玉マリ／写真１−12「はちまき」「脚絆」「ぼうし」北海道大学植物園／写真１−13『明治初期アイヌ風俗図巻』「鹿捕り」函館市中央図書館／写真１−14『蝦夷嶋奇観』「衡鮭図」函館市中央図書館／写真１−15一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−16幕別町蝦夷文化考古館／写真１−17幕別町蝦夷文化考古館／写真１−18幕別町蝦夷文化考古館／写真１−19北海道博物館アイヌ民族文化研究センター／写真１−20北海道博物館アイヌ民族文化研究センター／写真１−21一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−22一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−23北海道博物館アイヌ民族文化研究センター／写真１−24一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−25斜里町立知床博物館／写真１−26『蝦夷嶋図説』「シヤリキキタイチセの図」函館市中央図書館／写真１−27『蝦夷嶋図説』「トツプラツブキタイチセ乃図」函館市中央図書館／写真１−28『蝦夷嶋図説』「ヤアラキタイチセの図」函館市中央図書館／写真１−29一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−30上士幌アイヌ協会／写真１−31一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−32千歳アイヌ協会／写真１−33一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−34長谷川充／写真１−35北海道野生動物研究所／写真１−36一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−37一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−38一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−39一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−40一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−42白老民族芸能保存会／写真１−43一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−44『明治初期アイヌ風俗図巻』「熊祭後の大祝宴」函館市中央図書館／写真１−45一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−46公益社団法人北海道アイヌ協会／写真１−48帯広カムイトウウポポ保存会／写真１−50北海道大学植物園／写真１−52『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』草風館より転載／写真１−53一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−54市立函館博物館／写真１−56個人蔵／写真１−57『明治初期アイヌ風俗図巻』「土人のシヤコロベ語り」函館市中央図書館／写真１−58『蝦夷見聞誌』「ユウカルを語る図」北海道立文書館／写真１−59　1978年『サコロベの世界』札幌テレビ放送より転載／写真１−60　1995『カムイユカㇻ』片山言語文化研究所より転載／写真１−61一般財団法人アイヌ民族博物館／写真１−62ＮＰＯ法人知里森舎／写真２−１市立函館博物館／写真２−２上ノ国町教育委員会／写真２−３新ひだか町アイヌ民俗資料館／写真２−４『古代蝦夷風俗之図』北海道大学附属図書館／写真２−５根室市教育委員会／写真２−６『蠢動変態図』「アイヌの戦いのようす」北海道博物館／写真２−７公益財団法人松浦史料博物館／写真２−８『蝦夷嶋奇観』「ヘロコイキ図」函館市中央図書館／写真２−９「ゑぞ人うゑほうそうの図」函館市中央図書館／写真２−10北海道大学附属図書館／写真２−11複製写真：北大図書館撮影協力／写真２−12北海道大学附属図書館／写真２−13北海道大学附属図書館／写真２−14個人蔵／写真２−15北海道大学附属図書館／写真２−16草風館／写真２−17大阪人権博物館／写真２−18公益社団法人北海道アイヌ協会／写真２−19公益社団法人北海道アイヌ協会／写真３−１一般財団法人アイヌ民族博物館／写真３−２札幌アイヌ文化協会／写真３−３北海道新聞提供／写真３−６レラチセ／写真３−７個人蔵／写真３−８モシリ企画／写真３−９アイヌ・アート・プロジェクト／写真３−10川村則子／写真３−11結城幸司／写真３−12個人蔵／写真３−13『蝦夷国風図絵』一般財団法人アイヌ民族博物館／写真３−14写真提供・国際連合広報センター（ＵＮＩＣ）／
楽譜Ａ　舎川芽生・採譜／楽譜Ｂ　石黒文紀・採譜

【中学生用】
写真Ⅱ−１アーク・イメージギャラリー／写真Ⅱ−２五所川原市教育委員会／写真Ⅱ−３サンピアザ水族館／写真Ⅱ−４北海道博物館／写真Ⅱ−５間宮林蔵『東韃地方紀行』、独立行政法人国立公文書館／写真Ⅱ−６中村和之・撮影／写真Ⅱ−７中村和之・撮影／写真Ⅲ−１竹中さちこ／写真Ⅲ−２北海道博物館／写真Ⅲ−３市立函館博物館／写真Ⅲ−４公益財団法人松浦史料博物館／写真Ⅴ−１北海道大学附属図書館／写真Ⅴ−２大阪人権博物館／写真Ⅴ−３一般財団法人アイヌ民族博物館／写真Ⅴ−４櫛桁啓治
図Ⅱ−１　海保嶺夫、1987『中世の蝦夷地』吉川弘文館より転載／図Ⅱ−２　中村和之、1997「13〜16世紀の環日本海地域とアイヌ」『中世後期における東アジアの国際関係』より作図
図Ⅲ−１　海保嶺夫、1996『エゾの歴史』講談社より転載一部改変
図Ⅴ−１　海保嶺夫、1978『幕藩制国家と北海道』三一書房より作図
上記以外の写真・資料は当財団所蔵

デザイン：須田　照生
イラスト：鈴木　隆一　表紙、p.６〜７見開、p.26〜27想像図等

様式第１号

アイヌ生活文化再現マニュアル借用申込書

平成　　年　　月　　日

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構　理事長　様

申請者氏名　　㊞

〒　　－

住　　所

電話番号（　　）　　－

アイヌ生活文化再現マニュアルについて、下記のとおり借用を申し込みます。

貸出希望マニュアル名

※希望するタイトルに○を付けてください。

	建てる　祖先の時代のチセづくり		イオマンテ　熊の霊送り【料理編】
	綴る　イタオマチㇷﾟ		イオマンテ　熊の霊送り【儀礼編】
	織る　樹皮衣（アットゥシ）		イオマンテ　熊の霊送り【道具編】
	縫う　木綿衣		川漁　サケ・ヤマメ・シシャモ
	縫う　チェㇷﾟケリ、ユㇰケリ、トゥカリケリ		ペッカムイノミ　川神祭り―新しいサケを迎える儀礼
	彫る　小刀・山刀・盆		矢筒　イカヨㇷﾟ・イカヨピコㇿ
	編む　サラニㇷﾟ		クチャ　仮小屋
	編む　ゴザ		喫煙具　タンパクオㇷﾟ・ニキセリ　＊ＤＶＤのみ
	編む　タㇻ・エムシアッ		五絃琴　トンコリ　＊ＤＶＤのみ
	食べもの　春～夏		ヘカッタㇻシノッ　子どもたちの遊び　＊ＤＶＤのみ
	食べもの　秋～冬		装身具　マタンプシ・レクトゥンペ・テクンペ・ホシ・マンタリ　＊ＤＶＤのみ
	先祖供養　シンヌラッパ・イアレ		踊り　リムセ・ホリッパ〈阿寒・平取編〉　＊ＤＶＤのみ
	先祖供養　シンヌラッパ・イチャルパ		踊り　リムセ・ホリッパ〈帯広・様似・白糠編〉　＊ＤＶＤのみ
			踊り　ウポポ・ホリッパ・リムセ〈旭川・千歳・弟子屈編〉　＊ＤＶＤのみ

借用メディア

※希望するメディアにチェックしてください。

□ＶＨＳビデオテープ版　□ＤＶＤディスク版　□どちらでも良い

使用目的

借用希望期間

平成　　年　　月　　日（　）～　平成　　年　　月　　日（　）　　日間

マニュアル送付先

※上記申請者氏名、住所と同じ場合は記入不要

〒　　－

住　　所

申請者氏名

電話番号（　　）　　－

機構整理欄	適　用	申込受付	発送日	返却日
	年　月　日	年　月　日	年　月　日	年　月　日
	確認欄			

編集・執筆

アイヌ民族：歴史と現在（教師用指導書）編集委員会

委　員　長	阿　部　一　司	公益社団法人北海道アイヌ協会副理事長
副 委 員 長	岡　田　路　明	苫小牧駒澤大学教授
委員・執筆者	石　黒　文　紀	元北海道釧路明輝高等学校非常勤講師
委　　員	川　上　　淳	札幌大学文化学部長
委　　員	清　水　裕　二	少数民族懇談会会長
委員・執筆者	高　橋　吾　一	札幌市立北辰中学校教諭
委員・執筆者	平　山　裕　人	小樽市立高島小学校教諭
委　　員	古　俣　博　之	前白老町教育委員会教育長
委　　員	横　山　むつみ	ＮＰＯ法人知里森舎理事長
執　筆　者	吉　田　淳　一	幕別町立幕別小学校教諭
執　筆　者	若　月　美緒子	元小学校教諭

アイヌ民族：歴史と現在

－未来を共に生きるために－

【教師用指導書】

発行年月　2010年３月　初　版　第一刷

2016年７月　第六版　第一刷

発行　公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

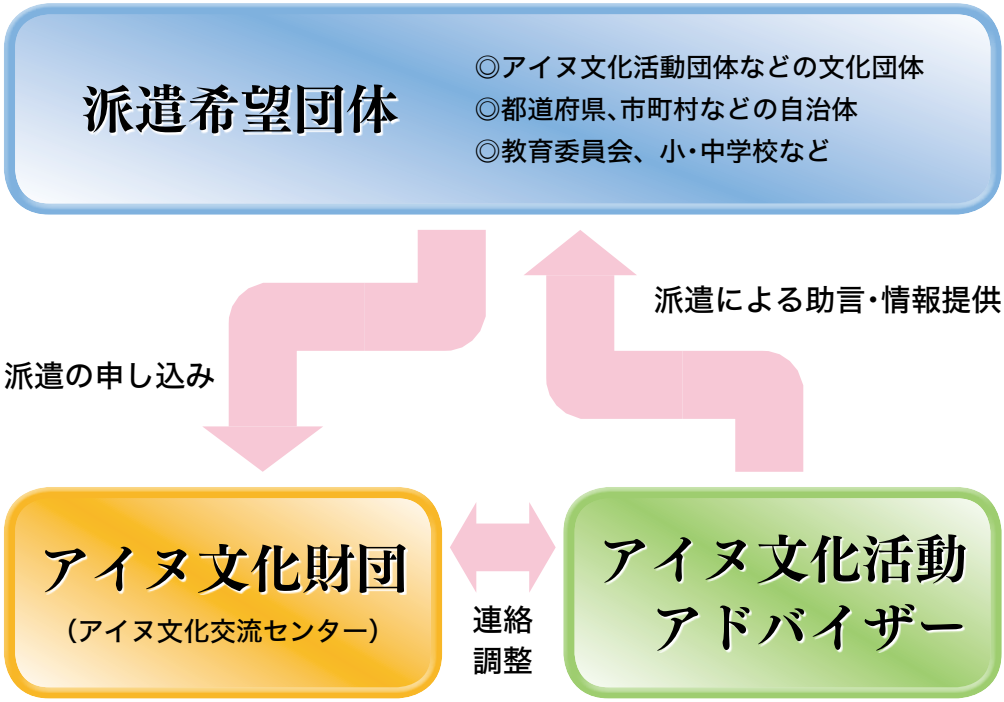
〒060-0001

札幌市中央区北１条西７丁目　プレスト１・７　５Ｆ

TEL　011-271-4171　FAX　011-271-4181

URL　http://www.frpac.or.jp　E-mail　ainu@frpac.or.jp

アイヌ文化活動アドバイザー派遣事業の流れ



派遣希望の分野および内容にそって、個別にアドバイザーの方々と連絡・調整します。

登録されている各アドバイザーのお名前や所在地、指導する分野を
ホームページ（http://www.frpac.or.jp）で公開しています。

